

令和7年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書



調布市教育委員会

災害に強いまちを目指して

次代を担う子どもたちを中心に，地域・家庭と一体となった防災教育を推進し，一人一人の防災意識の向上により，地域社会の防災力を高める。

目 次

第1章 令和7年度事業の概要

1-1 調布市防災教育の日とは	2
1-2 令和7年度事業の概要	4
1-3 令和7年度事業の総括	15

第2章 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

2-1 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の概要	18
2-2 訓練参加職員からの意見等について	22
2-3 保護者アンケート実施結果	49

第3章 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

3-1～20 小学校	76
3-21～28 中学校	96

〔資料〕

令和7年度 各学校実施内容（1～3校時）	106
----------------------------	-----

第1章

令和7年度事業の概要

ねらい 東日本大震災の教訓を忘れない

- ◎「命の尊さ」について学ぶ
- ◎「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童・生徒自身が自助、共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける
- ◎「地域と一体となった震災対応システム」を構築する



VR防災体験車体験（八雲台小学校）

1-1 調布市防災教育の日とは

平成23年3月11日に発生した東日本大震災がもたらした未曾有の被害に鑑み、調布市教育委員会においても、改めて自助意識の啓発や関係機関の連携を踏まえた全市的な対応の重要性を認識しました。

◆「調布市防災教育の日」の制定

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により多くの尊い生命が失われ、改めて「命の尊さ」について学ぶことや「自らの命は自らが守る」意識を高めて児童・生徒自身がそのための行動様式を身に付けていくことの重要性を認識しました。

このことから、調布市教育委員会では、平成24年2月に、調布市内のすべての児童・生徒が自助・共助の力を身につけるため、次の2点を目的に、毎年4月の第4土曜日を、「調布市防災教育の日」として定めました。

- ① 震災時の対応を学校の教育課程に明確に位置付け、防災教育を充実させていく
- ② 震災時対応シミュレーション(下記参照)の検証を行う

◆「調布市防災教育の日」の取組方針

調布市防災教育の日においては、児童・生徒に対する「命」の教育のほか、震災発生直後から学校関係者が行う初動対応や、地域の協力を得た避難所の開設と運営の訓練などを、学校と保護者・地域が一体となって、市立小・中学校全校で一斉に実施することとしました。

各校においては、次の3点を共通して取り組みます。

- ① 「命」の授業を1単位時間行う
- ② 防災に関する保護者・地域への啓発講話などを実施
- ③ 「震災時対応シミュレーション」の検証

◆震災時対応シミュレーションとは

震災時対応シミュレーションは、調布市立小・中学校28校において、学校の各施設や教職員の状況に応じ、発生後72時間（3日間）の対応事項を学校別に想定し、まとめたものです。

●発災想定

震災時対応シミュレーションでは、調布市において最も深刻な「多摩直下型の震度7の地震」の発生を想定し、発災想定時刻は、各学校の4校時授業中の「午前11時24分」としています。市内では倒壊家屋が多数発生し、京王線は運転を見合わせ、市内全域で電気・ガス・上下水道といったライフラインは全てダメージを受けて供給が停止、道路は損傷や渋滞で使用困難な状態です。

●震災時対応シミュレーションの構成

各校の震災時対応シミュレーションは、「学校現況等」（学校の周辺の施設や地理的特徴、学級数や生徒数などの学校概要、教職員のBCP（事業継続計画）想定状況、学区内の昼間・夜間人口数、避難所としての一時・長期収容可能人数、中学校においては生徒の奉仕活動の割当人数及び取組）、教職員の対応時に想定される「係分け」、1～3日目までの「対応シミュレーション」の3部で構成されています。

●想定される係(例)

全体責任者を校長とし、教職員は各係に分かれて対応します。シミュレーションでは、各係の担当教職員名を明記します。

▼係の例

①児童・生徒対応班	情報連絡係、避難誘導係、消火・巡視係、救護係、搬出係
②避難所支援班	総務・情報係、避難所係、物資係、救護・衛生係

▼震災時対応シミュレーションの例

市立第一小学校のシミュレーション 1 学校現況等 周辺環境： 調布駅近接。大型商業施設近接。甲州街道に隣接し、特別支援学級あり児童が多い大規模校。市役所からは一番近い小学校。電気通信大学や北多摩病院が近くにある。 学校概要： 19クラス、児童655人、特別支援学級固定学級3クラス19人、通級（きこえとことば）3クラス、都職員（教員・事務）38人、市職員（栄養士・給食調理員・業務員）5人。 教職員対応： 教職員自身の子どもの引き取り、家族救護等やむを得ず1日目の終業時間後に帰宅することを想定する（40%減、38人→23人）なお、帰宅した職員については、各職場で事前に状況を把握し、交代で出勤する体制を組む。 学区区域人口： 昼間人口約36,000人、夜間人口約20,000人 収容可能人数： 一時収容 966人、長期滞在 483人（地域防災計画による）		・避難所に使用するスペース ・避難者の誘導 ・ボランティアの組織化 ・立ち入り禁止区域の指定 ・避難所生活のルール策定 ◎ —																											
2 想定される係（全体責任者：校長） 児童対応班（責任者：生活指導主幹） ◎は係の責任者 <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当</th><th>業務内容</th><th>担当者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報連絡係</td><td>人的・物的被害その他の異常事態を各係から報告を受け、校長及び災害対策教育部へ連絡する。その他、災害に係る情報を収集し、関係者に連絡する。</td><td>—</td></tr> <tr> <td>避難誘導係</td><td>校庭（体育館）に避難誘導に当たる。広域避難所までの避難経路の確認を行う。児童の引渡しを行う。行方不明の児童の捜索を消火・巡視係に依頼する。</td><td>◎ —</td></tr> <tr> <td>消火・巡視係</td><td>校舎の被害の確認、行方不明の児童の捜索、初期消火、火元の遮断、出火防止対策、火災の警戒、ガス、水道等の元栓や理科薬品保管等の点検を行い、点検結果等を情報連絡係に連絡する。</td><td>◎ —</td></tr> <tr> <td>救護係</td><td>養護教諭を中心とする。救急薬品の確保、軽傷者への救急措置に当たる。重傷者については、応急手当を行い、災害対策本部、医療機関、医療救護所又は仮救護所に速やかに連絡をとるよう情報連絡係に指示する。心のケアへの対応をする。</td><td>◎ —</td></tr> <tr> <td>搬出係</td><td>重要文書の搬出。校舎内での火災や校舎への延焼のおそれがある場合は、非常持ち出し品を搬出し、管理する。なお、非常持ち出し品を搬出する事態が生じない場合は、他の係への応援要員とする。</td><td>◎ —</td></tr> </tbody> </table> 避難所支援班（責任者：副校長） <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当</th><th>業務内容</th><th>担当者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総務・情報係</td><td>・避難所運営本部設置場所の決定 ・情報の収集、整理、確認及び伝達 ・避難者名簿の作成、整理、管理</td><td>—</td></tr> <tr> <td></td><td>・避難所運営連絡会の設定 ・避難所内の情報提供場所の設置 ・市災害対策本部との連絡調整</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>		担当	業務内容	担当者	情報連絡係	人的・物的被害その他の異常事態を各係から報告を受け、校長及び災害対策教育部へ連絡する。その他、災害に係る情報を収集し、関係者に連絡する。	—	避難誘導係	校庭（体育館）に避難誘導に当たる。広域避難所までの避難経路の確認を行う。児童の引渡しを行う。行方不明の児童の捜索を消火・巡視係に依頼する。	◎ —	消火・巡視係	校舎の被害の確認、行方不明の児童の捜索、初期消火、火元の遮断、出火防止対策、火災の警戒、ガス、水道等の元栓や理科薬品保管等の点検を行い、点検結果等を情報連絡係に連絡する。	◎ —	救護係	養護教諭を中心とする。救急薬品の確保、軽傷者への救急措置に当たる。重傷者については、応急手当を行い、災害対策本部、医療機関、医療救護所又は仮救護所に速やかに連絡をとるよう情報連絡係に指示する。心のケアへの対応をする。	◎ —	搬出係	重要文書の搬出。校舎内での火災や校舎への延焼のおそれがある場合は、非常持ち出し品を搬出し、管理する。なお、非常持ち出し品を搬出する事態が生じない場合は、他の係への応援要員とする。	◎ —	担当	業務内容	担当者	総務・情報係	・避難所運営本部設置場所の決定 ・情報の収集、整理、確認及び伝達 ・避難者名簿の作成、整理、管理	—		・避難所運営連絡会の設定 ・避難所内の情報提供場所の設置 ・市災害対策本部との連絡調整	—	・防災備蓄用品の管理、配給 ・飲料水、生活用水の確保、配給 ・仮設トイレの確保・設置 ・トイレ、ごみ集積場の清掃 ・救護物資の受入れ、整理、管理、配給 ・炊き出し ・トイレ用木の確保 ・衛生管理 ・PTSDへの対応 ◎ —
担当	業務内容	担当者																											
情報連絡係	人的・物的被害その他の異常事態を各係から報告を受け、校長及び災害対策教育部へ連絡する。その他、災害に係る情報を収集し、関係者に連絡する。	—																											
避難誘導係	校庭（体育館）に避難誘導に当たる。広域避難所までの避難経路の確認を行う。児童の引渡しを行う。行方不明の児童の捜索を消火・巡視係に依頼する。	◎ —																											
消火・巡視係	校舎の被害の確認、行方不明の児童の捜索、初期消火、火元の遮断、出火防止対策、火災の警戒、ガス、水道等の元栓や理科薬品保管等の点検を行い、点検結果等を情報連絡係に連絡する。	◎ —																											
救護係	養護教諭を中心とする。救急薬品の確保、軽傷者への救急措置に当たる。重傷者については、応急手当を行い、災害対策本部、医療機関、医療救護所又は仮救護所に速やかに連絡をとるよう情報連絡係に指示する。心のケアへの対応をする。	◎ —																											
搬出係	重要文書の搬出。校舎内での火災や校舎への延焼のおそれがある場合は、非常持ち出し品を搬出し、管理する。なお、非常持ち出し品を搬出する事態が生じない場合は、他の係への応援要員とする。	◎ —																											
担当	業務内容	担当者																											
総務・情報係	・避難所運営本部設置場所の決定 ・情報の収集、整理、確認及び伝達 ・避難者名簿の作成、整理、管理	—																											
	・避難所運営連絡会の設定 ・避難所内の情報提供場所の設置 ・市災害対策本部との連絡調整	—																											

1日目

時間	状況	調布市の対応	児童への対応	避難所対応
11:24	多摩直下型地震7の地震発生。例。震度4の揺れ。京王線運転見合わせ。市内全域で電気・ガス・上下水道供給停止。道路は通行不能又は渋滞。	市民に対し、防災行政無線で、地震の情報、火元の確認を周知する（総合防災安全課）	《学級担任》 ①児童に防災頭巾を被らせ机の下へ避難など安全確保（1次避難） 《消火・巡視係》 ①給食調理員は、給食室の火気の安全を確認し所定の役割担当に従事	避難所運営 →震災初期段階では、教職員が中心的な役割を担う（地域防災計画・学校防災マニュアル） ※学校長を学校災害本部長とし、生活指導主任・学級担任26人で保護者の引き取りまで児童対応。避難所開設・運営は副校長ほか11人と市職員5人で従事
			《避難誘導係》 ①伊東・高野教諭は体育館の安全確認。その後、一旦体育館に避難（2次避難） 《救護係》 ①廣瀬教諭は児童の負傷状況の状況確認。応急処置	学校と地域 →避難所運営は、避難者と地域の協力を得て実施。 備蓄品と機材の確認 →日頃から教職員全員が備蓄品と備蓄庫（校庭南側・体育倉庫棟）の機材の所在を把握しておく

役割分担の確認

→学校は、児童の安全確保体制、避難所開設体制がとれるよう役割分担しておく

1-2 令和7年度事業の概要

令和7年度の調布市防災教育の日は、令和7年4月26日土曜日に実施しました。事業開始から14年目、13回目(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため、中止)となっていることから、本事業への理解が学校関係者、保護者、地域住民等へ広がっています。

令和7年度は、昨年発生した能登半島地震、南海トラフ地震臨時情報や、本年が阪神・淡路大震災から30年の節目であることを踏まえ、あらためて大震災の教訓の風化防止、備えに対する意識の向上につなげるため、関係機関との連携強化、体験活動の充実、避難所体験の対象学年の拡大などに取り組みました。

◆令和7年度事業における事業概要

1 実施日・場所

令和7年4月26日(土)

市立全小・中学校28校、大町スポーツ施設(市統一テーマ訓練のみ)

2 事業概要等

(1) 事業概要

時間	(1) 学校教育活動(小学校例)	(2) 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」
8:45	1校時 防災啓発講話 (保護者・地域へ公開)	
9:30		
9:45	2校時「命」の授業 (保護者・地域へ公開)	9:45 市職員・地域の方集合 ・一日の流れの確認
10:30		避難所開設訓練 ・避難スペース設置、避難所受付準備 ・避難所体験の準備 等
10:45	3校時 安全指導 11:00 発災	
11:00	避難訓練 引取訓練 ・校庭への避難 ・講評(校長・副校長) ・保護者による引取	
11:20	下校 避難所体験 (小学校4～6年生の児童・中学校全生徒とその保護者)	避難所体験 (小学校4～6年生の児童・中学校全生徒とその保護者) ・避難所受付、備蓄品、避難スペースなどの確認・体験
12:00		意見交換(訓練振り返り、課題抽出等) 片付け・終了報告
13:15		訓練終了

(2) 学校教育活動

ア「命」の授業・防災啓発講話

児童・生徒に命の尊さを学び、「自らの命は自らが守る」意識を高める「命」の授業を、保護者・地域の方などを対象に、公開で実施しました。また、調布消防署・調布警察署の職員による参加・体験型授業、釜石市の実家が津波被害に遭った教育委員会会計年度任用職員による防災啓発講話等を実施しました。

▼119番通報訓練（救急）（第三小学校）



▼防災教育 VR「B-VR（ビーバー）」（東京消防庁）を活用した授業（布田小学校）



▼「命の授業」：机の下に身を隠す練習（若葉小学校）



▼釜石市の実家が津波被害に遭った教育委員会会計年度任用職員の講話（第四中学校）



イ 避難訓練・引取訓練

全学年一斉に避難訓練を実施し、校庭への避難後、校長・副校長から避難訓練の講評がありました。また、各学校から保護者宛に「すぐーる（調布市学校安全・安心情報配信システム）」を用いて引渡し時刻等を周知のうえ、保護者による引取訓練を実施し、多くの保護者の方に御参加いただきました。

▼校庭への避難訓練（国領小学校）



▼校庭への避難訓練（第六中学校）



(3) 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

訓練テーマを「避難所開設訓練」と題し、避難所開設時に各学校避難所に参集する市職員及び地区協議会*等の地域の方（自治会・地域学校協働本部*のコーディネーター・調布市防災市民組織*含む。）との協働により、令和元年東日本台風（以下、令和元年台風19号と表記）における避難所開設時の課題を踏まえた訓練を行いました。令和7年度は、「避難所体験」の対象者を小学校4～6年生の児童・中学校全生徒及びその保護者に拡充し体育館で実施（参加者数3633人（児童・生徒2014人、保護者1485人、その他134人））しました。

【訓練内容】

校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法の確認、建物利用調査、図上訓練（避難所利用計画図*）、防災備蓄倉庫確認、避難所体験、防災行政無線送受信訓練、要請物資の入力訓練 等

【訓練参加者数】

947人（市職員481人、教員83人、地域住民383人）

▼開錠・施錠方法確認（校門）



▼防災備蓄倉庫確認



▼避難所体験



▼防災行政無線送受信訓練



*地区協議会：地区協議会は、小学校の学区をエリアとして、地域で活動する自治会や学校関連団体などにより構成されたネットワーク組織で、令和7年8月現在、市内全20の小学校区中、19の小学校区に設立されている。防災については、特に全地区共通の課題として捉えられており、避難所運営マニュアルの策定や、調布市防災教育の日における協力など、積極的な取組がなされている。

*地域学校協働本部：学校支援活動をはじめとして、幅広い地域住民等の参画を得ながら、「学校を核とした地域づくり」を目指すための仕組み。調布市では、令和3年4月に全小・中学校で「地域学校協働本部」を設置し、今まで以上に学校と地域人材が組織的に結びつき、学校教育に参加できるよう体制を整備した。

*調布市防災市民組織：自治会やマンション管理組合等の下部組織として、災害時の被害防止・軽減に係る活動と防災意識の啓発活動を行い、自助・共助の取組を推進していただく団体。「自分たちのまちは自分たちで守る」を基本理念として、市内各地域において活躍されている。

*避難所利用計画図：避難者の避難場所や動線を示したものの。地域の方々との意見交換等を踏まえ、改善を進めている。

3 連携・協働の取組について

(1) 調布消防署との連携

調布消防署には、初年度の平成24年度から地域・保護者への啓発講話の講師等をお願いしています。

輪番校として定める5校（第二小学校、第三小学校、八雲台小学校、神代中学校、第五中学校）に対して、署員並びにVR防災体験車、まちかど防災訓練車、起震車等を派遣していただき、参加・体験型の授業を実施していただきました。

また、地震をテーマに小学校低学年、中学年、高学年・中学生向けに分けて作成いただいた防災啓発講話（録画）を、実施希望校（11校）において視聴しました。

▼起震車体験訓練（第二小学校）



▼VR防災体験車による被災疑似体験（八雲台小学校）



▼煙体験訓練（神代中学校）



▼まちかど防災訓練車による消火体験（第五中学校）



(2) 調布警察署との連携

調布警察署には、平成26年度から、防災講話の講師等をお願いしています。

令和7年度は、輪番校として定める1校（第三中学校）に対して、防災啓発講話における講師として署員の方を派遣していただきました。

▼防災啓発講話聴講の様子（第三中学校）



▼防災啓発講話聴講の様子（第三中学校）



(3) 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所との連携

水害をテーマに小学校低学年，中学年，高学年，中学生向けに分けて作成していただいた防災啓発講話（録画）を，実施希望校（10校）において視聴しました。

▼防災啓発講話視聴の様子（染地小学校）



▼防災啓発講話視聴の様子（柏野小学校）



(4) 東京都都市整備局市街地建築部建築企画課耐震化推進担当との連携

東京都の職員による耐震出前授業として，若葉小学校の6年生を対象に，地震のメカニズムや耐震性の重要性などについて講義いただき，紙ぶるる（ペーパークラフト教材）を活用した簡易模型作成体験後，模型加震実験を実施いただきました。

▼簡易模型作成体験の様子（若葉小学校）



▼簡易模型作成体験の様子（若葉小学校）



(5) 鹿島建設株式会社 技術研究所との連携

調布スマートシティ協議会の会員団体である鹿島建設株式会社技術研究所の方々に御協力をいただき，同協議会の活動として，多摩川小学校の5・6年生を対象に，水害のリスクや多摩川の特徴についての講義，水害についてのクイズなどを児童のタブレットを使用し，実施いただきました。

▼授業の様子（多摩川小学校）



▼授業の様子（多摩川小学校）



(6) 東日本電信電話株式会社(現NTT東日本株式会社) 東京武蔵野支店との連携

調布スマートシティ協議会の会員団体であり、市と「活力ある持続可能なまちの実現に向けた多分野連携協定」を締結している東日本電信電話株式会社(現NTT東日本株式会社)東京武蔵野支店の方々に御協力をいただき、第二小学校の6年生を対象に、特設公衆電話を使用した災害用伝言ダイヤル(171)などが体験できる授業を実施いただきました。

▼特設公衆電話を使用する様子(第二小学校)



▼動画視聴の様子(第二小学校)



(7) 地域との協働(市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の実施)

地区協議会等の地域の方(令和4年度から地域学校協働本部のコーディネーター及び防災市民組織の方も参加)と市職員が協働で訓練を実施しました。当日は、市立小・中学校全校及び大町スポーツ施設を会場として、校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法の確認、防災行政無線送信・受信訓練、LOGフォームを用いた要請物資入力訓練、体育館での避難所体験等を実施しました。

▼地域との協働による訓練(八雲台小学校)



▼地域との協働による訓練(飛田給小学校)



▼地域との協働による訓練(国領小学校)



▼地域との協働による訓練(布田小学校)



(8) NPO法人調布心身障害児・者親の会との協働

NPO法人調布心身障害児・者親の会の方々に、調布中学校・第六中学校で実施した避難所開設訓練に参加していただき、地域の方や市職員と協働で訓練を実施し、意見交換では、災害時避難行動要支援者の立場から御意見をいただきました。

▼避難所体験準備の様子（調布中学校）



▼避難所体験準備の様子（調布中学校）



(9) 一般財団法人調布市市民サービス公社との協働

市職員（福祉健康部）が実施する福祉避難所開設訓練に、災害時協定を締結している一般財団法人調布市市民サービス公社の方々も参加していただき、入間地域福祉センター・調布ヶ丘地域福祉センターにおいて、福祉避難所開設の流れ確認、防災行政無線の通信訓練などを実施しました。

▼折畳みベッド設営の様子



▼施設利用計画策定の様子



(10) 市内都立・私立学校との連携

市内都立・私立学校の7校に御協力いただき、防災教育の日と連携した取組として避難訓練等を実施いただきました。なお、市内都立・私立学校における取組は、防災教育の日と同日の4月の第4土曜日に限らず、周辺の日程で実施いただきました。

▼訓練等の概要（人）

実施校	訓練の概要	参加者数
東京都立調布北高等学校	第1学年生徒を対象に、避難訓練、放水訓練を実施（4月30日実施）	239
東京都立調布南高等学校	生徒及び教職員を対象に火災を想定した避難訓練を実施（4月23日実施）	746
東京都立神代高等学校	【全日制】 生徒及び教職員を対象に地震を想定した避難訓練、火災旋風・フェイクニュースについての講話を実施（5月14日実施） 【定時制】 生徒及び教職員を対象に、地震を想定した避難訓練を実施（5月1日実施）	1,072
明治大学付属明治高等学校・明治中学校	中学生、高校生及び教職員を対象に、震度6の地震が発生した後、美術室からの出火を想定した避難訓練を実施（4月15日実施）	1,427
晃華学園中学校高等学校	11時20分に地震が発生した想定で避難訓練を中学校及び高校合同で実施。避難訓練では、避難経路・避難手順の確認後、点呼・講評を実施（5月13日実施）	900
桐朋女子中学校・高等学校	桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校、桐朋学園芸術短期大学の生徒、学生、教職員が参加して避難訓練を実施。避難訓練後には、調布消防署つつじヶ丘出張所職員による講評を実施（6月4日実施）	2,000
ドルトン東京学園中等部・高等部	令和7年度内に実施予定	
計		6,384

▼放水訓練（東京都立調布北高等学校）



▼避難訓練（東京都立調布南高等学校）



▼避難訓練（東京都立神代高等学校）



▼避難訓練（明治大学付属明治高等学校・明治中学校）



▼避難訓練（桐朋女子中学校・高等学校）



(11) 市長部局各部との連携

初動要員^{*}、避難所担当職員^{*}、学校避難所対応職員^{*}、避難所担当管理職員が各小・中学校及び大町スポーツ施設において市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」を実施しました。また、令和7年度新規採用の職員等が市統一テーマ訓練に参加し、訓練後には、消防大学校において調布市消防団の地域防災に関する訓練に参加しました。

***初動要員：**休日・夜間時に災害が発生した際、市災害対策本部設置までの間の情報収集と応急対策活動を展開するための体制として、市内に居住する職員の一部を、初動要員（初動本部員及び避難所初動要員）として指定しており、担当する避難所（学校）の防災備蓄倉庫の鍵を保持している。

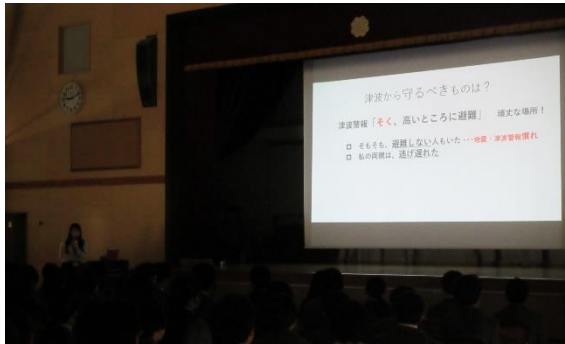
***避難所担当職員：**開庁時に災害が発生した際や避難を要する期間が長期にわたる場合に、避難所の開設・運営を行う職員として、避難所担当部（市民部・子ども生活部・教育部）内において指定している。

***学校避難所対応職員：**避難所（学校）の体制強化を図るため、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員（正規・再任用職員の用務員・給食調理員・栄養士及び教育部教育総務課雇用の会計年度任用職員（用務員・給食調理員・事務））を学校避難所対応職員として指定（令和5年度から教育部学務課雇用の会計年度任用職員（学校栄養士専門員・技能補助員（応援給食調理員））を追加）している。

(12) 社会教育施設における取組(東部公民館)

第四中学校において、釜石市の実家が津波被害にあった教育委員会会計年度任用職員の岩館聖恵氏を講師として招き、「津波にあった家族と故郷「釜石市」～東日本大震災を振り返って～」をテーマに防災啓発講話を実施いただきました。講演会実施後は、「調布四中作文展」(令和7年5月11日(日)～6月1日(日))を東部公民館内で開催し、講演会終了後に生徒が書いた作文・講演会資料等を展示し、多くの市民の方にご覧いただきました。

▼講演会の様子



▼講演会の様子



▼「調布四中作文展」の様子



▼「調布四中作文展」の様子



(13) その他

フードロスの観点や児童・生徒への防災教育の一環として、防災備蓄倉庫にある今年度入替予定のアルファ化米を防災教育の日前後の日程において市立小・中学校全校の給食で提供しました。また、深大寺小学校の児童が、災害時を想定し、アルファ化米の調理・喫食を体験しました。

▼給食の様子(鮭茶漬け(アルファ化米「わかめご飯」使用)) (富士見台小学校)



▼災害時の備蓄食料「アルファ化米」調理・喫食体験の様子(深大寺小学校)



◆参加者数の推移

▼平成24年度（実施初年度）及び平成30～令和7年度の参加者数推移（人）

参加者区分	H24	H30	R元	R3	R4	R5	R6	R7
学校（教職員※ ¹ ，児童・生徒※ ² ）	14,853	15,921	15,947	16,685	16,967	17,097	17,216	17,168
保護者	10,223	13,616	13,836			12,002	12,779	13,316
地域	1,728	957	660		289	319	386	383
市職員（避難所担当職員* ³ ・初動要員・学校避難所対応職員等）	90	311	313	490	510	510	478	481
消防※ ⁴ ・警察職員※ ⁵		128	114	43	45	31	46	50
合計	26,894	30,933	30,870	17,218	17,811	29,959	30,905	31,398
前年度比増減		+237	▲63	▲13,652	+593	+12,148	+946	+493

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※1 各年度実施日当日の在籍教職員数

※2 各年度5月1日現在の在籍児童・生徒数

※3 本部要員を含む。

※4 消防団員を含む。

※5 警視庁職員を含む。

なお、上表に、調布市内の東京都立高等学校及び私立学校の参加者数は含んでいない。

1-3 令和7年度事業の総括

より実効的な防災・減災の取組へ

東日本大震災の発生から14年が経過しましたが、この間も地震や豪雨、台風などの自然災害が日本列島を襲い、令和元年台風19号では、調布市でも多くの家屋が浸水し、市制施行後初めて避難勧告を発令して多くの方が避難所に避難されました。

地形の特性上、日本のどの地域においても地震や豪雨、台風などの自然災害が発生する可能性があります。しかし、災害の教訓から学び、備えることはできます。

災害から身を守り、被害を少なくするうえで最も大切なのは、自らが自らの命を守れるよう、普段から意識を持ち、備蓄を行い、家族と避難方法や集合場所を確認するなど、万全の準備と対策を行っておくことです。そして、いざ避難することとなった場合に備え、避難所となる学校等において、普段から教職員、市職員、消防、警察や地域の方々との連携を図り、訓練を積み重ねておく必要があります。

「調布市防災教育の日」は、令和7年度で13回目の実施となりました（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業のため中止）。令和7年度は、昨年発生した能登半島地震、南海トラフ地震臨時情報や、本年が阪神・淡路大震災から30年の節目であることを踏まえ、あらためて大震災の教訓の風化防止、備えに対する意識の向上につなげるため、関係機関との連携強化、体験活動の充実、避難所体験の対象学年の拡大などに取り組みました。

学校教育活動においては、保護者・地域の方などを対象に授業を公開し、体験活動に関する授業内容を増やしたうえ「命」の授業、防災啓発講話、避難訓練を実施しました。また、市職員と地区協議会等の地域の方との協働による訓練では、市統一テーマを「避難所開設訓練」とし、市内各小・中学校28校及び大町スポーツ施設で実施し、昨年度から開始した避難所体験では、小学校4～6年生の児童・中学校全生徒及びその保護者に対象者を拡充し、実施しました。

首都直下地震や記録的豪雨などによる大規模な災害時においては、一定期間、電気・上下水道・ガスなどのライフラインや物流が途絶える可能性があり、相当な混乱が予想されます。避難所の生活は非常に厳しく、市職員だけでなく、その場にいる全員が当事者として協力し、互いに支え合うことが重要となります。

予測不能な大災害への備えは喫緊の課題となっており、平常時から、災害時の状況を想定した訓練を実施し、市民、学校、関係機関が一堂に会してお互いの顔や課題を確認し合うという点において、調布市防災教育の日は一定の成果を重ねてきました。しかし、近年の自然災害を踏まえた訓練内容の見直しや、さらなる防災意識の啓発、関係機関との円滑な連絡・調整など、改善すべき課題も少なくありません。

来年度以降も、引き続き、市・学校・地域・関係機関がそれぞれの役割を発揮し、災害時に適切な対応が行えるよう、連携・協働により、訓練の充実を図ってまいります。

第2章

市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」

ねらい 東日本大震災、令和元年台風19号等の教訓を生かす

- ◎「不測の事態への備え」と「不断の備え」を怠らない
- ◎避難所開設・運営訓練に関する対応能力の向上・意識啓発に向けた効果的な訓練の実施及び地域との協働，学校・関係機関との連携の強化



市統一テーマ訓練（避難所体験（トイレ体験の様子），布田小学校）

※本章に掲載した職員からの意見等，保護者アンケートの自由回答については，原則として原文のまま掲載しています。ただし，編集の都合上，括弧書きで補足している場合や個人名等に関する記述を省略している場合があります。

2-1 市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の概要

災害発生時には、調布市地域防災計画に基づき、市職員による災害への対応を行います。市役所開庁時には、避難所担当職員が、休日・夜間など市役所閉庁時には、初動要員が避難所となる学校に参集し、避難所の開設や運営などの対応を行います。また、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員を学校避難所対応職員に指定（令和5年度からは、教育部学務課雇用の会計年度任用職員（学校栄養士専門員・技能補助員（応援給食調理員））を追加）しています。発災時には避難所担当職員や初動要員とともに避難所の開設や運営などの対応を行います。

このため、調布市防災教育の日では、平成30年度から市統一テーマを定め、市立小・中学校全校（大町スポーツ施設を含む。）において、地区協議会等、地域の方と協働による訓練を実施しています。

平成30年度及び令和元年度の2年間の市統一テーマは「避難所におけるトイレの確保・管理」と題し、各避難所の災害時のトイレの状況を確認し、災害時に使用するマンホールトイレ・組立トイレの設営訓練を行うとともに、避難所におけるトイレの課題を共有しました。また、令和3年度から令和5年度までは、市統一テーマを「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、訓練を実施しています（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため中止、令和3年度は市職員のみで実施）。令和6年度からは、発災時における避難所の初期対応の習得を目的に、市統一テーマを「避難所開設訓練」と題し、訓練を実施しています。

◆訓練の概要

市統一テーマ訓練を「避難所開設訓練」と題し、発災時における避難所の「円滑な初期対応」を習得するための訓練を行いました。昨年度に引き続き、学校の授業公開に伴い、市統一テーマ訓練に参加いただく地域の方が学校の授業をご覧いただけるよう、訓練開始時間を1校時終了時刻以降に変更して実施しました。

▼目的、内容等

実施日時	令和7年4月26日（土）午前9時45分から午後1時15分まで
参加職員	合計947人（避難所担当管理職員・避難所担当職員（市民部・子ども生活部・教育部）・初動要員・学校避難所対応職員等481人、教員83人、地域住民383人）
訓練の目的	令和元年台風19号の避難所開設時における課題を踏まえた避難所開設訓練を実施することで、発災時に円滑・適切に避難所開設・運営が行えるようにする。
訓練の内容	校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法の確認、建物利用調査、図上訓練、防災備蓄倉庫確認、避難所体験（小学校4～6年生の児童・中学校全生徒及びその保護者対象）、防災行政無線送信・受信訓練、要請物資の入力訓練 等

▼タイムスケジュール（例）

時刻	訓練内容	訓練詳細
9:45	集合	・避難所担当職員のリーダーを中心に出席確認、自己紹介、訓練の流れの確認
10:05	開錠・施錠方法の確認（校門・校舎・体育館）	・「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に、校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法を確認
10:20	建物利用調査	・避難所としての使用可否を判断するため建物外観・内部で確認するポイント等を確認
10:25	図上訓練	・避難所利用計画図を用いて総合案内の場所、各受付・避難場所（一般避難者、要配慮者、発熱者等、ペット）、避難者の動線、使用可能教室を確認
10:30 ～ 11:20	防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し、避難所体験準備、避難所混雑マップ（VACAN）の入力、要請物資の入力	・備蓄品の確認及び避難所体験時に使用する物品持ち出し ・避難所体験準備として、学校体育館に、防災備蓄倉庫から持ち出した物品を配置。併せて、体育館外では、応急給水栓を設置 ・避難所の開設状況や混雑状況を確認できるウェブサイト、緊急対応用携帯電話（スマートフォン）を用いて情報を更新 ・L o G o フォームを用いて、各避難所から避難所運営本部（教育総務課）へ物資を要請。避難所運営本部（教育総務課）は、取りまとめ後、災害対策本部事務局救援物資班（総務部契約課）へ報告
10:40	防災行政無線送信・受信訓練	・各避難所から避難所運営本部（教育総務課）に対し、デジタル防災行政無線を用いて各避難所の状況を報告
11:20 ～ 12:00	避難所体験	・地域の方々と職員が連携・協働し、受付体験、避難スペース体験、トイレ体験、食料品・飲料水展示、応急給水栓展示、その他備蓄品展示、地区協議会ブース（任意）において、参加者（小学校4～6年生の児童・中学校全生徒及びその保護者）に説明・体験、備蓄品等の配布を実施
12:00 ～ 13:15	片付け、振返り、終了連絡	・使用したものを元の場所に返却 ・全体で訓練の振返りを実施 ・緊急対応用携帯電話（スマートフォン）内にあるLINEWORKSを用いて避難所運営本部（教育総務課）へ訓練終了を報告
13:15	訓練終了	

●集合

初動要員・避難所担当職員・学校避難所対応職員・避難所担当管理職員及び地域の方は、集合時刻に、担当している避難所（学校）に参集（調布市では、特別非常配備態勢*の場合、全職員が災害対応に当たることとされています）しました。

調布市教育会館では、各避難所からの情報集約や必要事項を連絡するため、避難所運営本部（教育総務課）を設置しました。

*特別非常配備態勢：調布市の防災大綱である「調布市地域防災計画」に定められている、市職員の配置基準のうち最大レベルの態勢で、調布市において震度6弱以上の地震が発生した場合など、大規模な災害が発生した場合に発令され、全職員が災害対応に当たることとされている。

●開錠・施錠方法の確認(校門・校舎・体育館)～図上訓練

午前9時45分に各避難所に集合した市職員（初動要員、避難所担当職員、学校避難所対応職員及び避難所担当管理職員）及び地区協議会等の地域の方（自治会・地域学校協働本部のコーディネーター・調布市防災市民組織の方を含む。）は、訓練の流れ等の確認をした後、「避難所開設に係る学校施設の開錠・施錠マニュアル」を参考に、校門・校舎・体育館の開錠・施錠方法を確認しました。その後、建物が避難所として使用できるかを確認する建物利用調査（流れの確認のみ実施）を行い、図上訓練として、学校体育館で避難所利用計画図を用いて総合案内、各受付、各避難場所等の確認を行いました。

▼校門の開錠・施錠方法の確認



▼図上訓練の様子



●防災備蓄倉庫確認・物品持ち出し～防災行政無線送信・受信訓練

図上訓練終了後は、防災備蓄倉庫へ移動し、防災備蓄倉庫に格納されている備蓄品の確認を行った後、避難所体験に必要な物品を体育館に持ち出しました。その後、避難所体験準備として、学校体育館において、防災備蓄倉庫から持ち出した物品を受付や避難スペースなどの展示スペースに配置しました。避難所体験の準備を進める合間に、昨年度から各学校に設置をしている緊急対応用携帯電話（スマートフォン）を用いて避難所の開設状況や混雑状況を確認できる避難所混雑マップ（VACAN）の入力、L o G o フォームを用いて、各避難所から避難所運営本部（教育総務課）へ物資を要請する訓練を実施しました。避難所運営本部（教育総務課）は、各避難所からの要請物資を取りまとめ後、災害対策本部事務局救援物資班（総務部契約課）へ報告しました。また、防災行政無線送信・受信訓練として、防災行政無線のグループ通信を用いて、避難所運営本部（教育総務課）と通信しました。

▼防災備蓄倉庫確認



▼避難所体験準備



●避難所体験～振り返り

保護者による引取訓練後、避難所体験に来た小学校4～6年生の児童・中学校全生徒及びその保護者に対して、市職員と地域の方々が連携・協働し、受付・避難スペース・トイレ体験、食料品・飲料水展示、その他展示のブースに分かれ、備蓄品等の説明を行いました。体験に来た方々には、実際にブルーシートで敷いた避難スペースに寝転び、広さを確認したほか、エマージェンシーシートを羽織り温暖効果を体験していただきました。その他のブースでは、携帯トイレの設置体験や、避難所で配布される食料品や備蓄品を手に取り体験していただきました。また、体育館外では、耐震化された水道管から直接給水することができる応急給水栓を設置し、給水栓から水が出る様子を体験していただきました。

避難所体験終了後は、片付けを行い、全体で訓練の振り返りを行いました。

▼避難所体験の様子（避難スペースの体験）



▼避難所体験の様子（携帯トイレの設置体験）



▼避難所体験の様子（備蓄品の体験）



▼避難所体験の様子（応急給水栓の給水体験）



●緊急対応用携帯電話(スマートフォン)を用いた通信訓練

訓練終了後は、緊急対応用携帯電話（スマートフォン）内にあるLINEWORKSを用いて避難所運営本部（教育総務課）に訓練終了の報告を行い、現地解散しました。

▼各避難所→避難所運営本部への報告訓練



▼各避難所→避難所運営本部への報告訓練



2-2 訓練参加職員からの意見等について

訓練に参加した職員から、以下の意見が出されました(協働による訓練に参加された地区協議会の方等、地域の方から職員が聴取した意見等が含まれています)。

出された課題を検討し、検討結果については、地区協議会連絡会、防災教育の日の説明会等を通じて、地域の方や市職員等と共有し、次回以降の訓練へ反映するなどにより、発災時の迅速かつ適切な対応に繋げることとします。

番号	項目	意見等
1	地域との協働・学校との連携	校長・地域住民・市からそれぞれの立場での総括的な所感・挨拶を述べる機会があり、それぞれの置かれている立場を確認することができた。避難所対応は大切だが、それ以前に自分の身を守る大切さを参加者各自が認識する必要がある。校長から「避難所に行かなくて済むような取り組みを各自がする必要がある」との話があった。市の職員も身の安全を確保して避難所に駆け付けるので、そういった視点の周知も必要だと思う。
2		このような訓練は継続して実施することが、災害時に役立つと考えられる。継続して実施してほしい。市全体の訓練は、防災教育の日に集約して実施し、それ以外に、地域毎の訓練等も大切であるとする。今回のような訓練は、地域の方々や学校職員等の顔合わせの機会でもある。災害時には「顔を知っている」ことは役立つことが考えられる。
3		地区協の紹介もでき、アピールにつながった。
4		市職員と地域住民の相互の協力があり、例年以上にスムーズに訓練を行えた。
5		参加者が車座になって、意見のある方から発言してもらった。
6		地域住民や学校職員等と協力して実施でき、避難所開設にかかる課題も共有することができたと思う。学校職員、校長及び私と●●小学校での避難所開設が初めてのことであったが、ひとつひとつ確認しながら準備や片付けを進めることができた。校長及び副校長も体育館に来て、子どもたちの様子を確認したり、説明を受けたりしていた。地域住民からの質問に、リーダーが回答できない場面が多々あった。また、わからないまま適当に回答してしまう場面もあり、ひやひやした。リーダーはもう少し説明会資料を熟読した方が良かったと感じた。わからないことが多すぎる。リーダーはサブリーダーの役割をきちんと明示した方が良かった。サブリーダーは基本的には人ごとで、説明会資料を読んでいるという感じはしなかった。避難所開設訓練に対する職員の意識の低さが全体にあったように感じた。
7		市職員だけでは不足、地域の方には事前に説明しなくても行動できるような事前にリストを作成配布することで、迅速な避難所運営につなげてほしい。(いち早く避難所開設へ)
8		リーダーだけでなく、地域住民も理解が必要。防災教育の日に地域住民に説明及び実施をしていただく。
9		地区協議会のブースの位置が決まっており、多くの人に参加した場合の順路変更が難しかった。地区協議会のブース設営前に打ち合わせの実施が必要。
10		小学生・保護者が殺到した結果、体育館の外まで行列ができ、受付等の対応が難しかった。地区協議会と人の動線に関する打合せを事前に行う必要があった。
11		地区協議会の人たちから、地区協議会ブースを見てくれる人が少なかったため、次回以降は配布物等を渡すことを検討したいという意見があがった。
12		「自助・共助・公助」とあるが「共助」の部分が薄まっている。地区協で訓練を行ったとき、地域の参加が少なかった。
13		地区協のメンバーも高齢化が進んでいる。若い保護者に避難所対応を行ってもらい工夫が必要。
14		災害時に保護者をどう参加させるかが課題。
15		地域に協力を依頼する際、保護者にだけ依頼をしても保護者は仕事等あるので、中々来ない。子どもを含んで依頼するのが良い。
16		●●中学校は、他の小学校避難所と比べて、地域からの協力を得ることが難しいと感じている。実際に避難所を開設する際は、避難所を運営する人員が少ない、足りないのではないかと心配である。

番号	項目	意見等
17	地域との協働・学校との連携	避難所体験の準備が整う前に、体験希望者が多数待機する状況となったこともあるが、命の授業等も含め、学校（校舎）側と体育館の連絡が不十分で、防災教育の日として、学校がどのように取り組んでいるかについての全体像が見えてこないのが残念であった。
18		「引取り訓練後でもいいので校舎を使用した訓練をしたい」「経験者が少ないので福祉避難所への移送訓練をしたい」「●●体育館が移転した後はどうなるのか」「市報に防災教育の日の地域向け案内の掲載や地域向けの案内チラシを作成してもらいたい」「連休初日の設定が参加者の減少に繋がるのでは、午後から出かけたから急いで帰る家庭も多いのではないか」小中学生の見学者が昨年度よりもかなり少なかったため、広報はもとより学校側への更なる協力依頼と情報共有が不可欠と感じた。
19		学校側（引き取り訓練等）と市側（防災訓練）の動きがリンクしていないように感じられる。避難所設営等の訓練については、市だけの課題ではない。発災後3日目以降については、地域住民が運営していくことを考えると、地域の人にも訓練を行うべきでないのか。防災教育の日（保護者と学校側は引き取り訓練で手一杯）なので、防災教育の日に併せて、防災訓練を行うのは無理なのではないか。日時を変えて、職員と地域の方や児童の保護者に対して防災訓練だけで実施するべき。
20		学校では児童の引き取り訓練を同時に実施しているが、避難所開設訓練とあまり連携が取れていないように感じた。児童の引き取り訓練が終了した保護者や児童が、できるだけ避難所開設訓練に参加してもらえよう工夫（体育館付近に案内・誘導役を立たせておく等）をするのがよい。
21		今年は校長からの呼びかけもあり、昨年度よりは参加者は増えたが、それでも67人と生徒の1割程度の参加であった。地域の方からは「学校の授業に参加し、避難所体験の声掛けができないか」といった意見があった。また、「毎年ただやっているだけ」という意見もあった。
22		13時から体育館で●●部の部活動の予定が入っており、訓練中に生徒が集まった。※15分間待機させました。※以前に別の学校でも同じ事案が発生していたかと思えます。防災教育の日の訓練時間はしっかり学校側に伝え、部活動の時間帯の調整も行ってください。
23		体育館の使用は13：15となっていたが、副校長が地域開放の方への連絡を失念しており13：00に来てしまった。準備物や連絡事項などチェックシートを作成。
24		●●高校でも訓練をしないと実際の災害時に、動き方等が分からず不安。実際の施設での訓練もしくは図上訓練をしておいた方がよい、との意見が出ました。
25		毎年、●●小で一緒に訓練をしているが、●●高校での訓練は一度もしていないので、担当として非常に困る。施設の所管が東京都のため、訓練等できない事情があるなら、せめて、●●高校に配置されている職員の職務（●●高校の図面、備蓄の状況、鍵の場所等）を紙ベースでいいのでかわるようにしてほしい。それできないと、発災時に対応できない。長年の課題だと思うが、避難所に位置付け、初動要員・避難所要員を任命している以上、災害時の行動を明確にし、各担当者が悩まなくていいように、しっかり説明することが必要である。
26		説明会のほか、当日出席する職員は、事前に現地確認をするなどの仕組みができないか。備蓄品の確認や当日の動きなどを現地でチェックしたほうが良いと考える。また、避難所担当職員で欠席する職員が固定化している。他の業務であればやむを得ないが、参加している職員の心情を考えると何か対策や対応ができないものか。
27	説明前会の研修・事前準備	説明会から当日までの変更点の周知が足りていない。受付名簿の新様式の検討や調布FMのビラ配布、ごみの冊子配布など。些細な変更だが、当日時間がない中で判断する必要が出てくるので事前周知してほしい。公開羅針盤にて周知するとよい。
28		誰が何をするか事前に決めておいて、段取り良く訓練をすすめて欲しいとの要望を頂きました。訓練のための訓練とならないよう、あえて最低限の役割分担しか行わなかった旨、地域の方にはその場で回答しております。（避難所開設準備は時間が非常に余るなど、協力してスムーズに行うことができましたと思います）。
29		リーダーセットに格納されているとされたID・パスワードを当日確認することができなかったため、事前提供をして欲しい。（当日でないといけない理由はないと認識している。）改善策は、ID・パスワードの事前提供すること。
30		受付をQRコードでできると説明書にあったが、QRコードがリーダーセットになかった。また、靴袋もなかった。リーダーセットを事前に確認できるよう、説明会の翌日位に準備していただけると助かります。

番号	項目	意見等
31	事前の研修・説明会などの	過去に他校で避難所担当やサブリーダーを経験していましたが、今回の人事異動で初めてリーダーとなり、はじめての学校だったため、何をどのように役割分担してよいかわからない中で進行管理もすることが大変でした。初めてリーダーになるときは通常このようにしているという説明（会）があったらよいのではないかと。●●小学校の説明会では物資の搬入、設置がメインの説明会だったため、実際の流れが分からないまま本番となり、すべてを理解して行うことは不可能だった。助言をしてくれる人を配置するなどしてほしかったです。総合防災安全課や教育総務課の方々にとっては毎度のことかもしれませんが、困っている人がいます。また、学校によっては毎年大きく入れ替わりがあったり、地域の方のご意見が主流となるため、地域の人との事前交流ができる機会があるとよい。（4/17・18の説明会がその機会であることはわかりますが、市職員も当日来ない人が参加していたり、地域の方は市職員以外いなかった。）具体的な訓練の流れの説明や役割分担の案を提示する。助言のできる人を配置する。
32	事前準備	テントの片づけが課題であったため、出す時に、たたむ際に合わせることをテープで目印をつけ、押し込むところも明確にしておいたところ、スムーズにたたむことができた。この工夫を広めたい。
33		簡易テントは収納するのが毎回苦戦するが、広げる前に、テントに目印を付けて、動画を撮ったらスムーズに収納出来た。次回以降もこのやり方で継続したい。
34		簡易テントの畳み方の動画を限定公開ユーチューブに載せてもらって、QRコードで見られるようにしてほしい。
35		前述したように、折り畳み式テントの収納に苦勞し、予想外の時間がかかったため、十分な振り返りができなかった。今回のことを十分に反省してテントの使用についてもっと詳細に説明をすべきである。
36	開錠・施錠方法確認	避難所開設物品（体育館鍵等）の中に体育館の鍵とセコムカードが見当たらなかった。（体育館内の管理室の鍵は見つかった）すぐにわかる場所がないと困る。最後に片づけている際に発見（ただし、わかりにくかった。）。
37		防災備蓄倉庫内にあるはずの体育館開錠用のセコムカードがなかなか見つからなかった。また、準備に時間を要したため、職員はどこに何があるか倉庫内をしっかりと確認しておくべきである。防災備蓄倉庫内をしっかりと整理して、扉に貼っている配置図と一致するよう維持していく必要がある。昨年度よりはきれいになっているとの声もあったが、まだまだ改善の余地はある。
38		ボックス①に入っているセコムキーで校舎のカギが開くのか全職員把握していない。※セコムキーに「体育館用」なのか、「体育館及び校舎用」なのか記載してください。※校舎のカギがないのであれば、要配慮者及び発熱者の案内はできないため、明確にしてください。
39		校舎のカギがどこにあるのか誰も把握していません。校舎を使うのであれば、必須の情報です。セコムキーであるならば「体育館及び校舎用」と記載してください。訓練が実践に即したものとなるように、校舎のカギはどれなのか明確にしてください。フィードバックをお願いします。
40		鍵の確認は、実際にやって見せた方がよい。時間がなくても、1～2人は実践してもらう方がよい。特に体育館はセコムがあるということを認識してもらう必要があると思う。校門や校舎は人がばらばらなまま（一ヶ所に集まっているという感じではなかった）口頭で説明だけをしており、何を言っているのか聞き取れなかった場面もあったので、実際に「こちらに集まってください!!!」と言った上で、全員がカギの位置等ほぼ見えるような所に集めることが重要。体育館については、開いていたのでということで鍵の説明は何もしていなかった。説明をするよう声をかけましたが、やっていませんでした。リーダーの認識不足及び避難所開設訓練に対する意識の問題かもしれません。
41		校舎の開錠については、初動要員に●●中関係者が配置されていないことから、セコムカードを持っていない。そのため、訓練当日も校舎内に入れないことを想定し、入口でセコムの位置の確認と事務室でコントロールボードを使用してロックの解除をすることができる旨用務員の方から口頭で説明を受けた。有事の際に、初動要員が校舎内に立ち入れないことから避難所の開設が遅れることが想定される。初動要員に●●中の関係者の配置をお願いしたい。避難所利用計画の再検討をお願いしたい。
42		停電時の開錠方法は？
43		停電復旧時のセコムの警報解除方法についてマニュアルに記載すべき。※台風19号被害で、●●が停電。停電から復旧後、セコムの警報機がなり解除方法がわからず混乱したとのご意見。

番号	項目	意見等
44	開錠・施錠方法確認	セコムキーで体育館の開錠方法の他に、停電時の開錠方法も訓練に加えることその他、マニュアルにも明記してほしい（●●住民の方の参加による、台風19号の際、停電が生じた実体験を踏まえた意見）。停電時には非常電源が使えない想定としても、避難所となる「体育館・避難所」へ確実に避難できる周知が必要。
45		地域の方は、そもそも停電の場合は、どうなるんだという質問をたびたびされていて、発電機かなという回答をしたが、そもそも体育館に到着して、停電していたらというスタートから心配されていた。それに明確に回答することができなかった。
46		防災行政無線のカギの場所が分かり辛かったので、セコムカードの所に入れるべきとの意見が出た。
47		東門は開けない（車が入るとその後の対応に困るため）。開けるのは正門・●●門のみ。
48	建物利用調査	建物利用調査により、使用不可となった場合は次の避難先は決まっているのか？耐震性は確保されているはずだが、使用できない場合は本部に連絡の上、指示を受けることとなる。
49		建物調査の項目に「トイレが利用できるか、水道使用が可能か」優先して確認をするべき（能登半島地震で話題になったことによる）。水が使えるかどうかで避難所の初動の動きが左右される。避難所運営マニュアルに設備の確認項目が掲載を案内ができればよかったが、訓練の説明会資料でも、水回りのことを強調、確認ポイントに加えてもらおうと、より周知できる。どうしても、訓練資料に記載のものに目先が行きがちなため。
50		体育館内部に関する建物利用調査で、天井の照明等が落下する可能性があるのかを目視で判断することが困難。
51		図上訓練の図面も古い、単に備品等を並べるのではなく、いざという時の訓練をするべき。災害関連死を防ぐ対策。
52	図上訓練（避難所利用計画図）	利用計画図が、古く、多目的ホールや学童クラブの増設される前の計画図となっていた。新しい図にすることはもちろんだが、新しく増設された場所などを使う計画にしたほうがいいのか？という意見がでた。建物のことは、地域の人が詳しいので、事前に学校で打ち合わせをする時間を設けるのもいいのではないかと。新しく初動になったり、避難所担当になった人は、学校の場所が分からないまま訓練をすることになるので、校舎内や体育館・備蓄倉庫を地域の人と見学をし、図上訓練をして、当日は最新版を提示できるようにしておくなどがよいのではないかと。
53		避難所配置図の図面が古い。倉庫も分かりづらく半年に1回程度点検することが必要。
54		避難所利用計画の図面が古いとの意見と、実際に誘導した経験がないとの意見があった。紙上での訓練でなく、実際に誘導する場所を歩いてみてもいいのかもしれない。
55		教室番号が古い。違う表記を考えたほうがよい。今年度は図が小さくて使いにくい。教室入り口のクラス名を出すところに「A」「B」などの記号か、「赤教室」「青教室」などの表記を出しておけば、図を更新しなくてよい。
56		「避難所利用計画」の図面を新しくしてほしい。
57		避難所内の位置図が小さい。一か所ではなく複数か所に掲示すべき。総合防災安全課に伝えることとする。計画図の体裁変更が必要。
58		避難所内の配置図をもっと大きなものに。
59		避難所利用計画が分かりづらいという意見が寄せられた。特に、地域コーディネーターからは、中学校は小学校と比較して、地区協議会がない等の理由により、地域の人員に限りがあることから、掲示物関係は一見して分かる（改めて説明する必要がない）よう工夫して欲しいとの要望が寄せられた。
60		図上訓練の図面に正門の位置を記載してほしい。
61		避難所運営マニュアルの学校利用計画図と現在の利用計画図が異なっている。コロナを経て変更になっている旨を説明したが、早くマニュアルを改訂するよう意見あり。
62		学校の避難所配置図（マップ）について、今日使用した体育館以外にも本校舎の多目的室等がマップに載っているため、いずれ本校舎の部屋の配置も下見したい。
63		避難所利用計画図では、発熱者が専用の避難スペースへ移動する際、校舎の外側を廻らなくてはならないが、施錠されているところがあり、開錠する必要がある。（開錠・施錠マニュアル（公開版）にあり）また、土・日の場合は、校舎の中でシャッターが下りているところがあるため、シャッターを上げるのに、セコム室の機の引き出しの中にあるカギが必要になる。避難所利用計画図の修正については、総合防災安全課に共有する。シャッターについては、マニュアルに載っていないため、継続的に引継ぎが必要。

番号	項目	意見等
64	図上訓練（避難所利用計画図）	避難所利用計画について、総合案内が昇降口の中にあるのは分かりづらいのではないかな。
65		【建物利用計画の見直し】上記のブルーシートの問題や立地特性を踏まえ、当然体育館だけでは収容しきれないと思うので、校舎を開放する前提での利用計画を立てる必要があるのではないかな？
66		避難所の入り口について。避難所開設にあたり、南門ではなく、正門を入り口に変更したほうがよいのではないかな。正門から入り、倒壊のおそれがあるピロティは、ロープなどを張って「立入禁止」や「危険」であることを明確にしたうえで、正門のすぐ右側から体育館までのルートにするほうが、人の流れも整理しやすいのではないかな。 ●●小学校設備担当の方から、南門を開けると避難してきた人が、車で侵入しやすくなってしまうため、そこは閉めておいたほうがよいと考える。（車で避難はだめだと広報していても、来てしまう人が多いため、物理的にシャットアウトする必要があるのではないかな）
67		入口を2日目から防犯上1つに絞ってはどうか。学校の入り口（正門・西門）を2つにするか、1つにするか複数意見あり。（1つにすると動線を一方通行にできるが、避難者からは不便等）要検討（なお、常時2か所だと防犯上の懸念）
68		以前は入り口を正門としていたが、ピロティが壊れるおそれがあるということで南門に変更されたのだと思う。しかし、南門を開けると避難してきた人が、車で侵入しやすくなってしまうため、そこは閉めておいたほうがよいと考える（車で避難はだめだと広報していても、来てしまう人が多いため、物理的にシャットアウトする必要がある。）。正門から入り、ピロティへはロープなどを張って「立入禁止」を明確にしたうえで、正門すぐ右側から体育館までのルートにするほうが、人の流れも整理しやすい。南門ではなく、正門を入り口に変更したほうがよいと考える。
69		●●小学校はそもそも正門を利用する人が少ないので、基本は東門と西門を利用するのが良いと思う。実際の災害時には、東門及び西門から車両は絶対に乗り入れないことを徹底する必要がある。車両を使用した人は門の前付近で停車し、乗降するなどし、駐車はさせないような工夫が必要である。（地域住民から）
70		【「あそびバ」活用の必要性】学校職員の認識では、現状では有事の際にはあそびバを使用することができない認識です。現状の利用計画では、感染症等の方の避難場所が3階になっていますが、体調不良者に関しては、3階への誘導（距離の問題・体調不調者が移動）ではなく1階にあり、隔離棟である「あそびバ」の利用が適していると思います。現状、契約上の問題などがあるかもしれませんが、「あそびバ」自体が学校施設を利用しての事業なので有事の際は全面的に協力体制になってもらうべき機能だと思いますし、施設提供を了承すべきではないかと思われます。※最悪、協力を得られない場合は、業務委託（契約時）に際し仕様書等へ盛り込むべき事項と思います。（なお、マニュアルではあそびバが「乳幼児向けの部屋」とされていますが、こちらも齟齬がないか、確認をお願いします）
71		図上訓練どおりにはいかない可能性があることを確認した。全職員が一斉に参集できるわけではない。図上訓練どおりに、受付所を設置できるかわからない。まずは、体育館の受入れ体制を整えるべきだということを確認した。
72		「発災後の保健室の扱いはどうなるのか」「高齢者ブースは利用しやすい位置が良い」「正門の位置が分かるようにする」などの意見が出た。今後、全体的な検討が必要。
73		【令和4年度からの継続案件】校長先生から「教育委員会から教育部管轄の施設で計画を」と言われたため、3階を候補地にした経緯があるとの説明があった。誘導動線などの感染症対策や医療機関への輸送時対応等、実情に即した計画を検討するべき、という意見が出た。令和4年度からの懸案事項です。至急対応してください。
74		（●●小学校校舎利用計画について）発熱者の避難スペースが3階だと、発熱者の中に要介護者がいた場合、3階まで上がるのが大変なので、別の場所を用意して欲しい。
75		総合案内では、可能であれば人数カウントもした方がいいのでは？
76	（防災備蓄品等倉庫含む）	昨年からの改善点で備品の「軍手」の配備が行われていたのが良かった。更なる改善点としては、滑り止め付きの軍手だとなお良い。
77		畑に設置している防災備蓄倉庫ドア前に荷捌きスペースと道路へのスロープを設置したり、体育館裏の防災備蓄倉庫ドア前に丈夫なシートを設置して頂きありがとうございました。※畑に設置している防災備蓄倉庫の現場確認時に、傾斜がきついなどの意見が少しありました。

番号	項目	意見等
78	防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）	防災備蓄倉庫が2個あるが、一方の防災備蓄倉庫の扉にしか倉庫内物品の貼り紙がなかった。両方の倉庫の扉に倉庫内物品の貼り紙をしてほしい。物品の置いてある位置が貼り紙とかなり違ったため、物品を取り出す時の確認に時間を要した。以前は靴袋があったが、今回はなかった。あった方が良かった（昨年までは、地域の人がこの靴袋をもとに参加人数を数えていたとのこと）。靴袋の有無について確認してほしいとのことであった。防災備蓄倉庫については、避難所担当職員、学校職員（校長及び副校長も含む）及び地域住民と一緒に片づけるのが良いと思うが、難しいだろうか。例えば、9月1日の防災の日に行くなど。地域住民もこれに関しては文句を言うことが多いので、一緒に作業した方が良いのではないと思うが難しいだろうか。扉に貼ってある備蓄品のリストを模造紙大にし、ブッカーのようなもので貼るのはどうか。文字が小さくて見づらいので、実際の災害時には見えない可能性がある。
79		大きい防災倉庫の段差が大きいため、重量のある発電機や応急給水栓の黄色いバッグの出し入れが大変。発電機は二度と出せないのではないかと。スロープや鉄板など段差解消が必要。倉庫から体育館へも段差があり搬入が困難。昨年も同様の意見があるが改善はされるのか。
80		防災倉庫は、男性陣がいなくても想定し、体育館に近い第1倉庫には軽いもの、遠い第2倉庫には応急給水栓セット（体育館の反対側のため）や重たいものなど一律の配置ではなく各避難所にあった配置にしてほしい。地域と初動要員、避難所運営職員と協議のうえ、変更できるようにしていきたい。
81		新配備のターボリンの個数が不足している。入口（門）などに対して、2個は少ない。紐付きだが、門などに設置すると、門の開閉時や門が少し奥まっているためわかり難いなどの意見もあった。各校の状況に応じての個数を配備してほしい。
82		子ども用オムツ・大人用オムツの他に、大人用尿漏れパットがあるとよい。
83		トイレセットの中身がマニュアルの記載と異なっている（黒い袋ではなく、黄色い袋が入っていた。白い紙がなかった）。トイレセットに何が入っているのか整理してほしい。
84		体育館横の備蓄倉庫に簡易トイレが多く積まれていて奥が見えない（トイレも重くて動かせない）。棚から備品を取り出せないため、しまい方を考えてほしい。
85		マンホールトイレの個数に対して、備蓄倉庫にあるトイレの個数が少ないのではないかと。
86		マンホールトイレのテントの骨組みのセットの内容物に過不足があり、設置に時間がかかった。
87		災害時に柔軟な対応は必要だが、原則として職員がブルーシートは「1家族に1枚渡す」等の原則を共有しておく必要がある。
88		【ブルーシートの使い方・収容人数の運用】ブルーシートの使い方（運用）を具体的に定めてほしい。以下のような疑問や意見がありました。多くの人は家族で避難してくると思うが、ブルーシート1枚を何人で利用してもらう想定か？大人数が避難してきた時でもブルーシート1枚ごとに特定の人数を入れていき、すべて埋まったら断るのか？（70枚程度しか設置できません）
89		想定利用者は70～80人だった記憶。想定人数は妥当か。備え付けのブルーシートなどは何年前の基準で置いているのかと思うほど貧弱である。とてもプライバシーを保てるようなものではない。備品を数年ごとに更新してほしい。
90		【備蓄品の増量】床にブルーシート1枚で座ったり寝たりして過ごすのは一時避難としても無理がある。マット、クッションなどの緩衝材を支給できるような備えが必要。長期の有事の際に多くの避難者に対しての食料品等の物資が全然足りない状況になる恐れがあります。勿論人数にもよりますが、多数で来られた場合その場で不足しますので、保管場所や入手ルートの確保を含め検討すべきだと思います。住民からの要望は無限にあると思いますので、対応できない分については、どこまでは公助で想定している、それ以上の場合は自助で対応してほしい、との明示があるといいと思いました。（すでにマニュアル等あるようでしたら教えてください）
91		食料品は防災備蓄倉庫ではなく、小学校内の調理施設（家庭科準備室など）に保管してほしい。食料品の準備もスムーズになり、防災備蓄倉庫内のスペースも確保もできる。所管課で検討願いたい。
92		備蓄倉庫に保管されている食料について、何人分のものが、何日間分あるかを知りたいと地域の方から言われた。予備知識として持っておきたかった。
93		体育館がかなり離れているので、特に雨天時は持出しが大変ではないか。少しでも体育館の中や体育館の近くに備品を置けるとよい。

番号	項目	意見等
94	防災 備 蓄 倉 庫 （ 備 蓄 品 等 含 む ）	訓練当日は曇天であったが、雨天時を想定して、濡れて避難してきた方への対応策（備蓄品に大量のタオルを準備）を。総合防災安全課へ伝えることとする。
95		倉庫から体育館までの距離が離れているため訓練時はリアカーで備品を運搬したが、普段のリアカーの定位置等も共有を図れた。倉庫内、備蓄品の位置が非常にわかりにくい。探すのに時間がかかる。取り出す以前に探すのが作業として生じ、多くの時間を費やした。訓練時の備蓄倉庫内の備品配置場所は、本来の配置場所と異なる状況になっていた可能性が考えられる。
96		防災備蓄倉庫が非常に遠く、実際に災害があった際に運ぶことが大変。また、防災備蓄倉庫が1個しかないため、物品が上に積み上げられており、取り出すのが大変で、女性のみでは取り出せないという意見があった。
97		防災備蓄倉庫が非常に遠く、実際に災害があった際に運ぶことが難しいのではないかと。体育館の隣にあるウサギ小屋が現在使われていないため、このスペースをうまく活かさないか。
98		備蓄倉庫から避難所への物品の搬送が困難。早急な、施設改修が必要。
99		防災備蓄倉庫が非常に遠く、実際に災害があった際に運ぶのはかなり難しい。防災備蓄倉庫を体育館の近くにもう1つ建設する。
100		●●中学校は防災備蓄倉庫が校舎・体育館から離れていることもあり、準備に時間がかかり、タイムスケジュール通りに進まなかった。応急給水栓も見なかったが、（担当ではなかったため）見ることができなかった。スケジュールは各学校の状況に合わせて調整が必要だと感じた。
101		電池が液漏れするなど、今、発災した場合、何の役にも立たない。至急、備品等の確認が必要。
102		避難所用品の体温計用の電池がすべて切れており、使用できなかった。定期的にチェックし、入れ替えが必要。
103		蓄電池の充電が0%だったので、日常のなかで、充電する習慣があると良い。
104		防災ラジオの電池が液漏れしていた。電池の状態を確認するべき。使用期限切れの電池のチェックをしてほしい。
105		ラジオの電池がダメになっていた。劣化していた。電池の入れ替えが必要。何に何本必要か把握して、電池は電池で分けて管理が必要だ。
106		備品のヘルメットの耐用年数が過ぎていることについて、常用していないのであれば、継続して使えると思うが、そのようなアナウンスをしてほしいとの意見あり。ラジオ付懐中電灯のバッテリーがなかなか充電されなかった。常時、充電してくると安心である。
107		トランシーバーは事前に学校職員が充電対応をしていたが、2台応答ができないものがあつた。昨年から×がついたままだった。ラジオも回すところが壊れていた。
108		2つの倉庫を活用し、資機材・食材を分けるなど工夫が必要。発電機を運んだが、電池がすべて液晶漏れをし、使用できない。定期的な確認を怠っている。倉庫から体育館内への導線が狭く、ぬかるんでいるなど怪我をせずスムーズに運ぶことが困難であり、早急な施設改修が必要。
109		今年度から、防災備蓄庫に大型のリヤカーが設置されていたが、倉庫入口を塞いでいたため、初動要員が最初に使用するクリアケースなど、初期に使用しなければならない物品を見つけるのに苦労していた。緊急時、初動要員が倉庫を開けて、素早く対応しなければならないことを理解しておきながら、何も考えずにリヤカーを配備したものとする。倉庫内にあるクリアケースに入った初動セットは必ず初心者でもわかりやすい場所に配備するようお願いします。
110		倉庫から備品を運ぶ際に使用したリアカーはいつもどこに置いているのか。外階段の手前に常時置いている。
111		体育館からグラウンドを通過して防災備蓄倉庫に向かうが、休み時間と重なったためかグラウンドにはたくさんの児童が走り回っており、リヤカーの通路を確保するのが大変だった。また、備蓄倉庫内の物品の実際の配置が、配置図と異なっていたため、物品の特定にかなりの時間を要した。発災時は、想定外の状況がある中で、限られた人材で対応が求められる。発災時に誰でもスムーズな対応ができるように、発災時の場面を想定した工夫・配慮が必要であると感じた。
112		リヤカーがあっても使える場所がない。どのように使う想定なのか。学校の外周道路を回るのが。置いてある場所がわかっているならば用務員室でもよいのではないかと。

番号	項目	意見等
113	防災備蓄倉庫（備蓄品等含む）	備蓄倉庫のどこに体育館の鍵が入っているか、分かりづらい。鍵を入れている封筒には記載があるが、コンテナに入っているのは探しづらい。表示方法の検討を。参集した時に最初に何をやるか、わかりやすく表示した方がよい。ラジオ用のマンガン電池単2（4本）が錆びていた。使用期限の長いアルカリ電池に変更を。蓄電池について、いつ最終充電日か記載は必要（日々、放電している）。何が入っているかは文字でわかるが、どの位置にあるのか、一緒に持ち出して使用するものがどれかなど、工程が絵や写真等であるとわかりやすくなる。色分けで区別する方法をとるのもひとつの方法（ドア、箱、リスト）に統一した色を使い、備蓄品を管理。備蓄倉庫をもっと大きくすることも考えないといけない。倉庫内の整理もコンテナ等を活用して、初動期に使用するものは前列に持ってきており、整理を進めているが、新しい備品も随時追加されていくので、1年1回の訓練では、職員が異動で交代する中、限度を感じる。備蓄倉庫の確認作業は、年に数回必要ではないか（使用期限等の確認作業も含めて）。また、色分けをして、関連物品を紐づけすることで、初動期がスムーズに行くのではないかな。蓄電池の充電日を表示しておく。
114		長年の懸案だった防災備蓄倉庫の前にスロープが付いたので「有難い」との意見が多数出た。簡易トイレが重いのでNo. 8備蓄倉庫内の格納場所を考えて欲しいとの意見あり。簡易トイレの格納場所については今後検討を要する。スロープが付いたので地域の方達の意見などが昨年と比較しかなり柔らかいものとなったと感じる。No. 8備蓄倉庫の向かって左側扉のストッパーが壊れている（留め金欠損）ので修理をお願いします。
115		以前より、防災備蓄倉庫の中はわかりやすく整理されてはいるが、簡易ベッドやマンホールトイレなど、大型のダンボールに入っているものは、分かりにくかった。
116		倉庫内に配置している個別のボックス内に収納されている物品がわかりにくい。内部に仕切りや物品ごとにケース等に収納する等「一目でわかる」ような工夫が必要ではないか。
117		備蓄倉庫扉に貼ってある資材名称と段ボールに記載してある商品名が異なり分かりにくい。①避難所開設時のまず初めに使うもの、②次につかうもの、③落ち着いたらつかうものと、段階的に物品を奥に、奥にと使用物品を整理すべきという意見がありました。どの避難所でも同じ運用になるように、①②③のカテゴリーを整理してはどうでしょうか。
118		物品がどの倉庫に格納されているかが分かりずらいため、防災備蓄倉庫の物品所在を示す掲示を改める必要がある。体育館倉庫の物品が乱雑に管理されているため、倉庫内整理をした方がよい。地域コーディネーターから、物品管理の改善を毎年要望しているが、全く改善されないと苦言を呈された。①物品所在図の改善（格納倉庫の凡例を記載する等）。②体育館倉庫の整理。
119		防災備蓄倉庫確認・物品持ち出しについて、前述のとおり物品がどの倉庫に格納されているかが分からず、設営に相当の時間を要する結果となったため、防災備蓄倉庫の物品所在を示す掲示を改める必要がある。体育館倉庫にはトイレ関係の物資などが格納されていたが、前述のとおり乱雑に管理されているため、搬出することが困難な状況にあり、倉庫内整理の改善をした方がよい。地域コーディネーターからは、物品管理について毎年改善を要望するが、全く改善されないと苦言を呈された。
120		備蓄倉庫の図面は分かりやすくしてもらいたい。図面通り置いていない物品があり、実際の震災時に困るとの意見が出た。マンホールトイレの場所が分かり辛かった。
121		倉庫入口の掲示と中身の不一致が多々あった。備蓄品の名称と個別の商品名が異なるため突合できない。中学校の授業で使用し、適当に出し入れをする先生もあり、管理状況が悪い。学校にも理解を促す必要がある。土埃が侵入しており、いずれの箱も砂だらけの状態。備蓄倉庫の整理・清掃が必要。可能であれば、備蓄倉庫自体のサイズが小さいため大型化し、整理できる空間とすべき。横扉のコンテナも整備されているが、そちらの方が物品の位置を確認・整理しやすいと感じる。物品がグループ（初動時使用のもの、トイレ関係、飲料、食料など）ごとにゾーンが分かれて入っていれば分かりやすい。配置のルールが全校統一化されていれば、ここに掲示を確認しなくとも、避難所が変わっても対応できる。初動時は水と毛布、トイレ対策が必要。食料はある程度時間が経ってから必要となるので、倉庫入口に食料を積まずに整理できるとよい。
122		防災倉庫の収納場所が「左奥」「A」など表記が統一されておらず探しにくかった。
123		防災倉庫について、視覚的に分かりやすくするような配置にしてほしい。
124		備蓄倉庫の扉に縦型と横型の案内図が張ってあるが、この備蓄倉庫がどちらに当てはまるかわからないので、該当する案内図だけを張ってほしい。また、備蓄品の置き場を色分けで案内図を用意しているので、内装（壁）を色分けすればいいと思う。

番号	項目	意見等
125	防災 備 蓄 倉 庫 (備 蓄 品 等 含 む)	2つの備蓄倉庫内の配置を6色で示しているが、12色で示してほしい。12色だと、どちらの備蓄倉庫か確認する手間が省けるため。
126		●●中学校では防災備蓄倉庫(2箇所)と体育館内倉庫に物品が保管されている。マニュアル等どおりの場所に物品が配置されていないため、どこに何があるかすぐに分からず、準備・設営に非常に時間がかかります。物品を適正な場所に保管するとともに、マニュアル等を最新版に更新願います。
127		2つある防災倉庫のどちらに物品があるかわかりにくい。物品を片づける際に分かりやすいように物品に倉庫NOの記載があると良い。
128		どちらに何が入っているか、第1・第2倉庫のそれぞれに、格納品一覧表を掲示してほしい。
129		防災備蓄倉庫の中を見取り図を作って整理して欲しい
130		毎年指摘しているが、倉庫内の表示がわかりづらい。訓練では、何を出すか決まっているので、グループ分けで整理しておくなど、初心者でもわかりやすい表示、配置をお願いしたい。また、表示などについては、総合防災安全課主導ではなく、「任せてもらえるなら、自分たち地域の者が主体となり、物品のチェックや表示などを行ってもよい。」との意見もあった。
131		段ボールの中身及び体育館内への設置場所がわかるよう、色紙や記号が必要。体育館内に校舎内の配置(A1)に加え、体育館内の各スペース配置状況図が必要。
132		防災備蓄倉庫の配置場所を把握できていない市職員や地域の方が多い。防災備蓄倉庫の配置場所を記載した案内(常に最新の情報にする必要有)を作る。
133		地域住民からは「毎年言っていることではあるが、備蓄倉庫の中の整理が必要。まったく改善されていない。防災備蓄倉庫の整理を委託するにも、地域の人がそれをわかっていなければ意味がない。学校の現状を理解している人が立ち会うべきだ」との意見が出た。
134		防災備蓄品を防災備蓄倉庫へ戻す時に、現状置いてあった場所が分からなくなってしまう時間を要した。現状復旧を意識して作業を行うべきである。
135		避難所体験の際、防災備蓄倉庫に貼ってあった配置場所に物がなく、探すのが大変だった。実際、災害があった場合、この状況では探すのに苦労すると思うので、整理整頓をお願いしたい。AからGの訓練毎に分けて、配置をしておくという意見あり。
136		防災備蓄の整理整頓が必要である。「4 防災備蓄倉庫確認(備蓄品の確認・取り出し)」にも記載したが、個食のわかめご飯を見つけることができなかった。
137		アルファ米の更新年度と賞味期限が分かりづらく倉庫から出す際に苦労した。賞味期限が古いものを手前に配置し。かつ箱に大きく明記するなどお願いしたい。
138		二つある防災倉庫に入っているものが一覧と異なっている。食品と備品に分けて、近いものが近くにあるほうが良い。昨年も同様の意見があるが改善はされるのか。
139		防災備蓄倉庫が分かりにくいという意見が出た。
140		倉庫の整理が必要。
141		倉庫内の置き場所が毎年かわる。統一できないだろうか。
142		それぞれの訓練に使用する備蓄品は倉庫内でまとめて置いておいていただくなどの対応をお願いしたいとの意見が出ました。例えばトイレ関連、乳幼児関連などの備蓄品の用途ごとに箱を色分けした上でまとめて格納しておくなど。
143		防災備蓄倉庫の中に何があるのかわからず、そのため時間がかかってしまった。訓練に当たっては、あらかじめ必要なものを用意しておき、すぐに取り出せるようにしておいた方が良いのではないかと。※他方、訓練のためには事前に準備しておいた方が良いが、有事の際にどこに何が入っているかすぐにわからない、という状況の把握も含めての訓練だという意見もあり。
144		倉庫内の物品の表示がわかりづらく、運び出しの間違いが起こった。写真付の表示があると良い。缶のミルクを検討しても良いのでは。
145		初めて参加したが、粉ミルクなどの備蓄があることに安心した。乳幼児用の部屋を別に作ったほうが良いと思った。
146		哺乳瓶の衛生管理について、薬剤や煮沸等のキットが備え付けられていないため繰り返し使用が難しい。使い捨ての哺乳瓶や調乳不要な缶の液体ミルク等を配備した方がよい。

番号	項目	意見等
147	防災 備 蓄 倉 庫 （ 備 蓄 品 等 含 む）	備蓄品ミルクについて、固体が用意されているが、液体のものもあると良い。
148		土埃が侵入しており、いずれの箱も砂だらけの状態。
149		防災倉庫の中に害虫の糞が大量にあり、衛生上よろしくないので定期的に害虫駆除を行ってほしい。
150		夜間だと街灯含め一切明かりがないため、倉庫までたどり着くだけでも大変。何とか倉庫を開けても中身が整理されていないと対応できない。備蓄倉庫内の明かりの設置のほか、倉庫付近の明かりの設置が必要。その必要性に気付くための夜間訓練の実施も必要。
151		第1倉庫の入り口は坂になっているかつ両サイドにコンクリートの淵があり転倒しやすく特に夜間は非常に危険なため改善してほしい。また、倉庫にライトはあるが、暗い。ドア付近にライトやペンライトを配備してほしい。
152		倉庫内が暗い。夜間の場合の対応に不安を覚えた。
153		倉庫内の人感センサーの照明が、短時間で消えてしまう。倉庫の中を（広く）照らす照明が必要。総合防災安全課に伝えることとする。
154		人感センサーが壊れている。倉庫に配置してあるライトが暗い。かなり明るめの電池ランタンを天井から下げておいて欲しい。外側に夜間灯を付けられないか。意見を言っても改善されない。毎年、同じ指摘を受けて恥ずかしくないように、意見に対するフィードバックを必ず行ってほしい。
155		地域の中で誰が防災備蓄倉庫の鍵を持っているか、今回の参加者は誰も把握していない。誰が持っているかを把握しておくことで、有事の際、鍵を持っている本人が避難所に駆け付けることができなくても他の者が対応することができる。また、（地域の中で）鍵を持っている方の家族にも。そのことを知っておいてもらうことが大切だと感じた。
156		防災備蓄倉庫の鍵を持っている地域の方に参加してもらい、実際に地域の方に倉庫を開けてもらうことも必要ではないか。地域の方々も誰が防災倉庫の鍵を持っているか知らないようだったので、地域側も市もしっかり把握しておく必要がある。
157	V A C A N	今回、地域の参加者の中に、防災備蓄倉庫の鍵を持っている方はいなかった。鍵を持っている方にも参加の呼びかけをしたほうがよい。
158		地域の中で誰が防災備蓄倉庫の鍵を持っているか、参加者は把握していなかった（地区協議会ではもっていないかもしれない）。防災備蓄倉庫の鍵を地区協議会等が持っている地域もあれば、持っていない地域もある。鍵の申請は総合防災安全課で受け付けている。一度、地区協議会から総合防災安全課へ相談してみるとよい。
159		●●中学校の防災備蓄倉庫は2つあるが、2つ目の倉庫の前のフェンスにも鍵がかかっている。そのフェンスの鍵もセットになっているのか。2つの倉庫の鍵とフェンスの鍵がセットになっている。
160		アルファ米が入っている倉庫について、鍵が開くときと開かないときがあるのでどうにかしてほしい。アルファ米が入っている倉庫の鍵を確認し、不具合がある場合は鍵を付け替える。
161		防災備蓄倉庫にあるリーダーセットにVACANの操作マニュアルが入っていなかったそうで、入力することができなかった。事前の確認が必要。リーダーセットの事前の確認。
162		VACAN及び要請物資の入力について、どこから入力するのか分からなかった。手引きにLINEWORKSから入力することを記載して欲しい。
163		VACANのログイン方法（ID・パスワード）及びログイン後の入力手順等がわからない。マニュアル等に追記願います。
164		アプリの操作方法やアクセスの仕方について周知がない。昨年、経験があったからできたが初任者では操作方法が不明。説明会の資料に操作方法を掲載。
165		専用スマホに使用制限がかかっているようで、いざという時に使えないと困る。
166		担当者が開くのに苦労していた。もっと詳しいマニュアルが必要と感じた。
167		優先発信機能付携帯電話（スマートフォン）2台のうち1台はカメラ機能の設定でできていなかった。訓練に必要なログイン方法やID、パスワードが見当たらなかった。優先発信機能付携帯電話（スマートフォン）は、日頃どこにあるのでしょうか。
168		VACANスマホは学校管理となっており、学校職員に取り出していただかないと使えない。防災備蓄倉庫に充電器と共に入れられないか。

番号	項目	意見等
169	要請物資の入力	要請物資の入力をするため、学校にある優先発信機能付き携帯電話を使用し、入力フォームの二次元コードを読み込んだが、アクセス制限がかかっており、ロゴフォームの画面に飛ぶことができず、入力ができなかった。そのため、自分自身が持つ私用のスマホを使用して、要請物資を入力した。優先発信機能付き携帯電話にインターネット利用制限がかかっているのであれば、解除方法をマニュアルに記載してほしい。
170	入力	要請物資の入力については入力項目が多い上に選択式ではないため、入力に時間がかかった。要請物資の入力については入力項目の精査と入力方法の改善が必要。
171		物資要請訓練のためにスマホでQRコードを読み込んだが、制限がかかっているように入力できず、職員自身の携帯で実施してもらった。学校に配備されている携帯の状況を確認願います。
172		優先発信付き携帯電話でQRを読み込むことができなかった。※読み込みにブロックされているような内容が表示された。そのため、学校のスマートフォンではなく自身のスマートフォンから回答をした。
173		QRコードが読めず、かなりの時間を要したが、結局できなかった。新規訓練で学校側に設定を依頼していたと思うが、そこも含めて資料提供をお願いしたい。
174		要請物資の入力についてもLINEWORKSから入るのが分かり辛かった。ネットが使えないときの想定も考えるべきとの意見があった。
175	通信訓練	防災行政無線の送受信訓練では、受信を確認し、受話器を取ったが、プレストークボタンの位置がわからず、うまく送信できなかったかもしれない。今回の訓練のマニュアルにもプレストークボタンの位置の説明があると良かった。
176		防災行政無線は、近くにだれかいけないと呼ばれてもわからないと思った。実際の避難所では、この無線近くに人が張り付いていないと、無線をとるのは難しいのではないかな。避難所開設の際、職員が常駐する場所へ、防災無線をおいたらどうか。（電源などの問題もあるが）
177	避難所体験	避難所スペースやトイレ体験では、体験してもらうことで興味を持ってもらえて良かった。
178		参加者が多い予想を立てていたことや、市職員が不慣れな点が多かったことから、避難所設営のメイン部分に重点を置いて行ったため、全ての作業工程をクリアすることができなかった。行った部分については、地域の方が積極的に協力してくれたため、スムーズに進めることができたため、反省点はほとんど挙がらなかった。
179		参加した職員や地域の方が、それぞれの立場や役割から感じたことを、次の訓練に生かすために屈託なく意見を出していた。
180		今回は晴天での訓練であったので、室外での訓練も順調に実施することが出来た（応急給水栓を除く）避難所体験は、通常の生活では経験できないことであり、保護者も生徒も良い経験となったと考えている。
181		子どもたちが防災を身近に感じるイベントとして良かった。
182		展示に多くの人が参加してくれてよかった。
183		ベッドは皆興味があるようで次々乗って体験していた。一人一台ほしいという声もあった。
184		配布した備蓄食料の「握らないおにぎり」の人气がすごかった。災害時でもそうだが、人が大勢並ぶので、そのような場合は分散してブースを設ける等の対応が必要かもしれない。
185		受付の必要物品に「靴袋」というのがあったが、靴袋が見当たらなかった。体育館の靴箱を利用してもらった（結果として、靴袋を使わないほうが楽ではあったと思う）受付も、何をすればいいのかわからなかった。実際、受付してもらうわけでもないのに、名簿と健康チェックカードを参考に渡していた。受付のやり方もよく分からなかった。これは、災害時の受付の様子を設置して、眺めてもらうものなのか（受付とはこういうものだという説明？）実際、受付するものなのかが分からなかった。
186		雨天時の想定はしているのか。例えば、雨に濡れて避難してきた人への対応。備蓄品にタオルを大量に準備しておくとか。簡易トイレの設置・使用方法について、口頭での説明だけでなく、実際に使ってみないと実感がわかない。避難所入口・受付から、自分の避難スペース（ブルーシート）までの動きを、皆でロールプレイするべき。

番号	項目	意見等
187	避難所体験	せっかくの貴重な体験の場を設定しているにも関わらず、実施することの内容に含まれていることの準備もできていない(アルミブランケット、マンホールトイレ4台、トランシーバーの活用等)ということは、非常に問題であると感じた。全員ではないが、職員がただだらしているのが目立った。保育園の職員は自分が担任していた子どもだからということで、お手伝いする側に児童を入れ、お手伝いさせていた。リーダーの指示出しがないため、個々が勝手な判断で勝手にやっている印象で、まとまりがなかった。リーダーが体育館内にいない時間が長すぎだった。実施することの内容をリーダーに伝えたが、できない様子で、なかなか難しかったのだと思う。誰が何を担当するのかという詳細な役割分担表が必要だったのではないかなと思う。役割分担表を作成できないとしても、当日、口頭で割り振ることも可能であったと思うが、難しかったように思う。地域住民の中には、昨年度はこんなにぐだぐだではなかったと言っている方もいた。保育園の職員については、リーダーが注意していなかったのも、私の方で注意をしたが、その後もお手伝い側にずっといさせている状況であり、良くないと感じた。応急水栓体験についても、その場所まで案内する人を割り当てると良かったと思う。応急水栓担当職員については、添付資料を見てなさすぎであると思った(別冊資料集に書いてあることを書いていないと言っていたりもした)。
188		参加者(当日は400人近くが参加)が多い学校では、避難所体験をするに当たって、一斉に体育館へ集まることによる事故の危険性があると感じた。この点については、校長、副校長ともに気にしており、特に、雨が降った場合では、事故のリスクが高まると心配していた。参加対象の縮減。
189		参加者(当日は400人近くが参加)が多い学校では、一斉に体育館へ集まって避難所体験を実施することに事故などが起きないか不安を感じた。この点については校長先生と副校長先生も気にしており、特に当日雨が降った場合の対応について心配していた。参加対象者を絞るなど、訓練のやり方を工夫する必要がある。
190		避難所体験者は、60名程度にすぎなかったが、入り口が混雑した。発災時はもっと混乱すると思った。体験であっても、多くの方に体験してもらうためには、くつのまま入ることができるようにするなどの工夫も必要か。
191		昨年度は実践したのだが、受付で名簿を渡し、ブルーシートまで案内をするという一連の流れを今年度も実践した方が良かった。そのあと、体験ブースに案内した方が良かった。ベッド体験は良かったと思う。トイレ体験のテントは車いす用のテントを使用した。配付品は1家族1つとのことであったが、兄弟で来ることも多く、その場でけんかになるので、子ども1人につき1つとした方がよい。ライトや手巻きラジオの説明書的なものがあると良いと思った。低学年の子どもには少し難しく、高学年の子どもには壊されるのではないかなという感じの取扱いをしていた。蓄電池については、これでどのくらいの時間もつか、充電時間はどのくらいかかるのかなど質問されたが、説明書が分かりにくく、答えられなかった。地域住民でも答えられるような、簡単な説明書があると良かった。
192		受付について。訓練のそれほど多くない参加者でも滞留してしまった。もう少し配置する職員を手厚くしてほしい。②避難者名簿を配布することとなっていたが枚数が少なく配布できる状況になかった。またファイリングすることから、事前に穴を開けておいてくれるとスムーズに対応できる。③避難スペースに案内する際に、番号表示をした大きなシートがあるといい。シートまで行かないと番号が分からない。④受付の案内表示など繰り返し使用するものはラミネート加工したほうがよい。避難スペースについて。訓練のたびにブルーシートの番号を貼り、終了後に剥がすとブルーシートが破けてくるため、事前にブルーシートに番号の貼付と受付表にも番号を採番しておく、間違いがなく案内できるのでは。トイレ体験について(保護者から)。素手でトイレを扱うのが衛生面でどうなのか。食料品、飲料水展示について。有事の際にどのようなタイミングで提供するのか分からない。(受付)(避難スペース)事前に対応できるものについては検討をお願いしたい。
193		今日の受付は紙で行ったが、防災の備品を見ると「QR受付」も準備しているように見受けられる。今後はそのような対応もできるようになるかもしれない。
194		受付の際、QRコードを使った受付というのものもあるように掲示物に記載があったが、そのようなやり方は知らされていないので、本当の災害時の時だけ使うものなのかなと思った。災害時も受付は混雑すると思うので、スムーズな方法を導入してもよいかもしれない。訓練時からQRコードで受付できるものを導入するなどやってみるのもいい。(カウントするのも大変なので。)
195		避難所受付には相応の人数が必要。具合が悪い人やペット同伴の人が来たときの対応もある。

番号	項目	意見等
196	避難所体験	児童が一気に来場し受付2人で行っており行列ができた。受付人数をふやしてもよい。実際の避難所でも、このようなことがおこる可能性もあり、まず、体育館へ入れ、その後、受付表に記載してもらってはどうか。誘導する人も必要。
197		動線が悪く受付を通らずに行く体験者が多かった。受付位置の改善を。
198		受付の際、大勢の人が来ると人数のカウントが難しいと感じた。
199		受付体験は最低3人はいた方がよい。
200		受付スペースの訓練マニュアルの記載を見落とし、避難所体験参加者数をカウントすることができなかった。そのため、人数は概算で報告した。
201		応急給水栓について、空いている時間に職員が体験をする予定であったが、持ち場を離れる時間が無く参加できなかった職員がいた。避難所体験の職員配置は、職員だけでなく地域住民の方を加えて配置を行うのは可能でしょうか。住民の方も体験できるのに加え、配置に偏りがなくなると思います。
202		今年度は、避難所体験者の人数が大幅に増えた。来年度も人数が増えると、さらに人員の配置が必要になる。また、説明する際、どこまで市民にお知らせするか悩む（寒さを凌ぐために、どのように準備してもらうか等）。ブルーシート1枚での案内には限度がある。避難所体験にいらした方へチラシの配布以外、どのような啓発を職員がすべきか整理する必要がある。
203		昨年度に比べ参加者が大幅に増えたことや、避難所体験の準備が整う前に、体験希望者が多数待機する状況となったことなど課題が多かった。本来の防災に必要な業務と避難所体験準備業務は、内容も異なる。内容を整理し、余裕のある時間設定や人員配置をしないと、取組の意義が損なわれるように感じた。避難所体験に来た児童や保護者の中には、実際の発災時の避難生活を見据え、具体的な質問をする方も少なくないので、マニュアルや回答方法についても事前にレクチャーが必要であると思う
204		●●中学校は、避難所体験をせずに帰宅する家庭が多い。1学年だけでも良いので、避難所体験を授業に組み込むなど、必ず参加するようにしてほしい。生徒と一緒に準備できると、避難所体験の目的である「調布市で育った児童・生徒が避難所開設や運営に携われるよう育成」にもつながっていくのではないかと。子どもが参加すれば、保護者の防災への意識も高まると思う。学校との調整が必要だと思いますが、御検討ください。中学校だけでも、市職員と地域住民と生徒と一緒に訓練できると、世代間交流も生まれ、有事の際に互いに助け合いやすくなると思います。
205		せっかく体験ブースを出しても生徒・保護者が来ない。学校も周知してくれたというが、周知や実施方法を考える必要がある。例えば、避難所開設前に生徒が体育館で授業を受けていたため、授業の一環で体験ブースを見学するなど。場所的にも、●●中学校の第一体育館は1年生しか通らないため、見学者が限られてしまった。また中学生であれば、一緒に避難施設の開設をするなどしたほうが有意義ではないかと意見があった。
206		避難所体験に関する参加者が少ない。学校の授業に参加し、避難所体験の声掛けを行えば、参加者が増えるのではないかと。
207		避難所体験を知らない生徒が多かった。周知方法は検討するべき。生徒が体験会に参加する仕組みを作してほしい。
208		受付後の誘導員が欲しい。受付を2人で対応したが、それだけで手一杯だった。→次回は人を配置する。
209		保護者から、避難所では食料などはどの程度備蓄しているのか尋ねられたが、答えられなかった。事前に知識として知っておく必要がある。
210		LED投光器の組み立てが難しい。英語で記載がある簡易な説明資料があったが、日本語のものと分かりやすい。
211		(1) 投光器について、充電しておくよう指示が出ているが、課避難所の開設訓練直前の短時間でしか充電時間を割くことができない。開設訓練時間帯に真っ先に充電は開始はしているものの、毎回どれだけ充電がされているのか不明。(2) ごみ置き場の具体的な場所の明示してほしい(避難所運営マニュアルには留意事項あるが避難所配置上はない)(1) 投光器についての充電(訓練以外で充電の機会がある場合を除いて)は、訓練当日でも早めの時間帯で充電するよう改善することで、充電有無の心配が解消。(2) 通常の学校運用上のごみ集積場所では不足することが見込まれるため。
212		その他物品展示、蓄電池の接続説明書が必要。充電にどれくらいかかるか、値段はいくらかなど、答えられない質問もあった。
213		トイレコーナーは、今回(少ないことを見込み)1台としたが、混雑してしまった。→次回は2台用意する。

番号	項目	意見等
214	避難所体験	トイレ体験について、今回は訓練として展示している旨を、参加している地域の方に説明がなかった。また、応急給水栓についても、今回、目玉の訓練のはずが、設置できず、共有がされなかった。訓練の内容が事前と変わったときや、状況に変化が生じた場合は、速やかに地域の方に説明し理解を得るようにする。
215		仮設トイレを設置した場合に、ビニール袋の使いまわしはどの程度まで利用可能か？学校の便器が利用可能であれば、そこも訓練の場として利用できないか？トイレ利用に関する参加者の関心の高さからも、台数を増やすことができることが望ましい。避難時のトイレ利用に際しての、実際のキャバや利用方法など、マニュアル説明への追記と利用計画図面へのおとし込みができると良いか。
216		トイレ体験コーナーにおいて、参加者から衛生管理をどうするのか不安の声があった。素手でビニールをつけることになるのか、使用後の汚れなどはどのように清掃できるのかイメージできず、使用することに躊躇してしまうという内容だった。携帯トイレやマンホールトイレについて認知度が向上したことで、実際の使用場面や衛生管理の在り方について意識が向いてきていると感じた。受付以外にも、消毒液を用意したり、簡易手袋等の衛生用品の準備も必要である。また、そういった備えがすでに用意されているのであれば、トイレ体験と一緒に周知できると良い。併せて、学校の井戸水はどのような場面で使用するのかも周知できると良い。
217		使い捨てトイレは1回で使い捨てなのか。複数回・複数人で使うものであった場合、衛生面が気になるという意見があった。
218		トイレの設営に時間を要したため、児童・保護者への説明の準備が整わないまま体験がスタートしてしまった。児童・保護者への訓練の流れなどがまとまった資料があると良かった。
219		トイレ体験について、何回でトイレを閉じるのかと来場者に聞かれた。一回ではないと思うが、どう運用するのか、もう少し他のことも含めて避難所運営における情報がほしいと思った。
220		マンホールトイレについて、使用する袋が黒・白あり、さらに2種類ありわかりづらい。また、大切な訓練なので毎年実際に設置し、排水の可否などを含めた訓練をお願いしたい。
221		マンホールトイレ（テント付き）のライトが手前にあるが、使用時等に邪魔になる。ライトの位置を、テント内の奥や横にするとよいのではないかな。
222		以前の訓練でマンホールトイレをやったが、トイレットペーパーが流れず、綺麗にトイレを保てないと感じた。そのため、使い捨て簡易トイレを使うほうが現実的ではないかと思う。
223		トイレ体験で、マンホールトイレを使用してみて、トイレットペーパーがゴミ袋に上手く入らなく、その結果で便器等が汚れると感じた。また、予め、流す専用の水を用意しておくのも大変だと感じた。衛生管理を考えると実用的ではないと思う。簡易トイレの衛生面を良くするグッズを補充してほしい。
224		マンホールトイレは、実際にはどのくらい設置するのか。防災の日説明会の冒頭で危機管理部長？が言っていたように、まずトイレの設置を第一に、初動を行ってほしいと言っていたが。
225		避難所体験全体をととして、実際のロールプレイなどの実体験が必要ではないか。（過去、そのような体験があった）
226		時程どおり進行したが、避難所体験準備から体験まで非常に慌ただしいまま体験開始時刻になってしまった。次年度からは、最初に避難所体験準備をする必要がある。
227		避難所体験で何をやっているのかわからず、途中まで体験して帰る生徒もいた。入口に案内があったり、各ブースに説明の案内があるとよい。会場内の案内の設置。
228		避難所体験では、各ブースの説明などが書かれた案内を貼る、入口に各ブースの案内（順路）があると、応急給水栓への案内もできて良かったのではないかな。
229		ブルーシートへの案内係がおらず、受付→ブルーシートで記入→展示を回るというほうが実際の避難所に近い体験ができたのではないかな。受付用紙が足りなくなった。
230		長期避難もありえるので、プライバシーを確保できるような仕切りの備えも必要。
231		避難スペースについて、仕切りはあるか。まずは、避難所の確保が最優先。避難生活が長くなる場合は、物資の供給状況にも左右されると思うが、仕切りなどの環境整備についても検討した方がよいと考える。
232		床にブルーシートを敷く方式ではなく、避難スペース全てを段ボールで仕切る、テント式にするなど、プライベートに配慮した避難所にして欲しい。

番号	項目	意見等
233	避難所体験	シートを敷いてみたが、収容可能人数が少ないのではないかと。一般の人は校舎に入れないとのことだが、本当に足りるのか。
234		体育館の収容人数を把握しておきたい。現行のブルーシートだけでなくテント型の場合などパターンで提示してほしい。
235		現行のブルーシートでは小さく家族では座れない。また薄く長時間耐えられないため、シートの改善や段ボールベット・テント型などの配備などの検討、導入時期などを提示してほしい。
236		自宅からテントをもってきて、ブルーシートの上に載せても良いですか？という質問があった。テントを持ってくることは可能だが、限られたスペースとなるため、載せられない可能性もあると伝えた。
237		避難所というと段ボールベッドなどが報道されたりするが、ここではブルーシート1枚で痛くて長時間居られない。また、たくさんの人が避難してきたとしても対応できない。
238		食料品・飲料水展示は一番好評だったが、有事の際、どのように配布していけば良いのか、課題を感じた。
239		食料品・飲料水展示で、市民に配る配布数が難しい、興味を持った人が少ないという意見があった。
240		食料品・飲料水を避難者に配付するタイミングが分からず、判断が難しい。どれくらいの量を配付するのか、朝昼晩と間隔をあけて配付するのか、避難者が集まってきたあと、いつ配付するのかなど、平常時にある程度考えておかないと、実際場面では大混乱が起きそう。避難所開設準備以降の細かなタイムラインを確認する図上訓練を実施する。
241	応急給水栓	非常食を一世帯1つ配る、とのことだったが、実際はかなり余裕があったため、今後は、子どもには一人ひとつ配布としてもよかったのではないかと。
242		避難所体験のその他展示コーナーにおいて、複数の参加者からスマホの充電はできないのか、という質問があった。スマホだけが情報収集及び連絡手段となっている人が多くなっているため、今後も個人のスマホの充電について、ニーズは高まっていくと考えられる。
243		資料の「避難所体験」（45スライド）の説明に、事前に避難者名簿を記入したものを持ってきてと書いてあるが、みんな持っているのか。誰が持っているのか、訓練のときに持って来させるのも確認になるのでは。要望として承る。
244		受付スペースの訓練マニュアルの記載を見落とし、避難所体験参加者数をカウントすることができなかった。そのため、人数は概算で報告した。
245		【応急給水栓とマンホールトイレ設置のタイミングについて】●●小は応急給水栓が正門につながる通路にあり、避難所を開設した後では作業同線や設置場所を確保に苦慮する。避難所を開設する前に設置を済ませたほうが良い。【地域の方】設置は避難所開設と並行して行うべき。施設が整うのを待っていてはいつまでも避難してきた人を待たせることになる。
246		応急給水栓設置のタイミングについて、相反する意見が出た（避難所運営マニュアルを把握しないでの意見）。設置の場所（正門へのアプローチ動線）が、正門外側の●●中前道路側に寄っているため、設置担当者からは、避難者が右往左往する状況に陥る前（避難所開設前）に、設置場所の確保及び設置をしたい。地域の方からは、避難者はいち早く建物内に入りたいため、どちらが先ではなく並行作業がのぞましい。
247		応急給水栓は給水栓のフタが土に20センチほど埋まっており、シャベルが必要と感じた。給水栓の位置についてのラミネートされたものがあつたが、バッグと一緒に入れないと分かりづらい。
248		応急給水栓を設置する際、仕切弁が土に埋まっており、手で掘り起こした。いざという時に、きちんと利用できないようでは困る。仕切弁が埋もれないように、定期的に清掃するなどしたほうがよい。
249		応急給水栓は何年かごとにしか実施しないこともあるため、避難所担当職員及び地域住民にも見てもらうのが良いと思った（立てる時と片付ける時も含めて）。また、体育館での避難所体験から大きく動線がずれていたのは、人が立ち寄りなかった原因だと思った。
250		応急給水栓に係る物品については、設置する場所から遠い方の防災備蓄倉庫に保管されており、現場での動きがきちんと想定されていないのではないかと感じた。物品を適正な場所に保管するとともに、マニュアル等を最新版に更新願います。

番号	項目	意見等
251	応急給水栓	学校敷地内に北と南に1つずつ防災備蓄倉庫がある。応急給水栓の場所は学校敷地内の北側であるが、黄色の応急給水資器材が南側倉庫にあり、消火用資器材の青い袋が北側倉庫に入っていたため、設置の際に混乱を招いた。また、元栓の場所がわかりづらかった。次年度においても当該訓練を実施し、全員で応急給水栓の場所や設置方法を確認すべきである。応急給水栓の設置訓練と展示を行う際は、子どもと保護者向けの設置場所の案内板をあらかじめ用意する必要がある。また、元栓の場所なども避難所運営マニュアルに追加したほうが良いと感じた。
252		応急給水栓の資器材は重量があるが、使う場所が学校の一番遠い場所となり、運搬が困難。応急給水栓資器材の運搬はリヤカーの活用をお願いした。
253		応急給水栓の設備は体育館から離れた場所にあるが、子どもたちが（物珍しさのため）触りたがっていたので、実際の開設にあたっては、管理上、人を常駐するか又は使える時間を制限するかのいずれかをした方が良い。
254		応急給水栓は、外れやすい部品もあるので、実際の避難所開設の際は、いたずらなどされないよう、職員がついておく必要がある。（●●小は、体育館からかなりはなれていて目がとどかない）
255		応急給水栓の展示を行ったが、避難所体験の体育館と場所が離れているため、展示を見に来る人が職員（先生）1人のみだった。応急給水栓の設置作業も避難所体験展示と同時並行だったため、設置作業を他の職員が見ることができず、展示の意義が薄くなってしまった。
256		位置の都合から仕方ないが、応急給水栓をあまり保護者・児童に見学してもらえなかった。
257		避難所体験の見学者が少なかった。応急給水栓を見に行く人がいなかった。
258		せっかく実施しているのに、体育館と場所が離れているため、見に来る生徒等も少なくもったいない。また、職員や地区協議会等の地域の方も設置準備、体験を含めて見ることができなかった方がいる。3年に一度の応急給水栓などは全員が準備等に携わるようスケジュールを変更したほうがよい。せっかくの機会に体験できないと、体験者が増えていかない。
259		そもそも学校の水栓の位置が使いづらい。また、備え付けのホースが短い。下水の流し先の確保が難しい。
260		水栓の位置が池の近くであり、実際に使う時に、怪我等につながりやすい。給水用と排水用の長いホース（10m以上）の配備が必要。水栓場所の移し替え。
261		応急給水栓の設置場所が暗く、実際の設営や運用が夜間に当たる場合に、作業が困難。
262		応急給水栓を利用するバケツがふたつとも穴があいていた。
263		応急給水栓は壊れているのではないかと。水が溜まっていた。ちゃんと使えないとだめなのではないか。
264		水を出したままなので、周辺がびちょびちょになり、途中で向きを変える必要があった。水をためるバケツ等を用意して欲しい。蓋を開けたとき、落葉等で汚れていたの、束子等があると良い。
265		井戸水はちょろちょろしかでず、水を貯める労力・時間もかかるため、災害時の使用は難しい。応急給水栓の前に受水槽を利用するとよいと思うので、備蓄倉庫に受水槽の鍵があるとよい。
266		応急給水栓について水道管の溝に雨水が溜まってしまい、学校事務職員が事前に汲みだす必要があった。管の一部から水漏れが発生していた。①そもそも設計上の問題との指摘もあり、水捌けがなされていないことが原因と推察され改善が必要である。②給水栓の管の水漏れについて、改めて確認及び必要に応じて改修されたい。
267		準備段階で、専用器具を使いバルブの開栓を試みたが、設備側の凸部分がねじり切れて、開栓できず訓練自体が実施出来なかった。破損状況の確認・把握及び本体の基本的な構造や強度について確認し、必要であれば改修し、災害時に確実に利用できる設備とする必要がある。
268		仕切弁を開く際に固かったため力が入ってしまった。またホースを地面に置いて持ち手がなかったことから、ホースが暴れてしまい迎えに来た保護者の方に少しかかってしまった。作業スペースと保護者の方の導線が分かれているといいのでは。ホースの持ち手がなかったことは現場で徹底するよう確認はできたが、作業スペースの確保など検討をお願いしたい。

番号	項目	意見等
269	応急給水栓	応急給水栓の訓練において、マニュアルを参考に実施したところ、方法を誤り破損した。市職員向けにはマニュアルに動画が案内されていたが、破損させた当該者は視聴していなかった。職員向けの事前訓練のほか、地域向けの訓練を別途行うほうが良いと思う（個人的には、調布市ではありませんが地元自治会で毎年スタンドパイプを使った給水・放水訓練をしています。）。
270		応急給水栓の準備と、体育館での避難所体験準備を別の班に分かれて行ったが、全員が確認した方がよいとの意見があり、次年度も同様の訓練を行った方が良いと感じた。また、地域の人からは、元栓の位置などがわかりづらかったため、マニュアル化しておくとの提案をいただいた。
271		応急給水栓は、慣れていないと開設は難しい。セットに誰が担当しても分かるように簡単なマニュアルを入れておいた方がよい。
272		応急給水栓設置後、排水作業を暫く行くとマニュアルにあったが、きれいな水になるまで3～5分くらい必要なことが分かった。
273		応急給水栓の止水弁の開閉について、テキストに書き込んでおいてほしい。
274		仕切弁の位置がわからなかった。また貯水槽の使い方も知っておいたほうが良い。仕切弁は目印をつけてほしい。貯水槽の使い方もマニュアル作成してほしい。
275		別冊資料のP48の⑩に、ゆっくり約20度程度回すとあるが、仕切弁が固く、ゆっくり回したり、角度の調整をすることができなかった。そのため、水が勢いよく出てしまい、引き取り訓練に来ていた保護者の足元にかかってしまった。当該保護者には謝罪し、注意するようお叱りを受けた。
276		●●中学校の生徒は、毎年、避難所訓練を年4回程度行っており、トイレの設置訓練も行ったそうである。今後は、応急給水栓の訓練も行っていきたいと校長先生にお願いした。
277		チーム分けするか、時間割を組むなどして、全員が全体を体験できるようにしたほうがよい。特に応急給水栓は、毎年行うものではないので全員が設置等できるよう体験するべきだった。
278		訓練の日に応急給水栓の水を実際に飲んでみてもらうのも良いかもしれない。
279	マニュアル	実災害を想定して、現場本部をつくった方がよい（●●小と●●中一緒）。情報を一極に集める。避難所運営本部長は誰がやるのか（マニュアル策定時には、市の職員は入っていなかった。マニュアルの整備を。本部長は地区協になるわけない。）。避難所運営マニュアルの早期改定（しかし、●●小学校・●●中学校・●●事業により、建て替えを控えており、建て替え後は、また1から作成する必要がある）
280		●●小学校と●●施設の防災マニュアルが1つになっている。それぞれの関連性や施設の特性は理解しているが、個別の施設として内容が曖昧になっていると感じられるため、分割してほしい。要望は承るが、地区協議会でも話し合してほしい。
281		人命が優先されるような事態にどのように意思決定するのかマニュアルに記載すべき。
282		避難所に市職員よりも先に地域の人間が駆け付けた際、最低限の避難所を開設できるマニュアル作成を検討してほしい。
283		マニュアルが白黒のため、色分けされていてもよくわからない。体育館の中に設置するだけでなく、設置するマンホールの上に置かなければ、訓練の意味が半減するのではないか。
284		リーダセットに入っていた配布用の資料が白黒印刷のため、塗りつぶしによって文字の判別が困難な部分あり。
285		市職員が～、地区協が～という役割分担がマニュアルに書かれていない。
286		用意していただいた資料（地域の方に配るもの）に参加職員の名簿が添付されていましたが、こちらは不特定多数の外部の方にお配りするのが適切ではない資料ではないでしょうか？
287		各資料を管理職用iPadにて提供して欲しい。管理職には、iPadが貸与されているため、関係資料をiPadに提供することで、一定程度ペーパーレスに繋げることが可能と感じた。管理職用iPadへの関係資料の提供が望ましい。

番号	項目	意見等
288	掲示	案内の文字が小さくてわかりづらい。(毎年要望しているが改善されない)案内表示の作成時に、より大きな文字表記を行う。地域住民と共に、表示も作成する。
289	・案内 ・広報	避難所体験準備時にマニュアルや指示とは別に、大きいサイズの準備方法などの掲示物があると分かり易い。今回は、マニュアルをカラーコピーしたものを両面で準備していたものを代用した。(表：準備の仕方、裏：体験時の説明内容)マニュアルを見ながらは難しいため、マニュアルの拡大版(カラー)があるとよい。
290		市役所や委託業者が案内表示を作るのではなく、実際に備品を運搬や使う地域の支援者が案内表示をつくることはできないだろうか。
291		紙の大きさが小さいため、矢印等凡例が密集してしまい、わかりづらい。校舎内・体育館以外の場所を活用する場合は、施設名を明示した方がよい。どの建物・場所を示しているのかわからない。より大きな紙を使用し、一目でわかりやすく記載してほしい。
292		ターボリンの設置が正門前となっていたが、正門が道路と接していないため道路側入り口へ設置するほうが良いのでは。●●小は該当しないが、風水害の時ターボリンが飛ぶなど考えられるため固定方法は検討の余地がある。
293		ターボリンは、道路から見やすい場所に設置してほしい。理由は、学校避難所ごと正門の立地条件が異なる。主要道路から正門まで距離があると、避難所が開設しているかわかりづらい(正門は人が滞留している可能性もある)ため、道路に面したところで設置してほしい。設置方法が養生テープだけで脆弱に見えた。説明会写真資料のイメージが強すぎたため、「正門付近に設置に限らず道路に面した箇所に設置も可」と記載変更を希望。設置方法も養生テープ以外で紐で結わえるか、金具に掛けられるよう工夫検討してもらいたい。次回以降は、要望のあった対応で設置としたい。
294		掲示物に「避難所開設中」(ターボリン)だけでなく「訓練中」も作ってほしい。
295		自家用車での乗り入れは禁止であるが、発災時において自家用車の取り扱いに対する避難者の理解が円滑に得られるのか不安の声があった。市民の方へ、平常時から災害時における自家用車のルールについて、周知徹底を図る必要がある。
296		自家用車での乗り入れは禁止であるが、昨今の各被災地での自家用車による避難生活の状況も一部ある中で、乗り入れ禁止を避難者の方に対して円滑に理解を得られるのか不安の声があった。予め、市民の方へ災害時における自家用車のルールについて周知を図る必要が考えられる。
297		【校庭の使用について】有事の際に、登校するのが困難(高齢者や歩行困難者等)である市民が車両を乗りつけ校庭に駐車希望するケースが想定され、その場合の対応(車両駐車を承諾するのか否か、受入れ台数の制限、事後の放置車両の扱い等)の検討が必要。※以前、台風避難者の車両進入による輪だち問題があり、その後の校庭を使用しての授業に苦慮したケースもあり。
298		車で避難所に来られた場合、帰ってもらうように案内するのは難しいのでは。事前の周知が必要では。
299		避難所の受付の案内をはっきりわかるように。避難所の入口が遠くからでもわかるように。
300		図上訓練を含め、掲示物は一目見てわかるものにしてほしい。
301		一般の参加者向けの広報が充実していないと感じた(●●小のホームページに載っていないことと、市報等に集合時間・場所等の具体的な情報がないこと)ので、充実させると参加者が増えるのではないかと。可能な限り、広報媒体に情報を充実させる。
302		市報で防災教育の日を知り訓練に参加したが、当日の集合場所等が分らなかった。市報では地域の方に積極的に参加を促しているにも関わらず、当日の集合場所を周知しないのはいかなるものか。市は言っていることとやっていることに、いつも乖離がある。来年の防災教育の日までに改善してもらいたい。
303		令和7年4月5日付の市報に掲載された「令和7年度調布市防災教育の日」を見ると小中学校の事業としか読めません。又、学校で配布したお知らせも同様です。避難所の運営は地域市民や避難者が行う方針とされています。従って、多くの市民が訓練に参加して覚えてもらい災害に備える目的があります。もっと明確に市民参加を掲載すること、学校ごとの訓練内容を記載した市民向けお知らせを作成して配布してほしい。地域の方がランダムに参加されるとなると、指揮を取る職員の負担が過大になると思います(説明の行き届き確認、資料が行き渡るかの確認、避難所開設訓練の役割分担決め等)。そのため広報誌には避難所体験に参加を促す内容とするのが現状のバランスとして良いかと思っています。
304		備蓄については、各家庭で3日分を用意してもらい、それを避難所に持ってきてもらったうえで、足りない分を公的機関のもので賄うということになっているかと思うが、その意識が市民の方に浸透していないと思われるので、広報した方が良いのではないかと。(視察参加者)

番号	項目	意見等
305	感染症対策	避難所利用計画の発熱者の動線が、非常階段を使用して4階に移動することになっているが、非常階段は外から開かないよう施錠されているので見直しが必要である。
306		発熱者の避難場所が4階となっており、発熱者が外階段で4階まで上がるのは無理があるのではないか。1階や2階の空いているスペースを使用することで対応できないのか検討してはどうでしょうか。
307		発熱者の避難場所が4階となっているが、発熱者が外階段を使用して4階まで上がるのは無理がある。隔離が必要なことは分かるが、4階まで歩けるのか。発熱者の避難場所は2階にする、その他教室が必要になった時には3階、4階をそれぞれ利用していけばよい。
308		避難所の利用教室について。発熱者の避難場所が4階となっており、外階段で4階まで上がるのは無理があるのではないか。可能ならば、1階や2階の空いているスペースを使用することで対応できないのかとの意見が出ました。
309		発熱者の隔離部屋への導線が外階段を使用することになっていた。通路等での一般の避難者との接触を避けるためと思われるが、外階段は、外からは開かないので、どうするのか。部屋の開設のため、まずは中から入り、ストッパーなどで空けておくしかない。
310		地域住民から発熱者について、外を回って●●へ行くようになっているが、コロナも落ち着いたので、校舎内を通って行くよう計画を見直してはという意見があった。※この件については、別の方からは臨機応変に対応すれば良いのではという意見もあり。※平常時は、校舎内を通ることも可能だが、休日・夜間は、セコムを解除しないと校舎側へは、入ることができないのではという意見もあり。
311	要配慮者	発熱者の避難場所が3階だと移動がづらいので替えた方がいいのでは？1階への避難が移動は楽だが、高齢者とは離すべき。保健室か2階へ変更はできないか？→保健室については、薬品も置いてあるため解放は難しい。それ以外の方法で変更を検討するよう報告する。
312		アルミブランケットを一斉に使うと、シャカシャカ音がうるさい。聴覚過敏症にはづらい。北陸地震の避難所で、苦労された人がいたと聞いている。障害者の中には作業ができる人もいる。何もしないでじっとしていることは障害者もづらい。できることは手伝えわせてもらえると助かる。
313		障害者の中には作業ができる人もいる。お手伝いをさせてもらえるとありがたい。アルミ製のブランケットの「シャカシャカ」という音に敏感な障害者もいる。配慮をお願いしたい。要検討。
314		避難スペースで使用するアルミブランケットは、使用時の音がうるさい。使用する本人の音への煩わしさや周囲からの苦情などがある。聴覚過敏症の人もおり、配慮が必要。
315		●●の方からの意見。障害児が単独で避難した場合に、以下の対応が必要である。全体を通じて、職員は鞆等に付けているヘルプカードを確認して、適切なフォローをすること。受付では避難者名簿の記入が難しいため、職員が聞き取りで代筆してあげること。もしくは、避難者名簿を障害児家庭へ提供して、予め記入して障害児に携帯させておく方法でも良い。簡易トイレについては、プライバシー保護でテントを設置しているが、テントの中で障害児一人では使い方がわからずパニックになってしまう。使い方の手厚いフォローが必要である。職員へ周知徹底する。
316		見学された方からの意見。障害をお持ちの方、ヘルプカードあり。一人だとトイレの利用が難しく補助してほしい。
317		正門ではなく、裏門から入ろうとする避難者もあり、足元が不自由な方など要配慮者に対しても、遠回りをさせてでも、正門に誘導するべきかどうか？裏門には正門への案内の提示が必要。裏門などに人員を配置できるのであれば、誘導係を置き、要配慮者への特別対応は検討できるか。
318		体育館において、ブルーシートの上で過ごすのは高齢者の方などにとっては環境が厳しい。プライベートの仕切りなどが設けられないのかとの要望あり。避難所へ訪れる方に対して、平常時から避難所に持ち込むと重宝する座布団・厚手のタオル等も避難時の持出物資の一つに加えるよう周知を図る必要がある。プライベートの仕切りなどの物資は、当初設営時の段階から備えられないことも想定して、避難先の選択肢として友人宅や親戚宅なども予め検討していただくことを市民の方に周知が図りたい。

番号	項目	意見等
319	要配慮者	地域の方から、体育館においてブルーシートの上で過ごすのは高齢者の方などにとっては厳しい環境であるとの意見あり。プライベートの仕切りなどが設けられないのかとの要望もあり。
320		地区協の方からの意見として、●●小学校の体育館は、正門から行くと、一段あがり、さがって到着する場所にある。高齢者などは、裏門も開放しフラットな状態で避難所へ行けないか。裏門の開放については要検討。
321		福祉避難所の移送訓練も行って、ハケ下からハケ上への移送するときの課題を把握してほしい。
322	様式関係	受付の際の健康チェックカードについて、基礎疾患など、もっと具体的に書ける欄があるとよい。（避難所体験された方から）
323		「健康チェックカード(感染症対応)」に普段服用している薬などを記載する欄を設けて欲しい。
324		受付で避難者名簿を配布する時に「事前に記入したものを持参するように」と言っても白紙様式を配布したが、実際の避難の時に5人家族だが先に3人避難してくる場合等、その場にはいない2人分の情報はどうしたらよいのか。
325		一般受付で配付した名簿には、ブルーシートの番号を書く欄がないので改善を。（様式古い？）総合受付の訓練も行った方が、より実践的な訓練になると思うので、来年は検討して欲しい。4～6年生まで対象を拡大したが、参加者は思ったほど、増加しなかった。訓練終了後、校長先生からは、副校長先生が外で帰る人に案内をしていたが、体育館が2階なので行く人が少なかったのという話があった。来年は外で案内する人を配置し、誘導する必要があると感じた。
326		受付配布（回収）用紙に「後に回収（記入後必ず提出）」と記載してほしい。理由は、受付で待たされるより、早く体育館・校舎に避難したい人が大勢いると受付で滞留が生じてしまう。受付での滞留は避けたいため。課題は、受付配布（回収）用紙を確実に避難者から回収（自己提出）できるか、誰が提出していて、回収できていない人が誰なのかが不明になる。
327		受付混雑を回避するため、避難者名簿は「記入後に回収します」、「記入後は回収ボックスへ」、健康チェックカードには「避難所にいる間は毎日記録してください」という文言を入れてはどうか。避難者名簿が事前に記入し、持参してほしいとの周知が市民に足りていない。各家庭で避難物資に入れるものとして様式の配布、広報をしてはどうか。避難所体験では出入口を分ける。
328		3年前の訓練で使用した、個人情報が入った避難者名簿や自治会の会員名簿がファイルに綴られている。また、今回の避難所体験で避難者名簿の在庫がなくなった。避難者名簿の用紙の補充と不要な個人情報の廃棄をお願いします。
329		避難者名簿の枚数が足りない。訓練用だったためか、8枚しか用意されていなかった。個人情報を記入することへの抵抗を示す参加者もいたため、市民への周知・意識づけの一環として、参加者全員に配付できるよう用意してほしい。また、ファイリングするために、あらかじめ二穴をあけておいてほしい。被災時は、穴あけパンチを用意する余裕はないと思う。各避難所の訓練参加者数の実績を踏まえた枚数を用意する。ファイリングする必要がある書類には、あらかじめ二穴をあけておく。
330		避難者名簿に、避難スペースのナンバーを入れるようになっているが、あらかじめ印刷されていると良い。避難者の受け入れ当初は、混乱することが考えられる。避難スペースのダブルブッキングが起こる可能性が高い。併せて、ブルーシートにもあらかじめナンバリングできていると良い。（一長一短あるかと思いますが。ナンバリングについては御検討ください。なお、訓練によるブルーシートの劣化を防ぐため、訓練用のブルーシートだけでもナンバリングしておき、「訓練用」と明記されていると良い、という意見もありました。）
331		受付票については受付の際に配るのではなく、予めホームページにアップしておき、受付では受け取るだけにしておくスムーズに受付ができるのではないかと。（視察参加者）
332		【見学者・●●大教授からの意見】他自治体では受付表はホームページに公開しダウンロードできるようにし、避難所にくる前にかける人は書いてきてもらう。他自治体では、避難する際に、家庭備蓄をもってきてもらうように伝えてあり、避難所備蓄はその補完。他自治体の訓練では、ここまで本格的におこなっていない。
333		避難所名簿の記入について、デジタル化を検討してほしい。能登地震の避難所ではQRコードを利用して集計していたとのこと。

番号	項目	意見等
334	学 校 施 設 ・ 備 品 等	実際の避難所開設の際は、職員用の休憩スペースも必要。
335		避難所開設前に体育館外の施設内のトイレを使用可、不可を明示すべき。
336		トイレが暗い（地域の方からのご意見）
337		防災訓練の前に学校の草刈りをしてほしい。（備蓄倉庫から体育館までの間の草）
338		避難所となる体育館の排気口から落ち葉等の小さいゴミが散乱していた。雨風が強い時には床が濡れてしまうとのこと。（●●小学校の職員より）●●小学校は風水害で避難所開設するケースが多いと思うので、雨風が入り込んでくる状況は改善が必要。
339		令和7年度に予定している体育館改修工事中の避難所運営をどうするのか。災害時には校舎のみで運用するのか事前に説明がほしい。教育総務課に確認し共有する旨回答。
340		小学校のごみ置き場は既存のものは小さいため、避難所開設後のごみ置き場を改めて決めておくべき。（し尿ゴミや生ごみ等）
341	避 難 の 考 え 方 ・ 周 知	倉庫から運ぶ際に大き目のリュックやトートバックがあると良い。倉庫から体育館内への導線が狭く、ぬかるんでいるなど怪我をせずスムーズに運ぶことが困難であり、早急な施設改修が必要。
342		ハイブリッド発電機は4時間しか使えない。電気自動車であれば3日間使える。狛江市は電気自動車に対応するとの情報あり。対応できる分電盤に交換する必要がある。必要だと思われるので、対応を検討してください。
343		受付について一人当たりの処理時間はどう見ているか。800人が避難してきたとして、滞らず体育館など避難場所に入室できるのか、受付で何分待たされるのか。（令和元年台風19号の際の受付の混乱を無くすため、待ち時間を解消することを前提に考えたい）
344		台風19号発災時のオペレーションから改善されていない。一度に大勢が避難してきた場合の受付対応等が想定されているのか。
345		災害想定するときは最大の想定をするべき。想定外の人数が来たときどうすればよいのか考えてほしい。
346		【立地を踏まえた避難所想定】国道20号線沿いという立地の特性（新宿から徒歩で八王子方面に帰宅する方の中継地点であること）を鑑み、近隣住民以外帰宅困難者等の受け入れ体制やガイドラインが必要だと思います。徒歩で帰宅途中の市外在住者からのトイレや飲料水提供の要望などが想定できますが、市内居住者や在勤者を優先し市外の住民の受入れやサービス提供を規制をするのか否か等、どう対応するのかの判断を示してください。
347		●●小は甲州街道に面しており、災害時に相当な人が避難してくると思われる。こうした立地を考慮した想定をするべきである。
348		震災時、体育館が利用できない状況の場合、どこに避難すればよいのか事前に確認しておきたい。
349		本避難所は震災時のみ開設され、風水害のときは開設されないことは把握されている様子。ただ、風水害のときの避難場所を正確に把握されていない、又は周知が行き届いていない様子なので、整理する必要があると感じた。
350		●●施設と●●小、どちらの避難所に避難すればいいのか分かりづらい。
351		体育館には思ったより避難者が入ることができない。収容人数を示してほしい。体育館が使えない場合の次の避難先をあらかじめ示してほしい。段ボールベッドの有無と数量を明確にしてほしい。地域住民からすると、わからないことによる不安がある。災害が起こらないと準備が適正だったかはわからないが、ある程度を示す中で不安の払しょくにつなげる取り組みを進めてはどうか。
352		福祉避難所（●●地域福祉センター）の体育館がなくなることについて、今後の対応を共有してほしい。
353		ペットの避難所に関して、その場に大人しく、留めておくことは難しいのでは。
354		ペットの避難場所の前がトイレになる。避難者の導線が乱れる。ペットの避難場所もトイレの位置も変更しにくい。避難所担当者がよく理解して誘導するしかない。
355		【ペット類の保管場所について】現状、プール更衣室となっていますが、避難場所の体育館のすぐ脇であることもあり、鳴き声や糞尿の臭い等の懸念が十分にあるため、場所の変更が必要と考えます。特に長期戦になった場合体育館に居る方々より苦情がでるのが想像できます。

番号	項目	意見等
356	避難の考え方・周知	ペットをゲージ内にて管理することに対して、ペットが慣れない環境のため吠え続けたりする等困難な状況が生じる懸念の声があがった。ペットの収容場所十分にあるのか、また、餌の支援は受けられるのかという質問があった。
357		ペットをゲージ内にて管理することに対して、困難な状況が生じる懸念の声があった。ペットの収容場所、餌の支援は受けられるのかという質問があった。平常時からペットを飼われている市民の方に対して、ペットの避難所におけるルールについて周知を図る必要がある。また、避難時の各自持出物資においても、ペットに係る準備も必要であると推察される。
358		毎年、この訓練を終えて、不安な気持ちで帰る。安心できない。見せるためだけの訓練になっている。毎年やっているが、避難所の運営方法が古い。今は地べたにシートを敷くのではなく、テント、段ボールベット等を使用する等、時代が変わってきている。シートを敷く訓練は、もうやめた方がよい。プライベート空間を確保する必要がある（段ボールに仕切り、テント）。乳幼児のいる女性に配慮したスペースの確保。図上訓練の図面も古い、単に備品等を並べるのではなく、いざという時の訓練をするべき。災害関連死を防ぐ対策。ペットの扱いも実際に訓練でやってみる。簡易テントも1張でなく、複数配備すべき。発熱者を3階まで移動させるのは、現実的でない。
359	事業実施に関する意見	昨年の地域からの要望がどうなったのか可視化してほしい。昨年、投光器の取扱いや充電の有無が心配との意見から、貸し出しを通じて機器に慣れることができるものとして地域からの要望として出ていた。今年の避難所開設準備作業の中で、地域のイベントで使用したことがあると聞き、要望が叶ったことを知ることとなった。全体での改善点は説明会で訓練に追加・採用されたもの、されていないものがある。特段、地域から昨年の要望に対する結果の確認はなかったものの、避難所単位で要望を出した結果がどうなったかは知る機会がなく、改善されていれば要望が叶ったものという理解になってしまふところが課題。
360		毎年要望を挙げても改善されていない。かたちとして訓練をやっているとしか思えず、参加する意味を感じられない。ベテラン職員がいないのも不安。避難所運営がちゃんとできると思えず、真剣に考えてほしい。避難所というと段ボールベッドなどが報道されたりするが、ここではブルーシート1枚で痛くて長時間居られない。また、たくさんの人が避難してきたとしても対応できない。
361		毎年の意見交換で出た地域の方々の意見・要望を総合防災安全課に伝えているにもかかわらず、次年度の訓練に反映されていない。地域の方々が不安に思ったりお怒りになったりするのはごもっとも。
362		令和6年度に提出した報告書で現状を確認した。まったく改善されてなく、地域の方から非難を浴びた。昨年は令和5年度の内容を確認したが、状況はかわらない。サブリーダー（リーダー不在）は特に標的になり、他の職員も立場がなかった。そもそもリーダーがいないことに対する不満があった。なぜ、当日来れない職員が当日のリーダーなのか？（説明会にも出席していない）
363		昨年度の報告書で地元からの要望等をいくつか挙げているが、その後特に回答もなく、今年度の訓練などにも反映されていない。出来るもの、出来ないものはあると思うが、検討された結果、不採用となったのか、検討もされていないのかは教えてほしい。地域の方から、「前も言ったんだけど…」と言われても答えられない。
364		地域の方から、毎年要望しているのに結局なにも変わらず、また今年も振り返りの時間で意見や要望を伺っていることについて、相当な反感がありました。（職員からも同様の意見がありました）私も今年異動したばかりで、今回が初回の避難所でしたので、事前の訪問・確認や前リーダーからの引継ぎなどを行い、昨年出た意見・要望を把握したうえで参加しましたが、昨年出た要望への対応について説明できず、市としての考え方や体制のあり方を問われる結果となってしまいました。（当然、予算・人員・施設上の制約も多いと思いますし、過度な要望（制約を一切考えずに最大限の環境整備を希望するような訴え）と思われるものも散見されましたので、出た要望全てについて要望通りとならないことは承知しています。が、）前年出した意見・要望について、市としてどのように対応したのかを回答することは必要かと思います。防災教育にて出た意見・要望（本報告書に記載したもの）の全てについて、次回リーダーが市民に回答できるよう、市としての方向性を示し、次回担当するリーダー及び管理職に共有してください。（書面での共有が望ましいです）

番号	項目	意見等
365	事業実施に関する意見	令和6年度に意見・要望を記している案件について、未対応のものが多くありますので、すべて対応をお願いします。（令和5年や令和4年からの継続案件も多数あります）すべての要望を実現することが困難であることは承知しておりますので、実現困難なものについては、どのように対応する予定か方向性をお示しください。
366		過去に要望したこと、意見を述べたことが全く改善されていないこと。
367		地域の方から相当な不満の声が挙げられました。折角労力をかけて訓練を行っていたにも関わらず、このまま従前の対応を続けていくと実際に災害が起きた時に、地域の方としては「訓練をやっていてよかった」ではなく、「あれだけ言っていたのに対応がなかった」という感じ方になってしまうと危惧しています。避難所担当職員の決定、防災教育（訓練）の手法についての抜本的な見直しが必要。
368		教員が開設訓練について全くの他人事で「避難所（体育館）」の見学もしない。避難所開設訓練等は市の行事であって、学校行事ではないと捉えているのではないかな。そもそも避難所運営マニュアルを定めたのは学校なので、学校も一緒に参加し、有事の際に対応できるとよい。また、福祉避難所訓練も多くの職員が対応し、同日に実施しているが、それぞれの担当部署が、ただそれぞれの職務を遂行して終了という例年やる行事にしか感じられず、「防災教育の日」は、どこか統一感がないように思える。改めて、防災教育の日の実施の仕方等を再構築する必要があるのではないのでしょうか。
369		防災教育の日のテーマについて、もう少し具体的に示していただいた方がいいかと思います。今回いただいた意見の中に、訓練ではどういった想定をしているのか、想定が現実離れしている等の話が多くありました。またこれに乗じて、想定が甘い、人員や物資が足りないなど、意見や要望が拡散してしまいました。今回はどのような災害の想定でやっている（地震もしくは水害、被害の程度、感染症考慮の必要の有無）、または災害の想定ではなく「あくまでも〇〇を使用する実践練習である」というような具体的なテーマ・コンセプトを示していただけると、住民に説明する側としてもありがたいと思いますし、過度な要望を受けるような議論に発展させない対応ができると思います。
370	訓練内容	防災教育の日の日程を見直してほしい。市職員や学校も人事異動があったばかりで連携して動くことが難しい状況が続いている。10数年にわたり実施してきた中で、より意義のある防災教育の取組とするために、日程を見直す時期にきているのではないかと感じる。
371		「開催時期を変更できないか。」「GW前のこの時期に実施する必要があるのか。」「毎年実施時期の変更を要望しているのに、頑なに変更しないのはなぜか」という意見が何人からもあった。
372		開催時期の変更。4月の第4土曜が防災教育の日を行うことに対する不満がものすごく多かったので、アンケートを行い比較的参加しやすい時期への変更を検討する。
373		今回の日程は、連休の始まりのため引取り訓練後にそのまま帰宅する児童が多かったのではないかな。そのため訓練参加の保護者・児童・地域市民の参加者数が去年の約半分になったのではないのでしょうか。実施日の設定を工夫してはどうか。
374		災害時は、市役所の職員よりは、地域住民や地域の子どもたちが中心になって避難所運営をすることになるので、よりリアルな訓練を望んでいると感じた。例えば、この地域は、コロナ禍前は、地域住民の方が中心となり、小学校6年生が全員参加をして、係を決めてやるというのを実施していたらしい。そうすることで子どもたちが、災害時の避難所を自分事のように考えることができ、それが継承されていたという意見があった。最近では、市役所職員が中心の訓練になっているのでは？という意見が出た。避難所体験の目的に、「児童・生徒が避難所開設や運営に携われるよう育成」とあるが、地域の方からすると、単なる展示になっているという意見が出た。
375		地域の方達の意見は総括に記載した。
376		人数が多いこともあり、体験の片づけ、防災備蓄倉庫への搬入等、問題なく出来た。体育館の清掃も、学校の清掃用具（モップ等）を借りて実施することが出来た。最終的に、忘れ物やごみ等の処理が出来ていることを確認した。
377		避難者が来場し、受付から自身のスペースに至るまでの流れや、簡易トイレの使用方法など、実際にシミュレーション（ロールプレイ）をするべき。実際の動きを体験できるような訓練をするべき。要検討。
378		問題なく実施出来た。
379		避難所利用計画に基づく誘導を行うに当たって、事前に学校の中の見学もできるという意見があった。●●小学校の校長・副校長にご挨拶に行くときに、メンバーで行きたい人には声をかけるようにする。

番号	項目	意見等
380	訓練内容	いつも同じような訓練を行っている。テントやトイレを見るだけになっているので、よりリアルな訓練になるといいのでは？
381		引き取り訓練の後でもいいので、教室等校舎を使った要配慮者等の避難スペース設置の訓練をさせてほしい。
382		今回の訓練は晴天であったが、雨天を想定した訓練も必要と感じる。
383		夜間の訓練を行うべき。
384		【小学校職員から】平日に発災した状況を想定し、訓練開始は職場からの出発に変更。初動要員等の役割関係なく、避難所開設に必要な人数が集まり次第、開設するという訓練内容に変更してはどうか。所管課で検討願いたい。
385		今回の訓練は10時30分以降、避難所体験準備と応急給水栓準備、防災行政無線の送受信、バカンの入力等が重なり、市職員は分担して訓練を進めていくことから、必要な体験をすることができないため、プログラムを見直すべきとの意見あり。一つ一つの訓練にかかる時間が短いため、市職員も地域住民も今回の訓練内容を習得したとは言い難く、いざというときに機能するのか疑問が残る。もう少し訓練の数を減らして丁寧に実施しても良いのではないかな。
386		作業で、防災備蓄倉庫と体育館を行ったり来たりするほか、応急給水栓は少し離れた管理棟前にあり、移動が疲れた。地域参加者は高齢者が多く、足が弱い人も多い。もっと訓練の手順を考えて欲しい。各避難所の実状に合わせて訓練手順をアレンジしてほしい。
387		物品の確認を実施してから搬出し、避難所開設までの間に防災倉庫との間を何往復かしたが、地域の方々が高齢者が多く苦になっていた。一度に運んだり、訓練項目の順序を工夫するなど、配慮してほしい。避難所によって状況は様々であることを踏まえ、まとめられる作業はまとめる、できる人員で作業を行うなど、計画時に工夫する必要がある。
388		訓練内容が多く時間が足りず、流れ作業になっている。実際に重要な部分（マンホールトイレや避難者の誘導、避難所の対応）を重点的に行ってもよいと感じた。建物調査や図上訓練は資料を見れば概要は把握できるので、省くかやっても一言二言にとどめる。
389		人員に対して準備や訓練項目が多く、個々の訓練内容等を考える余裕がない。
390		訓練内容が多く時間内に全て実施することができなかった。訓練内容の縮小。
391		全体のスケジュールについて、内容が詰め込み過ぎていて、同時並行で実施することが多い。一連の流れを一部の人しか把握できていないため、数年に一度の応急給水栓、VACANの入力、要請物資の入力、防災行政無線の送受信訓練などは、何をやっているのか、（やっていることすら）わかっていない場合もある。避難所体験の各ブースの準備などは、各担当に振り分けて実施するにしても、応急給水栓、VACANの入力、要請物資の入力、防災行政無線の送受信訓練などは、全員が操作できなくても、やっているところを見るだけでもいいので、その時間を確保する必要がある。
392		外の訓練と体育館内の訓練の順番を見直し、外で実施する内容をすべて終えてから体育館内の訓練を実施し、外と中の移動を最低限にすべきではないか。訓練内容で、可能範囲で個々の避難所の判断で変更して実施していきたい。
393		体育館が満杯の場合は、現場の判断で校舎利用ができるのか。訓練として校舎内の把握は必要なため、夕方以降で構わないので、校舎の内見をお願いしたい。
394		防災課の想定している訓練は実際の避難所運営と乖離がありすぎて意味がないと感じること。
395		避難所を開設した後、直ちに運営上の問題が発生することが予想されます。開設後の運営についてマニュアル化や訓練が必要です。発熱者を受け入れた後にどのような対応が必要か。ペットを受け入れた後に鳴き声対策や糞尿などの衛生をどのように維持するか。トイレの衛生維持をどのように維持するか。対応をお願いします。
396		参集メールでは、所属職員の状況しかわからないので、今回の訓練で公開羅針盤を使用したのは良かったと思う。避難所における職員の参集状況を確認できるので、開設する際、態勢の目安となる。入力する人とならない人がいるため、全員の状況を把握できない。今後、訓練を積み重ねる中で、このツールの重要性を職員に周知・徹底していく必要がある。

番号	項目	意見等
397	訓練内容	当初グループメッセージにリーダーとサブリーダーが入っていなかったことで、事前の情報共有も直近になったり、スマホからの閲覧設定に苦慮して慌てた部分がありました。参集システムとグループメッセージと避難所のスマホと煩雑でした。写真は自分のスマホで撮影したのがあります。また、テントの動画もあります。どこかに集めたりしますでしょうか。
398		羅針盤のメッセージ機能の活用には疑問を感じます。市正規職員のみしか使用できません。さまざまなアプリ等（従来の参集システム、羅針盤メッセージ、VACAN, L I NETWORKS, L o g o フォームなど）を活用するのは便利な一方、業務ごとに違う手段で報告・連絡等を行うことになるため、現場が混乱する原因につながると感じます。利便性を求めて、新しいものを導入する際は、これまで活用してきたものを改善・使用中止することも検討してください。
399		公開羅針盤のメッセージ機能を使用した職員が4人（10人中）と非常にすくない結果となった。個人のスマートフォンの設定は任意であるため、本訓練のためにどの程度の職員が設定したかまでは確認していない。当日メッセージ機能を使えないとの相談が1人からあったが、それ以外の職員からはそのような相談もないため、そもそもメッセージ機能を使用すること自体知らなかったものと思われる。添付のマニュアルどおりでは省略されている部分もあり、素人では相当の時間を要するか、設定できていないことから、もう少し分かりやすいマニュアルの整備をお願いしたい。事前に資料を読んでいればメッセージ機能を使用した訓練であることは分かるが、事前説明会の不参加、資料の未確認等の理由から対応できていないことから、改めて周知の仕方の見直しをお願いしたい。
400		拡声器の使い方に不慣れで、かなりのハウリングがあった。リーダー等以外でも複数人の使用が想定され、拡声器なしの職員の声が聞こえないという意見をいただくこととなった。
401	職員体制について（リーダー・サブリーダー等）	昨年に引き続き学校職員の積極的で丁寧な対応が随所に認められ、協力があることによりスムーズな進行へと繋がった。
402		新入職員のひとたちが積極的に動いてくれて助かった。若い方がいるとやりやすい。
403		新人職員がたくさん参加してくれて、頼もしく感じた。
404		新入職員が多くいたことから避難所体験までに準備ができたが、いない場合は準備が間に合わない可能性が高い。次年度も新入職員が参加することを希望する。
405		市職員で市内在住者（避難所担当管理職やリーダーも市外在住）が減っているため、土日祝日などに災害が起こった際に、すぐに駆け付けることができないことが心配である。市内在住者を増やす何かしらの施策が必要である。
406		当日リーダーのやることが多岐にわたることから、（今回サブリーダーが1名、防災教育の時期に毎年課業務の都合で欠席）サブリーダーの人数を増やしてほしい。避難所体験の受付窓口管理者を配置をしたため、見学者や地域住民の意見要望のヒアリングや実施の確認記録の業務に支障がでていたようだった。サブリーダーの人数を増やす検討をお願いします。管理者は資材の搬出入はしても、居場所を固定化する担当としての配置はしないよう説明会での案内をお願いします。
407		事前準備や当日の進行等、リーダーになった職員の負担は非常に大きい。（当課のリーダーは勤務時間中に担当校に出向き打ち合わせ。当日の資料づくりや進め方の確認などをするので、本来の仕事ができなく時間外勤務。それでも終わらないので、防災教育の日の資料読み込みなどは、自宅で行っていた。）また、人事異動のたびにリーダーが変更になるのは効率が悪い。せっかく学校の特徴や地域の方との関係が築けたのに、リーダーが変わるたびにまた関係を築くのは効率が悪い。別のしくみを考える必要がある。地域の方からも同意見あり。このやり方には限界を感じる。至急、対応策を考えてください。
408		【避難所担当職員の配置の見直し】今年度は若手職員が増え、地域の方々に頼りない印象を与えてしまい（リーダー（当日は不在）および副リーダー（当日進行）はこの避難所の1年目であり、過去の経緯や避難所特性の把握にも限界があったこともあり）、住民からもベテラン職員の希望がありました。年長のリーダーに長く担当していただけるよう、特定の部署から当て職のような形で選任する現状の運用を改め、避難所担当職員の配置について検討をしていただきたいと思います。

番号	項目	意見等
409	職員体制について（リーダー・サブリーダー等）	参集職員が本来の16人から10人で運営することになり、人員が3割縮減となると運営側の負荷が非常に高まることが分かった。実際の想定としても十分に生じる事態であるため、個人のスキルアップの必要性は勿論だが、「避難者の中からも設営及び運営に円滑に参加してもらう指示の流れや行動のマニュアル」があると現場では心強い。防災教育の日においても、訓練の一環として触れることも検討されたい。
410		人員配置の再検討をお願いしたい。（従事している職員からも要望あり）。1. 令和7年度訓練参加者：10名（派遣管理職含む）●●●小学校の担当人員が減らされた。（令和6年度から2名減（内訳：避難所担当職員2名））このことに加え市職員の欠席が多いこと。また、訓練参加への強制力や人員配置（男女比の割合や任期付き職員は避難所職員に任命しないこと）について、再検討してもらいたい。任期付き職員が任命されており、この方については過去に1度も説明会も訓練にも参加していない。2. 市職員の参集状況や男女の配置状況をみると、地域として不安がある。人員増と人員配置については、強く再検討の申し入れを行ってほしいとのこと。
411		配置されている職員の課題として、人員が少ないこと、男女比に偏りがあること（力仕事などに影響するという観点）、当日の出席者が少ないこと等がある。業務内容を鑑み、適正な人員配置を実施してほしい。
412		市の職員（特に初動要員）の意識が低く、地域住民等と比較するとかなりの温度差がある。事前にマニュアルに目を通していないため、公開羅針盤の活用ができなかったり、給水栓を破損することにつながった。地域の方が話している間にも建設的ではない私語が多かった。市の職員として災害対策に当たることの意義を防災教育の日とは別に説明する必要がある。
413		市の職員の避難所運営に対する知識や理解の不足（知識のある職員が訓練の現場にいないこと）この点については、このような感じ方をさせてしまった当事者であるため、反省と申し訳ない気持ちがありますが、事前準備は可能な範囲で行ったうえで臨みましたので、体制的に限界があったとも感じています。
414		市の職員の体制（リーダー不在、担当者がすぐ変わる、若手ばかりなど）が心もとないこと。
415		説明会の出席に○を付けても来ない人や、訓練当日に他用があるとほぼ欠席する人などがいて困った。たまたまかもしれないがこういう人が増えると困るなど感じた。訓練後に出欠席状況について、全体で構わないので公表するなど、所属管理職にも目に入るようにしてほしい。公表されるのが分かっていると、あまりいい加減なことはしにくいと思われるため。現状ではさぼってもバレないので職員の良心のみに委ねられていて、残った誠意ある人たちが担わないといけないうのはおかしい。
416		市の職員の参集状況が、ひどすぎる。震災の初動時に職員が避難所設営と思われるが、この人数では絶対に足りない。避難所設営にかかわる職員の絶対数を増やすべきではないか。それに加え、力仕事があるので男女比をしっかりと考えて配置するべき。
417		配置人数が少ないため実際の災害時に設営可能か非常に心配である。当日欠席する職員が多い。初動要員指揮者と他避難所管理者の併任の解消。避難所割当て人数の増員。やむを得ず欠席する場合の例示を行う等、原則参加を徹底する。初動要員指揮者を専任とする。
418		地域の方は比較的多数の参加があり、とても前向きで協力的でしたが、市職員の参加人数が半数程度でした。学校は防災教育の日の学校公開と引き取り訓練の様子で、学校と避難所は別の動きでした。市職員の参加について、業務があるので欠席するという方がいました。所属で調整するなどできないものか、また出席については市の業務として意識して受け止めてもらえないものかと思います。出席できる人をメンバーにしてもらいたい。
419		学校避難所対応職員から「会計年度任用職員の事務補助員の方は比較的地元に住んでいる方が多いので、その方も避難所担当職員として従事できるよう運用方法を変更できないか」と要望があった。
420		会計年度任用職員（事務補助員の活用）。会計年度任用職員の事務補助員の方は比較的地元に住んでいる方が多いので、その方も避難所担当職員として従事できるよう運用方法を変更できないかと要望があったが、その前に防災教育の日に参加しない市職員が多いので、市職員としての責務を認識させる等、参加しない職員の意識改善の方が先だと感じた（人事評価への反映など）。

番号	項目	意見等
421	（職 リ員 ―体 制 ―に ・つ さい ぶて リー ター 等）	学校職員でも、地域に居住している会計年度職員事務補助員は訓練対象外であり、発災時に動くことのできる職員も訓練に参加したほうが良いのではないかと。広く訓練参加者を広く設定したほうがよいのではないかと。
422		当日、欠席の職員が多いため、勤務した職員の負担が大きい。（年々勤務する職員が少なくなっている。）災害発生時には、現状の職員人数では対応できない。部単位での張り付けではなく、再任用、会計年度任用職員を含め、全職員の配置が必要ではないか？また、学校職員の勤務基準が不明確。会計年度任用職員は市事務、市栄養士、調理員。指導室所管の会計年度任用職員は該当しないのか？また、都の事務補助でも人により勤務になるのか？学校職場から不満の声があがっている。改善をお願いします。
423		避難所内に避難所運営本部を設け、事前に避難所メンバーの役割を明確に分けておくことが必要ではないかと。
424		防災教育の日にはじめて関わる市職員や、●●小学校の担当につくのがはじめての職員も多く、担当した業務に集中することで、他の担当箇所を経験することができなかった。今後、複数年かけて、全体像を把握できると良い。
425		【総合防災安全課職員の出席について】意見交換の場だけでもよいので、総合防災安全課の職員を派遣してほしい。（地域の方からの意見や要望を、防災以外の職員で受けて判断して回答するのには限界があります。）
426	そ の 他	良好であった。
427		災害時にインターネットにつながるのか不安。災害時に、避難所でどのような物資が不足しているのかを、どのように把握したら良いのか？
428		避難所を開設した際の医療との連携はどうなっているのか？当番医が避難所を順番に回りますか？
429		最初の集合時、（車道の音がうるさくて）声が聞こえなかった。
430		リーダーからラインワークスを通じて教育総務課へ終了連絡を行った。片付けの際に体育館にごみ。忘れ物等がない確認した。振り返りの内容は次の総括へ記載する。

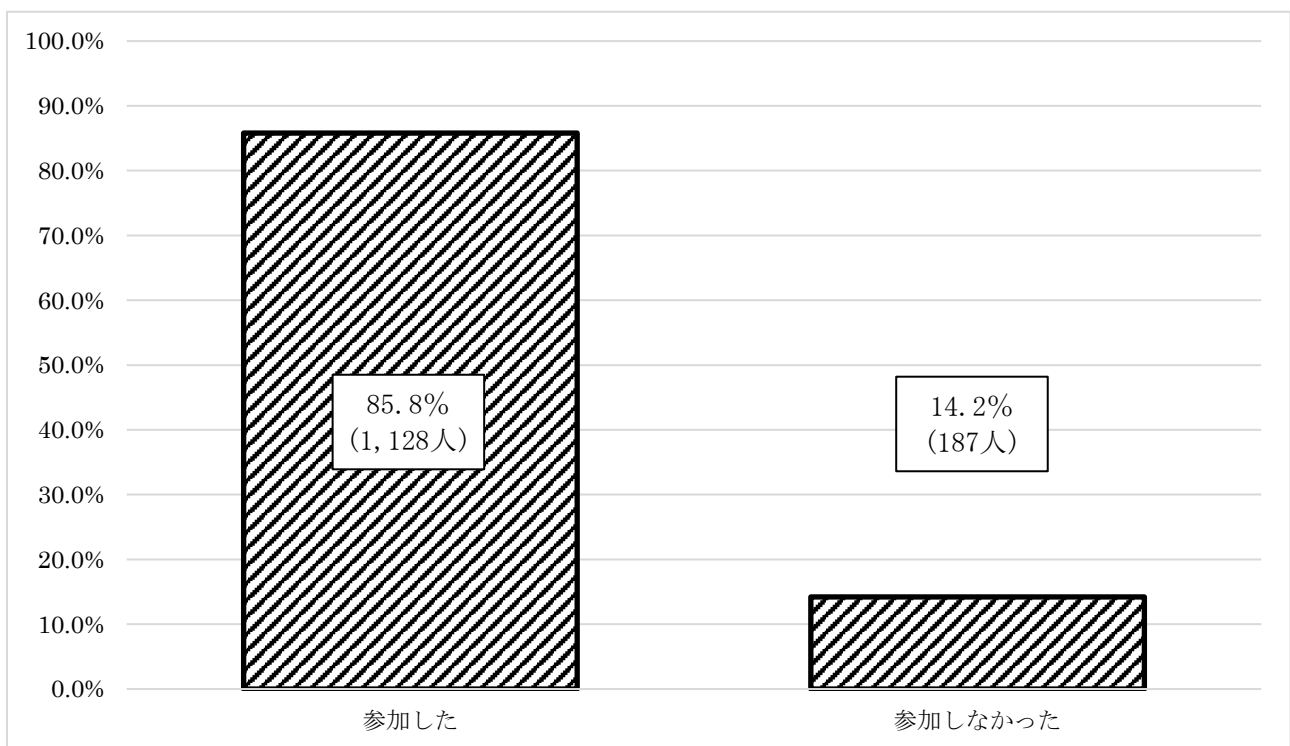
2-3 保護者アンケート実施結果

防災教育の日における趣旨やねらいの理解度や、防災に関する意識の高まりなどを把握し、次年度の取組に繋げるため、保護者の方を対象にアンケートを実施しました。

◆アンケート結果

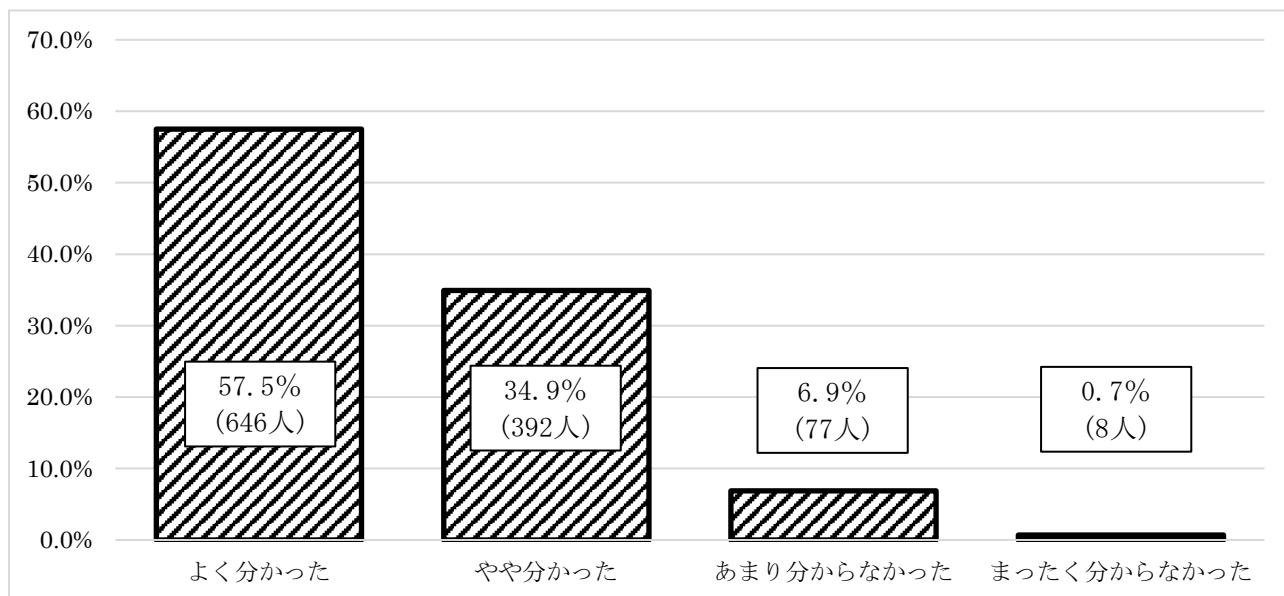
実施期間	令和7年4月26日（土）から5月11日（日）まで
対象者	市立小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者 （「すぐーる」登録済みの方） 回答者数 1,315 人（配信者数 11,327 人）
実施方法	「すぐーる」により配信した「L o G o フォーム」アンケートフォーマットにより回答
その他	設問1は回答必須としたが、それ以外の設問は任意回答とするとともに複数回答可としたため、各設問の回答人数は一致しない

●設問1：令和7年度「調布市防災教育の日」に参加されましたか。（回答人数：1315人）



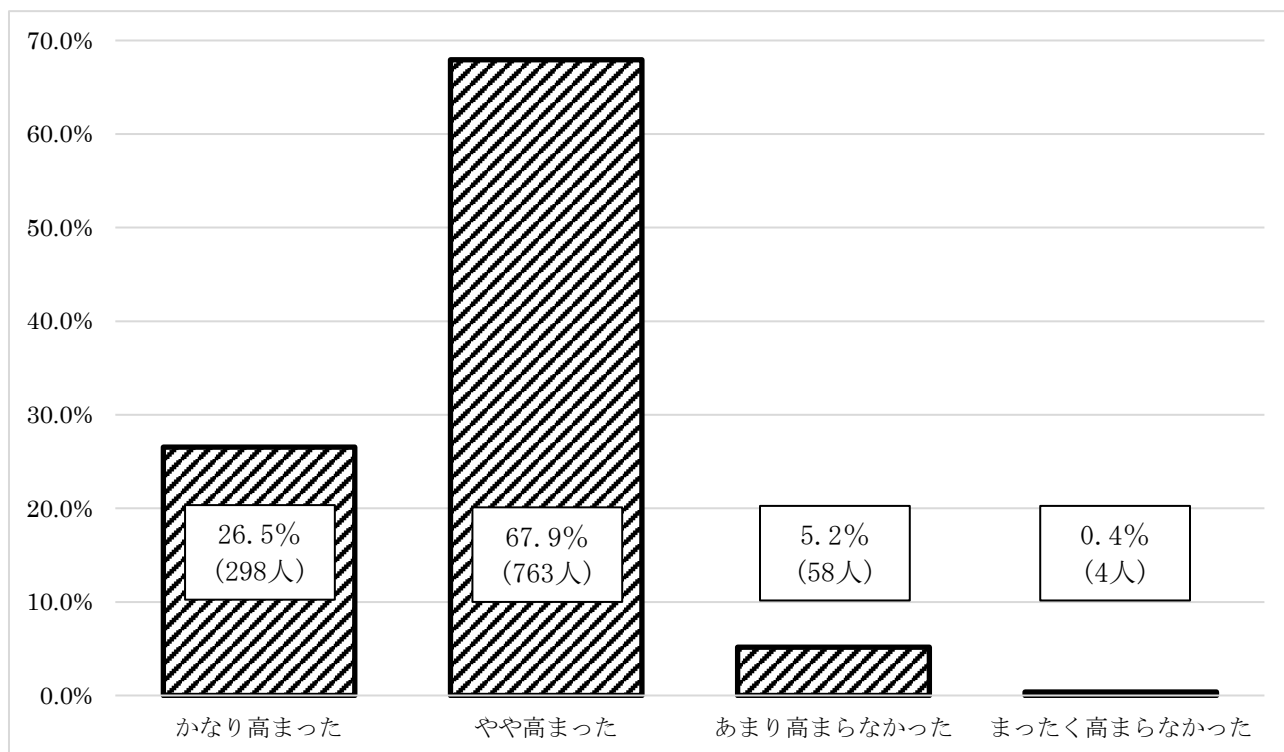
アンケートに回答した保護者のうち、1128人（約85.8%）の方が防災教育の日に「参加した」と回答しました。

●**設問2:**「調布市防災教育の日」は「東日本大震災の教訓を忘れない」を「ねらい」としており, ①「命の尊さ」について学ぶ, ②「自らの命は自らが守る」という意識を高め, 児童・生徒自身が自助, 共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける, ③「地域と一体となった震災対応システム」を構築することを目的としています。このねらいや目的を御理解いただけましたか。(回答者数:1123人)



「よく分かった」又は「やや分かった」と回答した保護者数は, 全体の約92.4%に当たる1038人となりました。

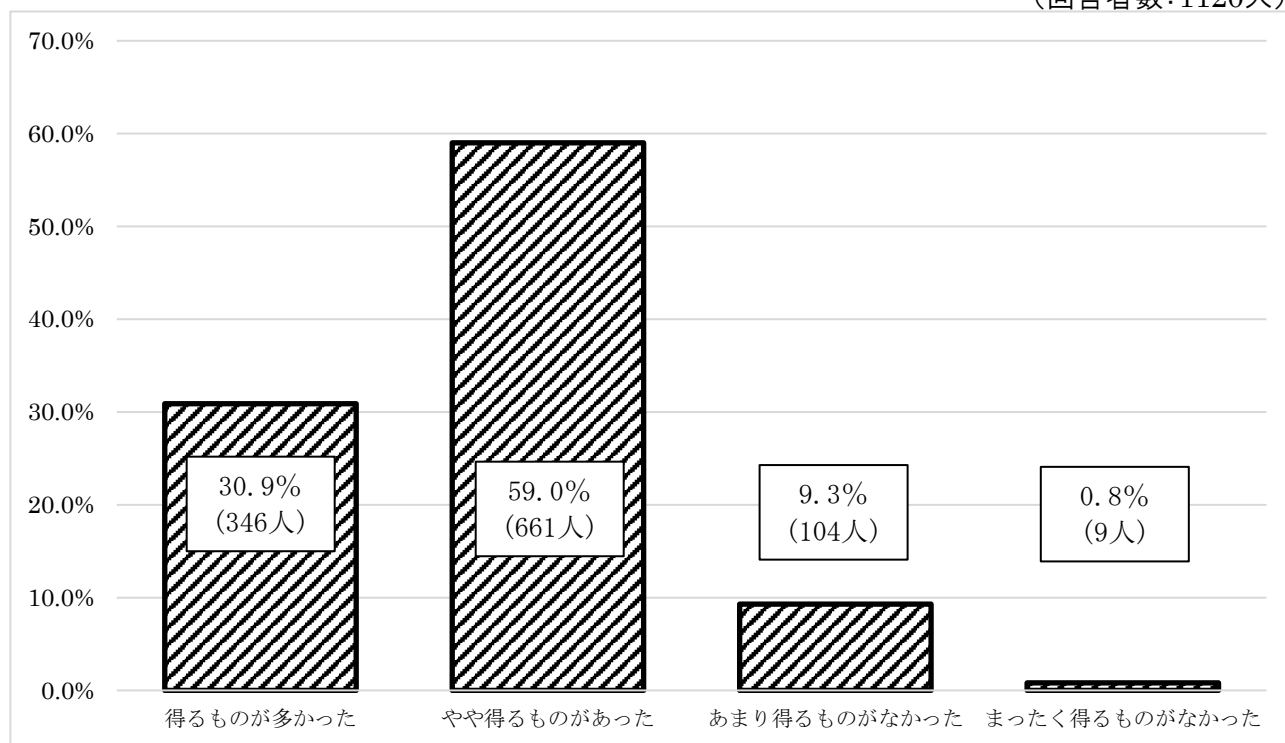
●**設問3:**防災に関する意識が高まりましたか。(回答者数:1123人)



「かなり高まった」又は「やや高まった」と回答した保護者数は, 全体の約94.4%に当たる1061人となりました。

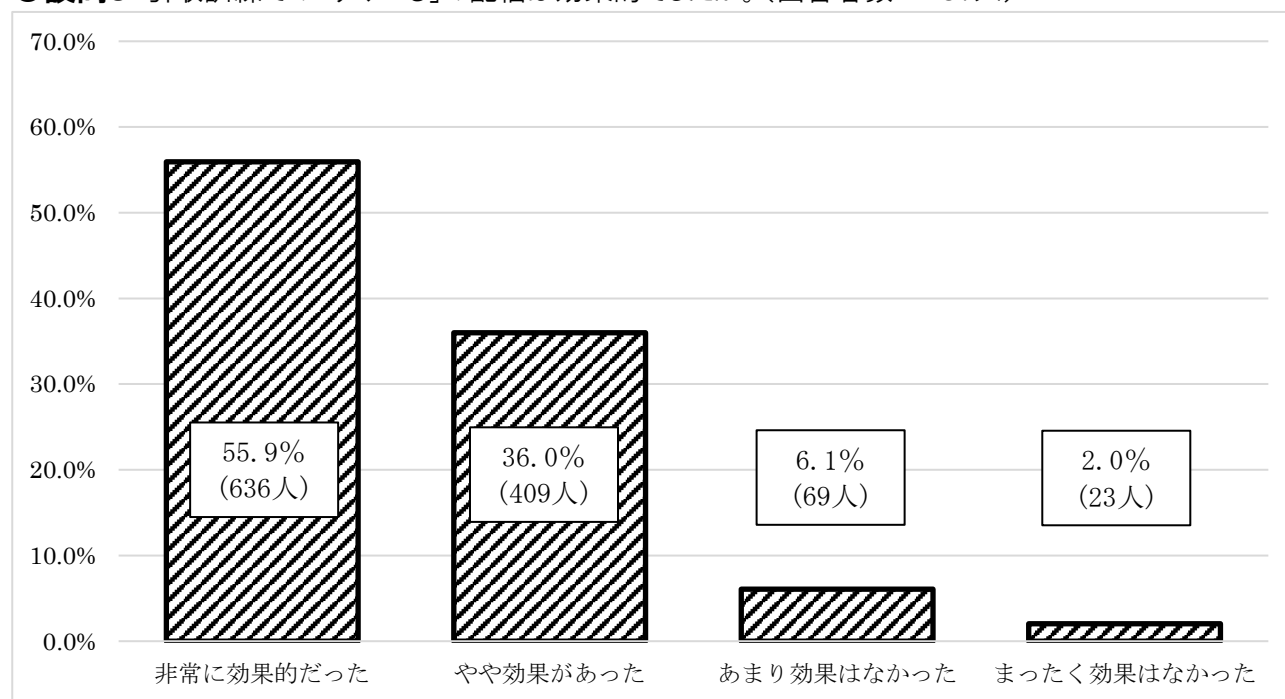
●設問4: 防災に関する知識や技能, 防災教育への理解など, 得るものがありましたか。

(回答者数:1120人)



「得るものが多かった」又は「やや得るものがあった」と回答した保護者数は、全体の約89.9%に当たる1007人となりました。

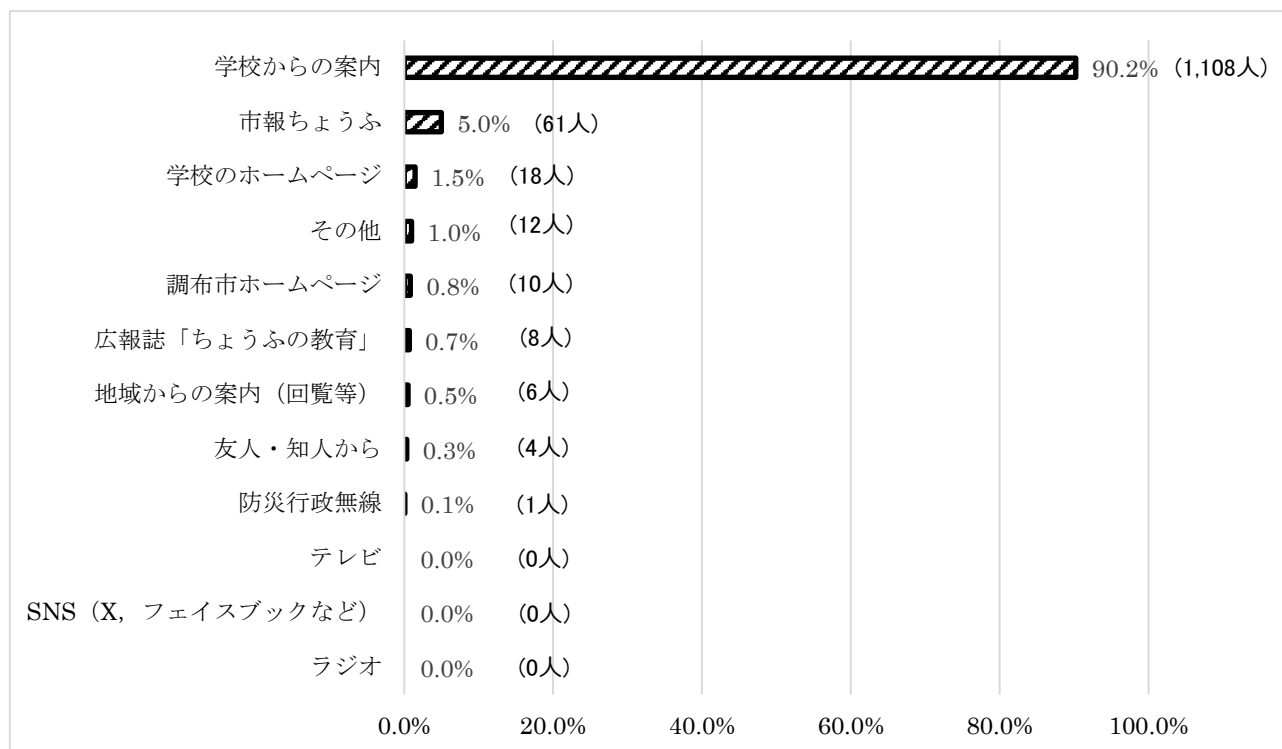
●設問5: 引取訓練での「すぐる」の配信は効果的でしたか。(回答者数:1137人)



「非常に効果的だった」又は「やや効果があった」と回答した保護者数は、全体の約91.9%に当たる1045人となりました。

●設問6:「防災教育の日」は何でお知りになりましたか。(回答人数:1144人 総回答数:1228人)

【複数回答可】



総回答数のうち、1108人(約90.2%)が「学校からの案内」で防災教育の日を知ったと回答しました。

●設問7:自由回答

アンケートの自由回答の抜粋(回答者数:178人)

自由意見においては、主に「引取訓練」「授業内容」「すぐーるの配信」「学校の対応」「避難所体験」などに関する御意見を多くいただきました。

訓練の実効性を高め、保護者の皆さまにとって有意義な事業となるよう、内容を精査し、次年度の取組に生かしてまいります。

番号	項目	意見等
1	引取訓練	通学路の危険な箇所を確認しながら帰りました。子ども自身も『もし地震が来たら』と想像して考えを伝えてくれました。
2		引渡訓練の帰り道にこどもと、通学路にある物や建物を観察することができ、イメージトレーニングになったので、良かったです。
3		避難訓練を通して災害の備えの意識を持つきっかけになります。大切な取り組みだと思います。実施して下さいありがとうございました。
4		子どもの引き取りは、先生方と保護者がタグを組み行うことで、事件事故防止につながる重要な練習だと感じております。
5		今年の引き取り訓練では、クラスを表示したコーンの位置が、わかりやすい場所にあったので良かったです。

番号	項目	意見等
6	引取訓練	引き取り訓練の時、並び方が複雑で効率悪かった。学年毎のコーンを置いて、並びやすいように工夫してましたが、どのクラスがどこに並べば良いか分からなかった。学年毎じゃなくてクラスごとのコーンを置いた方がスムーズだと思います。
7		引取の際に、学年を案内する整列場所はカラーコーンがありましたが、子ども達の学年の区切りがわからず、どこが各学年の1組の始まりなのか、この列は何組の列なのかわからず、皆さん違うクラスの列や端のクラスの方は違う学年に並んでしまったり、並び直しをしたりして、早く来た方の引取順番がかなり後ろになってしまったり、混乱が生じていました。声をかけてくださっている先生のお声もなかなか聞こえず、学年とクラスのコーンやプラカードや用紙、目印になるものを先頭の保護者に持っていただくなど、何か検討をしていただけたら、ありがたいなと思いました。
8		引き取り訓練について。グラウンドに子どもらがクラス毎に集まり、迎えの保護者が並ぶ先頭に、各クラス名を表記したコーンが配置されていました。しかし、保護者の長い列が出来た後では、遅れてきた保護者には、先頭のコーンの表記が低すぎて、どこに目的のクラスがあるのか分かりにくかったです。ウロウロ探す保護者も多くいました。後方にも表示されていればよかったかなと。実際の災害時であれば混乱していると思うので、クラス毎の表記は分かりやすくお願いしたいです。
9		引き取り訓練でクラス毎に並んだが最前列にはクラス名があるが、通常は後ろから並ぶと思うが後ろにはクラス表示がなくわからなかった。発災時はパニックだと思うので最前列に見に行く人がいると大勢いると混乱すると思う。本日は最後尾に学年のプレートは持っていたが、クラスか分からないと結局は意味が無いと思う。
10		引取の際、校庭での並び列の配置を門のところに掲示して欲しい。カラーコーンが先頭にあるが、並び列が長くなると見にくかった。適宜放送でアナウンスされていたが、アナウンスの合間に行くとどこに並べばいいのが分かりづらかったです。
11		●●だけかもしれないが、校庭で引き渡す際に並ぶ列がわかりづらかった。クラスの書いた紙が貼ってあるコーンが前後に置いてあったが、列が長くなると人混みで後ろからは見えづらく、子どものクラスを探すのに時間がかかってしまった。実際に災害が起きた場合、もっと混乱していることを思うと子どもの居場所がすぐにわからないのは余計に混乱を招くように思った。訓練だからこそ、いざという時に備えてスムーズに引き渡せるように考えてほしい。
12		引き取りの際、クラスごとに並んでいたが最後尾に並ぶとき我が子のクラスがどこか分かりづらかった。最後尾に並んだ保護者が〇年〇組のプレート持って後からきた人に渡していけば分かりやすいのにと考えた。ただ実際の引き取りは、時間がバラけるだろうから必要ないかも。
13		引渡訓練時、カラーコーンにクラスを貼っていただいていたが、沢山の大人の列で隠れてしまいどこが子どものクラスなのかわからなかった。列の一番最後の人でクラスカードを持つようにする、クラス名付きのカラーコーンを自身の後ろに回していくでも構わないと思います。実際に災害が起きたときは誰もいち早く子どもたちと合流したい気持ちも強くなると思いますので、トラブルや時間ロスが起きやすいのかなと思いました。
14		引取の際どこに子どものクラスの列があるのかあまりわからなかったので後方にもクラスの表示（旗など）があると良いと思いました。
15		引取の際子どものクラスが何処なのかすぐにわかるようにして欲しかった。わかりづらい。災害時は混乱もしているのもっと訓練とはいえ緊張感を持ってやるべき。
16		引取訓練の時に校庭に保護者が並び、待機しました。学年ごとに並ぶのですが、学年の表示が見えにくく、どこに並ぶのか判断しづらいです。いざというときに、手書きの見えにくいものを準備するのにも時間がかかりますし、あらかじめ引き取りが発生したときに、すぐ使用できるように準備された方がいいと思います。

番号	項目	意見等
17	引取訓練	迎えに行った際の並び方（列）などは、参加してないと実際になった時には分からなかったと思うので参加して良かった。何年って後ろからでも見やすくしてくれると有難いです。
18		学校の問題であります。きちんと来た順番に引き取りが出来るようにして欲しかったです。後から来た2列目の人たちが最初の列と同時に校内に入るようになってました。【最初の列の後ろに並んだ人が先にきているのに】保護者へのしきりの先生が少なすぎだと思いました。最後尾に先生をつける、とか、整列順に実施できるように、早くから並んでる人が順番で入れるよう、きちんとシュミレーションして欲しかった。きちんと●●中学校に繋いでほしいです。
19		保護者の列が延びたことによる対応に関して、途中からご担当教員が複数列になるよう指示をされたため、既に後方に並んでいた保護者よりも後から来校された保護者が、先に校舎に入ることになった。緊急時は平常時以上に混乱を招く可能性が高いことが想定されるため、整列や順番に関しては正しく導いていただけよう願いました。
20		引き取り訓練の際に、保護者を誘導してくれる職員の方がいなかったの、保護者の方々が“なんとなく”動いている感じがしたので、誘導してくれる職員の方がいた方がよいなと思いました。
21		引き取り関連で校庭で何か説明されていたようですが、周りで待機している我々親には聞こえませんでした。
22		校庭に避難の際、近隣への配慮なのかマイクの音量が小さすぎて何を話してるのか全くわからなかった。周りを見て並んで良いんだと判断したりするしかなかった。来年はもう少し音量をあげてほしい。また、小・中学生といるため小学生の足で中学校までを考えたら自宅帰るほうが早いと中学生迎えに行けなかった。集団下校の延長や自転車での迎えを許可してもらえると嬉しい。
23		父母の話声が大きくて、拡声器の音も何も聞こえませんでした。避難時の警報器が鳴るのか検査の意味も含めて鳴らした方がいいと思います。（校庭にも聞こえるように）毎年毎回何の緊張感も無いのが残念です。
24		あのメガホンのあの声の大きさでは聞こえませんでした。本当に起こったら聞こえないです。並ぶ列の表示も腰より低いコーンに表示されると見えないのでどこにならばいいか見えません。
25		兄弟のどちらを先に引き取ればよいのか、アナウンスがあったかもしれないが聞き取れなかった。できれば上から引き取りたい。下はじっとしていないので。
26		引き取り訓練で上の子から引き取るように指示があるが、下の子の方が心配なので、下の子から引き取りにしてほしい。子どもも、ぐずる。
27		兄弟がいる場合は高学年からとの事でしたが、新一年生や低学年の子ども達は待っている時間が長くなり、不安に思う子もいました。なぜ上の学年からの引き取りにしているのか理由が知りたいです。
28		引き取り開始時間なってもなかなか開始されず小学校の下の子の引き取りまであまり時間がなかったので時間は守って開始してほしいです。
29		せっかくの引き取り訓練の機会なので、小学校と中学校の時間をもう少しズラすことができれば、両方に参加できたのにな。と思います。避難所体験にたくさんの方に携わっていただき、ありがとうございました。
30		兄弟がいる関係で●●小と●●中を親1人でハシゴしましたが、両校の引き取り時間がほぼ同じだったので避難所体験も行けず、もう少しだけずらしていただけると余裕を持って引き取りにいったかなと思います。

番号	項目	意見等
31	引取訓練	小学校と中学校での引き取り時間がほぼ同時時刻のため、引き取り時刻までに片方が間に合わない事態となります。近い方は問題ないと思われますが、遠い場合は引き取りに行きたくても行けない状態です。1人での対応の場合は難しいです。引き取り時刻を引き延ばす等していただけますと助かります。どうか対応していただけないでしょうか。
32		●●小学校の引取開始時刻が11:20～、●●中学校の引取開始時刻が11:30～と小学校と中学校で10分の差があり『原則中学校からの引取をするように』と連絡がありましたが、中学校から子どもを引取って小学校へ歩いて向かうには小学校の最終引取時刻の11:45には絶対に間に合わず、母が1人で子どもを迎えに行くには時間が足らなかった為、小学校しか行けませんでした。
33		中学校と小学校の引き取り訓練が同時刻に始まるため、徒歩で両方を引き取りに行くのが時間的に難しかった。（最初に引き取った子どもをつれて走って次の学校へ移動し、とても疲れた。）少し時間をずらすか、別日にするか、引き取り可能な時間を延ばすか、検討いただきたい。土日に両親ともに休みでないご家庭や、ひとり親の家庭もあるので、考慮していただけるとたすかる。
34		引き取り訓練に関して、小学校、中学校両方に通っていらっしゃる方が多く、今日は休みで準備が出来るのでお父さん達も参加されて2人で引き取っていたように思います。実際に地震など起きた時は1人で引き取ることになると思うので、本当の引き取り方を考える必要があると思いました。例えば、中学に行ってから中学生の子どもも連れて小学校に行くや、事前に申請をしてお迎えなしでそのまま帰らせる。1人の子どもを先に引き取り一緒に小中学校まで迎えに行くのか？（瓦礫が危ない）1人で家で待たせておくべきか？「余震が心配）学校で先生の管理下で待たせておくべきか？各家庭にちゃんと考えさせるためにも、防災訓練の引き取り方にもう少し考える必要があると思いました。
35		授業公開と同じにすると、引き取り時間までに微妙な時間があり少し都合が悪いと感じました。
36		学校公開が終わったら、すぐに引き取り訓練にしてほしい。1時間空くのが、時間をつぶすのに大変。
37		公開授業の後、一旦帰って、1時間空いてから引き取りに行かないといけないのが少ししんどいかなと思いました。
38		学校が近くないので、保護者は公開授業の後、一度帰宅して引き取り訓練のためにまた家を出るのは面倒。
39		2校子どもの引き取り訓練に参加しました。学校により引き取り場所が教室や校庭とまちまちなので、その年の被災設定によって統一してほしいです。すぐ一に訓練のお手紙(PDF)が添付されていない学校もあるので、外でお迎え場所が確認ができず困りました。また、親子で一斉帰宅のため学校付近の歩道はすれ違うことが難しく、車道を歩かざるをえない状況でした。
40		小学校、中学校両方の引取訓練に初めて参加しました。小学校では、子どもたちがランドセルを背負い、防災頭巾と軍手を身につけ校庭での引取に対し、中学校は、子どもたちは教室で、保護者が引取カードと上履き持参での引取でした。災害時、いつ揺れるか分からない教室で、保護者は動揺の中、引取カードと上履きを持参で引取できるのか…疑問符がつかしました。
41		●●小との引取訓練はしごだったため、●●小授業公開→●●中授業公開→引取訓練→●●小引取訓練と行ったりきたりでした。授業公開は別の日にしていただきたいです。道徳でなくてもいいので。
42		学校側からも事前のお知らせで徒歩でお願いされているのにも関わらず自転車であつて方も多数いて、本当に被災があつた時の状況判断をもっと理解し、防災教育引取訓練に参加して欲しいと思いました。

番号	項目	意見等
43	引取訓練	発災時に自転車で来校することも想定した訓練を取り入れてはどうか。実災害時には、全て徒歩とはならないケースもあるのではないかな。
44		震災時の場所や時間帯に合わせて子供がどのように行動すれば良いのか具体的なケースの紹介があれば良かった。
45		実際の災害の際は、教室から上履きのまま避難することになると思うので、避難訓練でも同様にしたほうが良いと思う。
46		土足で入るの申し訳なかったです。
47		東日本大震災を経験しました。震源地や震度にもよりますが、●●中は近くに野川があります。すぐに引き取りにきてもらう場合には危険な状況になる場合もあると思いました。河川（北上川）の大きさはだいぶ違いますが石巻市の大川小学校と同じような、後ろに山はないけど、近くに川がある地形なので、川の氾濫も考えて行動しなければならないと思いました。すぐに引き取りはしないで先生、生徒は4階もしくは屋上に逃げた方が安全なのではないかと感じました。すぐーの音が小さかったので、結局は知らされていた時間に行きました。来年は時間を非公開にして訓練をしたらいいいのではないかと感じました。
48		防災意識を地域単位で高めたいのであれば親子参加型にしたほうが良いのでは？事前にお便りに時間が書いてあったせいか、すぐー案内前にすでに来校している保護者が多かった。徒歩来校は訓練だからだと思うが、本当に震災が起こった場合自転車や車を使用すると思う。交通混乱は必須なためそこへの対応はするのか気になった。
49		引き取り前、授業の参観があったようなのですが、それでは引き取り訓練の意味が無いように感じました。メール配信後、保護者がメール確認、徒歩で学校まで迎えに行き子どもを引き取ると認識しておりましたが、参観があったためほとんどの保護者は学校にいたようです。保護者が自宅から学校まで徒歩でどのくらいかかるのか、先生方も生徒自身も知る必要はないのでしょうか。防災の授業をするのであれば引き取り訓練は別日に実施すべきではないでしょうか。
50		本来の引き取りを想定するなら、学校公開と抱き合わせではなく、すぐーのメールが届くタイミングで各家庭にいた方がよいのではないのでしょうか？家でメールを見てから出ると各家庭の距離で引き取りに時間差が出るのかなあとと思います。（または1時間目だけ公開、一度家に帰り、引き取り訓練を行うなど）
51		児童を学校に通学させている側としては、災害が起こった際の引き取りの流れなどの訓練としての位置づけで良いかと思います。調布市防災の日として実施されるならば、各校にそれを委ねるのだけでなく、市教委の広報、周知、取組をもう少し明確にすべきかと思います。
52		あまり本番を想定した訓練の様には感じなかった。実際に起こったと仮定して、訓練をした方がいいと思います。
53		訓練がとても和やかな雰囲気で行われることが心配です。ただ、引き取り時刻に迎えにいく、だけでは訓練になりません。災害発生時刻を設定し、具体的に家族がどこにいるかイメージしながら、スマホも使えない状況でどう動くのか考えつつ、より緊張感を持って組むべきだと思いました。質問:生徒を校庭で引き取らないのはなぜですか？震度6以上の揺れでも、生徒たちは教室にいますのでしょうか？
54		引き取り訓練に参加しました。引取カードを持参して子どもを引き取りますが、保護者同士お喋りしながら、子どもたちもワイワイ騒がしく、訓練ならば保護者にも余計な会話をせずに緊張感をもって引き取るよう案内すべきではないかと思います。また引取カードは緊急時に持参する余裕はないと思うのではたして必要なのかも精査してほしいです。小学校(●●)の方は引取カードは廃止になっています。
55		保護者の集合場所がピロティで一部の保護者の会話がうるさくて先生方の話が全く聞こえず意味がないものだった。昨年同様に生徒の近くで一緒に聞くなど集合場所を変える必要を感じました。

番号	項目	意見等
56	引取訓練	学校側の動きが校庭にいる保護者側には全く聞こえず、分かりにくかった。地域で行っている行事であるので、もっと大きな声で連絡をしていただきたい。また、保護者の緊張感や意識が低く、おしゃべりしている保護者がおり、被災時が不安になった。子ども達は緊張感を持って取り組む姿に対比して保護者は話をしている姿を見て残念に感じた。
57		昨年まで主人が参加しており今年初めて参加した率直な感想です。引き取り訓練時、校庭ということもあるが一部保護者の私語のため校長先生のお話も聞き取れず、地域全体での訓練としては危機意識が高くなく効果的であったのか疑問を持った。同時に各家庭によって訓練への臨み方に温度差があることは致し方ないので地域の防災意識を高めることの難しさを痛感した。学校から事前配布された用紙には例年通り防災頭巾を被って帰宅とあったが誰も被っておらず、子どもに被るよう伝えたところ誰も被っていないから被らないと。親子で改めて訓練への臨み方を考え有事に備えたいと坎じた。先生方、いつもご指導ありがとうございます。
58		引き取り訓練に参加しました。全体的に緊張感がないです。特に引き取り場所に行ってから待機や引き取り開始に関する合図や案内がなく、だらだらと前の人が進んだからそれに伴って前に進み、引き取りました。もし、災害が起きていたら、合図や案内がなかった場合、かなり混乱するのではないかと想像します。せっかく訓練をするのであれば、大量に押し寄せた保護者の整理をする人員を配置するなど、実際の場面の想定をもう少し緻密にしていきたいと思いました。
59		引き取り訓練の際、子どもが静かにしていても保護者の私語が多いです。面倒な話ですが大人も強い気持ちを持って取り組めるよう、例えば子どもの1限目の動画鑑賞の同席を促すなど、大人側の意識改善が必要と感じました。子どもが静かにしていても、大人があんなに私語を交わしているようでは示しがつかないし、訓練にならないと思いました。
60		引き取り時で安心するのではなく、家に帰って安心して欲しい。グラウンドで話し込んでる保護者が目につき、引き取りの妨げになっていると感じた。
61		儀礼的な引渡し訓練だと思ったので、「東日本大震災の教訓を忘れない」というテーマは全く分からなかった。
62		父親として初めて参加したが、子どもと散歩して帰ってきた感じだった。
63		引取訓練より、学校で行われてる避難訓練を実際に見てみたい。
64		●●中学の引取訓練に参加しました。迎えに行くと、まず長蛇の列。教室に辿り着くのにかかりました。また、教室から外に出る際も、階段もかなりの混雑でした。一年生から三年生までたくさんの人数がいるのに、一つの階段で避難しろというのは、無理があると思います。もし実際に火事や地震が起こった際は、逃げ遅れが発生すると感じました。またパニック状態でのあの階段の混雑だとすると、階段での事故につながるでしょう。今回の●●中学の動線には問題があると思います。
65		引き取り訓練時、全学年保護者を同じ場所に一列に並ばせていたため、引き取りまでに時間がかかり過ぎではないかと思いました。引き取り後も、校門を出るまでに人が溜まってしまっており、スムーズに出ることが出来ませんでした。
66		引き取り訓練時、出口に人が集まりすぎてなかなか外に出られなかった。本当の緊急時だったらと思うとかなり怖い。訓練時から脱出出口を増やして練習した方が良かったと感じた。
67		●●中学校は人数が多いので、教室までは保護者も整列して案内の通りスムーズに行けたけど、帰りは子どもたちもいたので混雑が凄かったです。実際に避難となるともっと混乱し階段等で事故など起きそうだと感じました。
68		校内の階段がとても混み合っていて、全然進みませんでした。本当の災害時には怪我人が出てもおかしくないと思いました。

番号	項目	意見等
69	授業内容	1年生の子達も真剣に動画を視聴していたのに感心しました。その後の先生による補足や指導にも子どもたちは大きな声で取り組んでいました。4年生は落ち着いて取り組んでいて流石！でした。このようにしっかりと防災に対する意識を持つことができるとても良い防災教育だと思います。ありがとうございました。
70		『命の授業』を参観しました。わが子は東日本大震災を知らないのだと改めて思いました。家族を亡くされた方の言葉が重く響き、このような授業をしていただくのがあります。
71		一般的な動画での教育に加え、調布市防災担当者の方からの説明があったことは地域固有の事情をきちんと汲んだ教育になっていて良かった。
72		低学年だった為、簡単なことではあるが、自分の身を守るためのことが学べていたと思う。周囲の危険な場所を再確認するきっかけにもなった。再度子どもと一緒に安全を見直したいと感じている。
73		大変貴重なお話をしてくださり、ありがとうございました。ご自身とご家族の体験されたことや当時の様子に加え釜石市の歴史などもお話してくださり、防災に関する知識や関心を高めることができました。また、子どもたちへコミュニケーションをとりながらお気持ちや大切なことを伝えてくださったことで、一人ひとりの心に響いたと思います。今日の経験を胸に私自身も身近な人達に防災の大切さを伝えていきたいです。
74		子ども達に、「いかのおすし」やダンゴムシのポーズなど、防災への行動を教えてくださいありがとうございました。
75		子どもが教室で食べたアルファ米をととても美味しいと気に入っています。楽しい食の話のきっかけに、防災の話まで有意義な会話ができました。
76		アルファ米を授業で実際に作っていたのは、子ども達に自分たちでも作れるという自信になると思いました。防災食を食べ慣れておくことも経験として必要だと思います。良いきっかけになったと思います。
77		水で作るわかめご飯がおいしくてびっくりでしたが、授業で食べるには低学年には量が多くて、忙しそうでした。
78		起震車体験で震度7を体験させていただきました。実際に体験して初めて、自宅の対策の甘さを実感しました。子ども達は遊園地の感覚で楽しんでおり、少し真剣に取り組む為に、声かけの方法を考えるべきだと思います。
79		子どもが一人にいるときに、災害が起こる可能性もあるのだと考えることができました。学校で授業を受けた直後だと、自分事としてとらえられるかと思い、防災について話す時間をとりました。
80		子どもが新聞紙でスリッパの作り方を教えてもらったとのことで、災害時に使えるようにと帰宅後家族の分も作って、非常持出袋に入れてくれました。
81		引き続き防災授業をよりよいものにしていただきますようお願い申し上げます。
82		帰ったら家庭でも話してみようといった呼びかけがありましたが、子どもは忘れている様子だったので、帰ったら話す事リストみたいな物とか、あっても良いかと思いました。授業中防災知識クイズを自分たちで作っていたのでそう言ったものも家庭に持ち帰って親に出題してもよさそう。家の周りの危ない所とか調べようといった声掛けがありましたが、防災マップと「危ないタイプ別の絵柄が入ったシール」を配って貼らせるとか、自分たちで考える仕組みがあったほうが聞くだけにならず良いかなと思いました。シールのコストかかるならペンでマークの書き込みでも。
83		親は子どもを引き取るだけだったので、親も防災の授業と一緒に受けた方が良いと思いました。開催日は、ゴールデンウィーク初日ではなく、3月11日前後や9月11日前後に行うとより防災を意識するのではないかと思います。

番号	項目	意見等
84	授業内容	地域であれば、保護者にも講義などやるべきでは？子どもの意識も大切ですが、保護者や市民みんなが対象では？形だけ学校で行ってるとしか思えません。開催日もGW前とか意味がわかりません。
85		小学2年生にタブレット中心の授業は、画面の進み方を揃えたり、画面で遊ぶのをやめられなかったり、なかなか難しそうだと思います。
86		消防団の方のお話、震災の動画がよかった。
87		授業内容に東日本大震災やその他震災について知ることがあるとよかった。
88		1時間目に43分間のビデオを見ました。消防署の方の力作で、情報量も多く、またクイズもあり、とても良かったです。ただ、2年生が見るには少々長すぎたようで、多くの子どもたちが途中で飽きてしまっていたのが残念でした。もう少し短い時間で、2～3個のビデオに分割してもらえると、なお良いかと思われます。阪神大震災、東日本大地震の経験者として、改めて防災の大切さを感じました。
89		●●小学校の1年生に向けた動画の授業を拝見させていただきました。せっかく身近な多摩川のことを扱っているのに、子どもたちの多摩川河川敷への解像度が低いのと、映像内で使われている説明や言葉が全く1年生向けではなく、ほとんど意味をなしていないだろうなと感じました。また、1時間まるまる矢継ぎ早に数種類の動画を繋ぎ合わせたものをただ流すだけで、子どもたちの集中力は全く保たれておらず、半分以上は意味のない時間でした。学習にも同じことが言えますが、特に防災においては、まず自分ごととして地域のことや多摩川のことを見て知った上で、映像教材などに入ったりしないと、突然洪水の話をされても1年生には何も伝わっていないとしか思えない内容でした。1時限丸々動画を流すだけではなく、その動画をどう効果的に子どもたちに伝えるのかといったことを全く考慮されておらず、大人でも苦痛なほど退屈な時間でした。学校の方針なのか、調布市の方針なのか存じ上げませんが、防災意識が高まるとは到底思えない内容でとても残念でした。引取訓練に関しては4月に行っておくことに意義があると思いますが、4月にとりあえず動画教材を見せるよりも、野川や多摩川を実際にみんなでみてから、増水の時の様子を見せたり洪水の時の映像をみせるなどした方がいいのではないのでしょうか。もうすこし子どもたちへの伝え方をきちんと考えていただかないと、ただ形だけやっているとしか思えない内容になってしまっていると思います。早急に改善を求めます。
90		授業参観の時に30分近く流した映像が、過去の大震災についての情報が詰め込まれすぎていて、難しい単語(マグニチュード、本震、余震、震源地など)も解説なし、子ども達は早々に飽きていた。起こったことを淡々と伝えただけ、それならプリントで配るなり、タブレットで見せるなりした方が伝わりやすいのでは？子ども達にも何も響いていない様子だった。授業参観だからか、廊下の戸は外されており、周りのクラスも賑やかで騒がしく、保護者の私は一番後ろで観ていたが聞き取りづらかった。生徒は聞こえているのかも疑問。震災のテロップはないし、スクリーンに映し出され写真も、電気を消してカーテンを閉めても、何が映っているのかよく分からないほど見えづらかった。消防庁の映像も、抑々のない男性が淡々と話すだけ。大きくテロップがあったからまだ良かった。クイズは楽しんでいた。引き取り訓練は、保護者側が無駄話が多すぎて、スピーカーで話されていた校長先生の声は一切聞こえず。緊張感の欠片もなかった。今までは夫の参加で、私は初めて参加したが、これなら行かなくていいのでは？と思うほどひどかった。避難所体験は、引き取り訓練時に既に子どもが疲弊していたので帰りました。
91		地震ではありませんが、調布市は多摩川や野川が近いので、津波より洪水浸水被害の方が身近な災害だと思います。洪水についての防災知識も学校で教えてもらう機会があればいいと思いました。

番号	項目	意見等
92	授業内容	小学校に入学して、初めての学校公開でした。案内には、1時間目は動画視聴とのことで、動画を利用して、みんなで防災について考える授業なのかと思いましたが、45分間、動画を見ただけで終わりました。(先生は30数分と仰っていましたが、挨拶してすぐ始まり、動画終わってからすぐチャイムがなりました)◎「防災」という言葉自体、一年生は聞き慣れないのではないのでしょうか。先生は「今日は防災についての動画を見ます。」しか言わず、動画を見せ始めたので、言葉の意味や、なぜ今日このような授業をするのか等のねらいや意味について、動画を見せる前にもう少し詳しくお話しして欲しかったです。◎動画は色んなところ(主に●●●?)の動画を、編集されているのか分かりませんが、水害やら火事やら、地震やら、災害マップやら、たくさんの情報が出てきました。大人のわたしが見ていても、今回の動画を見せることによって、先生達は何を伝えたいのかがよく分かりませんでした。今日のねらいが、東日本大震災の教訓であるならば、地震に絞って動画を見せるなどの必要があるのではと思いました。◎はっきり言って、45分動画を見せるだけの授業を公開する意味が分かりません。親にも見てほしいなら、家で見れます。1年間の中で、先生と子どもで、そのような授業があってもよいとは思いますが、学校公開でわざわざやる内容ではないと思いました。後で知り合いに聞いてみたら、「1時間目は行かなかった、動画を見るだけだから。」と、言っていました。毎年同じことをされている(?)ことに、驚きです。2時間目は、学校で地震が起きたときの行動について考える授業をされていて、実際に机の下にもぐってみたり、防災頭巾をかぶってみたりして、分かりやすかったです。4月のお忙しい中に、学校公開を設けてくださり、子どもの授業中のようなすや教室のようなすなどが分かって、親にはとてもありがたかったです。今年は避難所体験に参加しませんでした。来年度は参加したいと思います。先生や市のみなさん、ありがとうございました。ぜひ1時間目の内容については、ご検討いただきたいです。よろしくお願いします。
93		授業中に流されたVTRが長すぎました。もう少し短くして、先生が補足した方がよいと思います。
94		1時間目の動画は長すぎて子どもが飽きていたように見えた。クイズは最後ではなく途中で挟むなど、工夫が必要と感じた。
95		とても大切なテーマの授業だったと思います。ですが、クラスがざわつき、子どもたちに本当の意味が伝わったのかなと不安に感じました。
96		小学2年生へのビデオ43分は長すぎと感じました。クイズが盛り込まれてはいたものの、集中力が持っていない様子でした。
97		授業でみていた動画が小学2年生には難しく、長いと思いました。被災状況の数値を表した表などみせても理解できないと思いました。
98		入学したての一年生には、40分の動画はやや長く、内容も漢字や数字の解説など多く、少し難易度が高いように思いました。
99		動画が単調でウトウトしている子どももいた。1年生。
100		動画前半は1年生には難しそうだった。写真が分かりづらい感じだったので、もっと全面に映し出したほうが良いと思う。すぐ一の引き取り開始メールが分かりづらかった。引き取りに来てください等、もっと緊急感ある文章で来ると思ってたので。
101		防災についての動画を視聴したのですが、説明されている方の声が小さくて(しかもマスクもしている)、子どもが勉強するための動画なので、大きな声でハキハキと喋っていただきたいと思いました。防災とは関係ないのですが、給食室の工事についての説明に来てくださった調布市の教育委員会の方?の説明会の動画も、声が小さくて何を言っているのか全然聞こえなくて、すごく勿体ないなあと思いました。動画を作成するために撮影するのであれば、大勢で見るものになりますので聞き取りやすいように喋っていただきたいです。

番号	項目	意見等
102	授業内容	防災講話の映像で話される方はマスクは不要かと思います。表情や口元の動きが分からず、話す内容は伝わりにくくなっているように感じます。
103		大人向けの説明の仕方で小学生には理解があまりできていなかった。もう少し子どもよりの説明だと家族でわかりやすい。
104		動画の音声聞き取りづらかった。
105		3. 1 1の動画、防災の目的として良い教材かと思いますが、大勢の保護者の方も参観されているので見たくない方がいるかもしれない点が気になりました。
106		子ども達が4年生なのですが、友達に聞くと地震の映像をみてその後気持ちが悪くなったようです。実際の映像はちょっと刺激が強かったのかなと思いました。
107		怖いということだけを強調すると、子どもたちが日常生活に恐怖を覚えることにもなりかねないように思います。実際、昨年、避難訓練のあと、しばらく塞ぎ込み、話をよく聴いてみると、「自分は安全な避難方法を学んだけど、家族はどうか。自分が学校にいて助かって一人きりになってしまう」と不安を抱えたようでした。もちろん、現実を知っていく必要はありますが、危険とともに、今いる場所は、対策を立てているから大丈夫だという安心も一緒に伝えて、心の面にも配慮が必要なのではないかと感じました。
108		内水という言葉の意味と、内水ハザードマップというものがあることを初めて知った。
109		学校公開の内容はオンラインでも見せていただきたいです。情報格差が出てしまうため。
110	すぐーるの配信	職場で携帯を手元に置けないため本当に地震が来た際、すぐーるの配信に気づけないです。大きな揺れならすぐ帰るつもりなので問題ないと思いますが、，，，
111		すぐーるで通知されてもスマホに通知がきたことに気付かない気がする。緊急事態の場合は消音モードにしているため音が出ないようにしてほしい。
112		アプリの方がいいかなと。メールはあまりみませんし、気づきません。
113		通常の連絡とは違い緊急なお知らせ（災害や事件など）に関しては特別な表示になるなどの機能があると良いと思いました。学校以外からののお知らせもあり、頻繁に連絡がくるのですぐーるになってからはお知らせがきてもすぐ見なくても大丈夫という気持ちが出る様になりました。
114		すぐーるからの直前の連絡は、できればもう少し早く欲しいです。
115		学校からすぐーるへの連絡はなかったです。
116		引き取り訓練の際にすぐーるでの配信はありませんでした。
117		すぐーるから引き取りの連絡来ませんでした。情報連携がまったくできておらず実際に災害があったときに機能するのとても不安です。参観ができることも知りませんでした。書面でお知らせなど配布されていたのでしょうか？子どもから参観者が誰もいなかったと聞きました。
118		すぐーるの登録完了していたつもりであったが、勘違いで再度登録しなければならなかったことに気づいておらず、本日の引き取りの通知がまだ来なかった。きちんと登録したいと思う。
119		すぐーるの通知がこず、実際の災害が起きた時に大丈夫か不安になった。
120		●●中保護者です。引渡し訓練開始時に開始通知がありませんでしたので、次回から開始通知をお願いしたいです。緊急時の配信訓練として、意味があると思います。また、訓練のお知らせが紙のみの配布でした。すぐーるへの配信もあるとよかったです。
121		下の子の●●小学校からすぐーるの配信がありました。●●中学校はなかったです。あるといいと思いました。
122		今年、当日のすぐーる配信は受け取っていないのですが、Q 6を見て配信があったのか気になりました。

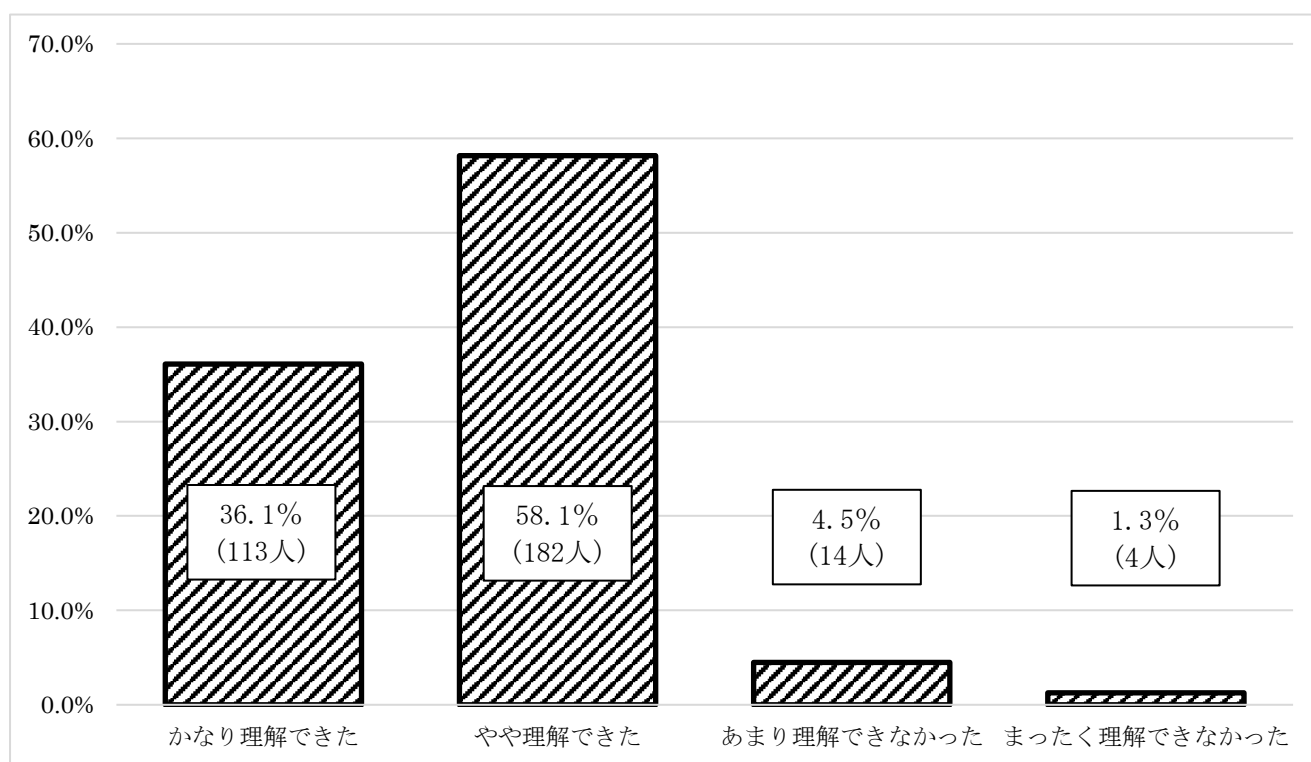
番号	項目	意見等
123	すぐーるの配信	3.11を知らないこども達なので、ぜひ続けていただきたいです。●●中学ですぐーるが届かなかったの、定期的にテスト配信してほしいです。
124		すぐーるでの引き取り連絡について。昨年度は二学年毎に時間をずらして配信があり、該当学年の配信があつてから、引き取りに向かいました。今年度も、配布されたお便りには、学年毎に時間差で配信すると記載されていたため、昨年度と同様の配信がされると思っていました。しかし、学校からすぐーるへの配信は、全学年向けの一度のみで、時間差の配信を自宅で待ち続けていた保護者も周りに多くいました。保護者同士で連絡を取り合い、すでに学校では引き取りが始まっていることがわかり、慌てて学校へ向かいました。時間差の配信の形式がわかりにくく、来年度より改善していただければ幸いです。
125		引取り訓練は、すぐーるで配信されてから校庭に出て並ぶよう事前に連絡があつたものの、結局は授業が終わると親達は続々と校庭に出て並び始めていたので、あまり意味がないのかな？と思いました。
126		すぐーる配信を待ってから校庭に並ぶ案内があつたが、公開授業が終わってからの待ち時間が長く、配信前に並んでる家庭が多かった。
127		大震災の場合はネットも繋がりにくいため学校から一斉配信できるのか、受信できるのかが心配です。
128		すぐーるもいいのですが、地域放送など訓練だとお伝えして実際に近い状況で出来ると良いのかとも思いました。実際は引き取りで終わりではなくその先の避難所へ移動などもあるのではないのでしょうか？避難先が分からない人が多かったり、高齢者が地域的に多かったり問題を早く知ることに関わる気がします。
129	学校の対応	校長先生が家庭から預かつてる命、という言い方をされていたのが印象的でした。学校一丸となって非常時に備えているという印象を、新たにしました。
130		大人数での訓練、御準備や運営は大変だったと思います。御担当の先生お疲れ様でした。ありがとうございました。
131		いつもご指導いただきありがとうございます。
132		第4土曜日に実施することが毎年決まっているならば、1年生の保護者にはもっと早めに伝えるべきだと思う。入学するまで、知らずに土曜日の予定を入れている家も多いと思うので。
133		授業参観できるという連絡が前日夜にすぐーる経由でのみきていましたが、直前すぎて都合がつかず参加できませんでした。とても残念です。
134		訓練当日に実際は1時間目から2時間目の終わりまで参観したが、もっと事前に、前日までには、何分から保護者が子どもを引き取り開始なのか知らせていただけると安心できた。当日に通知が来ないのか、いつ届くのかわからなかったのでもわかってしまった。
135		学校から配布された詳細が書かれている案内を見て8:45に行こうと思ったが、直前にすぐーるで9:45に集まってくださいというお知らせが届き何が何だかわからなく、結局9:45に行ったら、集合場所にはビブスをつけた関係者しかいなく、普通の保護者がいなかったの混乱した。数人が校舎内に入っていくのを見たので入ったら授業参観をやっていた。案内の手紙をしっかりと読んだつもりだったが、読解力がなかったのか、初めてだったので、参加の仕方が全くわからなく、少しモヤモヤした時間でした。
136		おたよりは事前にいただきましたが、すぐーるの配信は前日、当日で、前日に学校公開実施もわかり、突然すぎて驚きました。そのため、どんな防災知識の授業をされたのか出席できずわかりません。
137		学校からの案内が非常に分かりづらかった。

番号	項目	意見等
138	学校の対応	当日、仕事の研修があり引き取り訓練に参加できない（不参加）の旨を、指定された期日 4/25 までに欠席連絡メールにて連絡し、確認しましたとの返信メールもいただきました。それなのに、当日、引き取りに来ない、と電話連絡があり、私が研修中で電話に出れなかったため、職場にまで連絡をされ、職場に迷惑をかけてしまいました。連絡系統が学校内でどのようになっているのか、不安を覚えます。こちらからの連絡がなぜちゃんと伝わってないのでしょうか。欠席連絡を期日までにするように通知してるのに、なぜそれをしっかり把握してないのでしょうか。参加できないこちら側も申し訳ないのですが、学校内の情報伝達の仕方について、今日のような状況では、いざと言うときに正しい情報が伝わらないのでは、と不安です。確認と改善を求めたいです。
139		学校からの案内でも、撮影はご遠慮くださいとあったにもかかわらず、子どもの引き取りの様子を動画撮影している親を何人か見かけた。とくに1年生の保護者。学校側から、はっきりその場で、撮影はご遠慮くださいとみんなに呼びかけるかたちで、アナウンスしてほしかった。撮ったもん勝ちみたいになって、きちんとルールを守る保護者は、何なのって感じだった。
140		学校が京王線沿いなので致し方ないですが、電車が通過するたびに放送が全く聞こえなかったです。
141	避難所体験	避難所へ移動した後、体育館で子どもを連れてどう過ごしたら良いのか、イメージすることができました。その反面、たくさんの方が避難してくるであろう体育館で、展示のようにスペースを確保できるのだろうか、余震が続く中、子ども達を励ましながら過ごせるのだろうか心配になりました。
142		体育館で行われた避難所体験でトイレ、テントをみたりアルファ米を食べたりお土産がもらえて楽しかった。
143		地域の方がマンホールから直接汲める水道の体験をしてくださり、勉強になりました。
144		いろんな人から説明を受けたが、この取り組みの主旨について誰も説明していないことが気になりました。テントに入れてくれるだけで、どう使うのか誰が使うのかいつ使うのか説明なし。ベッドに座らせてくれるが、病気の人しか使えず、実際は地面で寝ることは伝えてくれず。地面にレジャーシートが貼ってあるだけで、これなんなのか、家族単位でひとつしかつかえないなどの説明をする人はおらず。配布食品はひとつだけあげるけどどれにする？と聞かされただけ。これでは何を心得て帰って欲しい場なのかわかりません。せっかくのやる意義がなくなってしまう。災害時を想定してこれらを見て体験して考えてみて欲しいなどの具体的な声がけをもっとしつこいくらいしないと、何も伝わらないと思います。実際の災害の時も、何も役割を理解していない職員しかおらず、何も備えはできておらず、みんな酷い目にあうんだろうなと思いました。
145		子どもに対して防災の教育をする場合、私たちが住んでいるこの土地で、具体的にどんな災害が起こる可能性があり（水害、地震、火事）、その一つひとつに対しての、避難や準備を伝えなくてはならないと思っています。子どもたちの質問に、バッチリと当てはまる答えが伝えられていなかったように感じました。
146		防災訓練でも高学年などで本当に学校に泊まって体験するのもありだと思います。
147		避難所体験は引取前にもできると良かった。親子別にはなりますが、時間があるところで行けたので。
148		避難所体験が全学年できない事が不満です。何故何年生以上と決められているのですか。授業の前半は映像を見るだけで保護者も子供も飽きてしまう。もっと体験、実習を増やすべき。ただぼーっと動画見るだけじゃなんの記憶にも残らない。意味がない。自分でやってみて初めて身につくと思う。

番号	項目	意見等
149	体 避 験 難 所	●●中は避難所体験してるかどうか分からなかった。体育館にどこから入るのか不明だった。
150		●●中は、体育館入口が奥まった所にあるため行きにくかった。正門で避難所体験の声かけしてくれれば良かった。
151	日 程	GWの平日に振替休日となったことがありがたい。
152		GWという時期がよくない。お休みの人も多かった。
153		ゴールデンウィークの初日ということで外出の予定を立てている人も多いとおもうので時期をずらしてほしい
154		土曜日に学校があると、たいへん迷惑です。避難訓練は、平日昼間にお願いします。本の出版が遅れたり、予定を変更したりなどで、とても困ります。今後は、土日祝に学校の予定を入れたりしないように、厳格にお願い申し上げます。
155	全 般 的 な ご 意 見	日々の生活の中で どうしても災害に対しての意識が薄れがちなので、防災教育の日を通して子ども達はもちろん保護者の私達も共に学び考えることで意識向上のいい機会になっております。引き続きよろしく願いいたします。
156		定期的に学校で取り組むことによって、子ども達に防災意識が定着すると思います。校庭での避難訓練を外から見守っていましたが、皆が静かに真剣に先生の指示や話を聞いている姿をみて、意義を感じました。
157		小学生になり、初めて参加しました。家族皆で防災について考える時間を過ごせました。
158		家族で災害時の対応や備えについて考えることができ、とても良かったです。また参加したいです。
159		防災リュックなど見直すきっかけになった。子どもと地震おきたらどうするか考える。
160		子どもが災害について考える良い機会になったと思います。入学して間もないこの時期に行われることも、新入生の保護者としては賛成です。●●小学校ではアルファ米の試食などがあつたと聞いて娘が羨ましがっていたので、市内でプログラムをある程度統一していただけるとなとお有難いです。
161		災害の記憶の継続は難しいですが、東日本大震災は映像があるので、次の世代に伝えていけるのではと思います。
162		防災教育の日ということは理解しており、とても大事な訓練だと思います。本筋とは異なるかと思いますが調布市全学校が同じ時間に一齐にお迎えになるため、あちらこちらで道路の混雑が気になりました。道に広がって歩く親子が多く、車や自転車との接触が起きそうでヒヤヒヤとしました。
163		防災頭巾、防災カバーについてはデザイン重視で選ばれてる家庭も多いが、キルティングの頭巾＋カバーの子達らは、なかなか取り出せず苦勞する様子が見られた。汚れを気にして軍手などジップロックにいれ持たせていたが、汚れよりも命が大切なので、なるべく工程少なくさっと避難できるようにする事が大切だなと現場を見せていただき思った。
164		地域の方がいつも献身的に活動してくださっており、ありがたい限りです。
165		有意義な訓練になりました。
166		子どもの防災意識が昨年度より高まり、大変意義のある時間と感じました。
167		防災についての意識が改めて高まりました。
168		いざという時の備えや家族との取り決め等、見直す機会になりそうです。
169		防災意識が高まりました。
170		防災を考える意味でも今後も続けると良いと思います。
171		お疲れ様でした。
172		実際の地震に備えて、もう少し危機感を持った防災訓練をしてほしい。
173		もう少し防災訓練を増やしてもいいと思う。

番号	項目	意見等
174	全般的なご意見	東日本大震災のときを思い起こすと、携帯はつながらず、帰宅できない事態だった。すぐーるは使えず、共働き家庭だとほぼその日中の引き取りは不可と想定した訓練が必要ではないか。その場合、数百名規模の児童が学校で一晩、二晩過ごせるキャパや必要なものが揃っているのか心配になった。
175		富士山が噴火した場合、起こりうる被害や噴火特有の気をつけるべき対処など、全市民にアナウンスしてほしいと思います。（全戸にチラシなど？）噴火による粉塵などの健康被害や排水、道路や飲料水など、具体的な対応が知りたいです。
176		知っていることを確認できた。
177		特にありません。
178		みまモーニングを●●小学校でも導入していただきたいです。

●設問8: 避難所体験の趣旨やねらいが、理解いただけましたか。（回答者数:313人）



「かなり理解できた」又は「やや理解できた」と回答した保護者数は、全体の約94.2%に当たる295人となりました。

●設問9:避難所体験の感想をお聞かせください。(回答者数:142人)

感想においては、主に「避難所体験全般」「備蓄品」「避難スペース」などに関する御意見を多くいただきました。

令和6年度から実施している避難所体験に関していただいた御意見について内容を精査し、より効果的な訓練となるよう、次年度に生かしてまいります。

番号	項目	意見等
1	避難所体験全般	引取った後で子どもから、これから体験行くよね？と言われるほど、学校で事前に児童に対する案内がきちんとされていたのだと思います。家庭での備え以外に、用意できていなかった保温シートを触らせていただいたり、簡易トイレに座らせていただいたり、子どもが積極的に体験していました。会場が、災害の際には避難所になるであろう体育館であったことも適切ですし、災害用品を見慣れたり、触れ慣れておくことは戸惑いや恐怖、不安を少しでも軽減できるのではと改めて感じました。
2		実際に備えてあるものや水道仮設トイレなど設備がみれて面白く、水道は実際に使ってみせる事でもしもの時に使えるかの確認になっていて良いと思った。参加せず帰りたいと言っていた息子は非常食から興味を持ち、帰りには沢山防災についての話ができた。帰宅後非常食を食べたいと言ったのでいただいたものは保管に回し、家庭に備蓄していた物を先に食べさせたが、賞味期限の確認をするきっかけになった（実際に一部が来月賞味期限で買い直すことにした）。その際子どもが味の好き嫌いを言っていたので次は子どもの好みに合わせて買えそうでよかった。
3		避難所を利用したことがなかったので、各ご担当の方が簡潔丁寧にご説明くださったこともあり、とてもためになった。今まで漠然としていた防災対策としてすべきことを多少具体的に考えることができた有難い体験だった。
4		とても丁寧に教えていただいたおかげで、避難所に対する知識や防災と向き合う事ができました。我が家でも備えや、教えていただいた事をもう一度見直して活用させていただきたいと思います。
5		避難者名簿など、もらっていいのか分からなかった。小学校の時は、一部ずつ配ってくれていた気がします。お手洗いなどの高さも、未就学児連れだったので実際に体験できて助かりました。いつ起こるかわからない災害にそなえて、今一度家族で話し合うきっかけになりました。毎年、たくさんの方のおかげで防災について学べることを、ありがたく思います。
6		子どもと一緒に避難場所の確認と給水所の場所が確認できて良かったです。給水所の案内が帰り際知り合いからの口頭のみだったので、看板があるといいと思いました。前の実際の避難の様子も印刷して貼ってあったり、その時の様子を知ってる人の話が聞けると嬉しかったです。
7		子ども達には、実際の物を見せることが出来てよかった。避難所には限りがあり、人があふれてしまい混乱するのではと感じました。市の職員の方が来るまで待つのか、地域の横のつながりが薄くなっているので実際に災害となったらと考えると不安が大きいです。
8		みんなで防災の意味を真剣に討論していた姿を見て子どもたちに考えさせて意見を出すことによって防災の意識を高まったと感じました。
9		家族に持病を抱える人間がいるため、その病気に対する普段の対処の仕方が避難所だとどうなるのか、など、具体的なイメージができた。
10		設営の途中をみる機会はなかなかないので、良い機会だった。災害が起きたら、住民で協力して避難所開設をすることがわかった。

番号	項目	意見等
11	避難所体験全般	子ども達の意識が変わったと思います。人事ではない、いつ起こるか分からないという事を認識出来た1日だと思います。
12		もう少し意識をもち、いざという時のために、準備をしようと思いました。貴重な体験、ありがとうございました！
13		定期的にこういった事をやっていただくと、忘れないし、いざというときに役立つと思いました。
14		実際に体験できるものが多く子どもも楽しく参加できてよかった。
15		実際に見ることができて勉強になりました。
16		親子で避難所の様子を体験できたのは、万一の時のことを考えて、良い経験になったと思う。
17		普段あまり見聞きすることのないので、色々と知ることができてよかった。
18		普段からの勉強から、考える。判断することの重要性を理解した。
19		名簿を頂いたので、意識が高まりました。
20		防災意識が高まりました。
21		実際に避難した場合のイメージがついた。
22		もう少し実際の避難所のイメージが分かると良かった。発熱時はどのような対応になるのかなど案内が欲しかった。
23		家族で話し合った。
24		学校等の取り組みがわかった。
25		避難所の雰囲気が想像できました。
26		避難所体験のための準備、案内などのため民生児童委員として参加しました。子ども（中学生）の引取りのため途中お手伝いから抜けました。自分の子どもも避難所体験には参加しなかったこと、と体験コーナーへの参加者が少なかった、ということを知って感じたことは引取り後避難所体験への声掛け、誘導がなかったのも一因かと思いました。ものすごいアピールをするか、授業中に見て回るかしないと中学生は自主的には足を運ばないな、と思いました。
27		引き取りと体験のつながりが、学校と行政で運営が異なるためか、どうも非効率。選挙の時のように、入口と出口を分ける、履物をどうするのか、など出入りに混乱が生じていた。
28		受付の行列が長く参加を断念した。しっかり説明を受けられるのは良さそうだったが、説明を受ける列と様子を見るだけの列で分けて参加出来れば尚良かった。
29		入口の列を見て、子どもが帰ろうと言ってしまった。もっとスムーズに入れたら参加したかったです。
30		避難所のイメージが湧いて良かったです。受付でもらうはずのプリントが足りなくなったとのことで、何のプリントだったのか知りたかったです。あとは、列の後ろが詰まっていたので、もう少しスイスイ進めると良かったです。
31		狙いや目的の掲示を見ることは出来ませんでした。学年も制限されていましたが、昨年度と同様の展示、備蓄品入れ替えのための配布であり、どの自治体でも行っている防災の日イベントと特段変わりがないように思いました。子どもも疎らで、銀シートにくるまったりする程度でしたので、もう少し工夫があると考えられるきっかけになるように思います。この内容ならば、他のイベントと抱き合わせなど、駆り出される側（職員等）への負担をもう少し考え直しても良いのではないのでしょうか。
32		トイレの使い方について説明いただけただけなので、実際に水が止まるなどの際にスムーズにできそうだった。説明のない展示（テント、担架など）があり、そばにいる方に質問してもあまり返答がなく、なんのための展示なのかよくわからなかった。

番号	項目	意見等
33	避難所体験全般	かなりストレスが溜まりそうだなと感じた。様々なストレスをどう解消できるかが課題だと感じた。また、案内者の知識が不足していた様でしたのでその点を改善してほしい。
34		基本的に静かなスタッフが多くて、丁寧に説明してくれるテントや簡易トイレのスタッフの方はありがたかった。真ん中にいくつかシートを引いていましたが説明など無かったので眺めるだけでした。もう少し怪我人はここで救護する！とリアル感があるといいと思いました。 アルファ米などをいただけたところでは説明が聞き取りにくく躊躇しているとイラつかせてしまったように思いました。ボランティアでしてくれているだと思うので仕方無いのかな？と納得はしています。入り口で靴をどうすれば良いかとかわからなかったのも、もう少しわかりやすい指示が（張り紙とかでも何でも良いので）何かあると良いと感じました。色々と書きましたが、こういう機会は日頃薄れがちな防災意識を思い起こすことが出来るのでとても良いと思います。これからも続けて欲しいと思います。ありがとうございました。
35		避難所に行く人が多い場合、どういう人が優先されるのかを聞きましたが、あまり自信のある答えが聞けませんでした。家が崩れた人が優先とはいえ、そういう時だからこそ、事実とは違う事を言って先に入れてもらうとする人も少なくないかもしれません。家に備蓄していないから、食べ物や飲み物が欲しくて、避難所にいる為に大袈裟に言う人など…難しい事とはもちろん分かりますが、ある程度優先する方を決めておかないと、そしてそれを周知しておかないと非常時は自分が自分となる方も増えるので言い合いや事故の危険もあると思います。沢山の方は入れませんし、お年寄りや持病のある方、妊婦の方などだけでも入れないんじゃないかと思いました。避難所を担当していただく市などの負担にもなりますので、断り方などもある程度決めておかないと、担当していただける方も被災者だと思うので、なるべく負担を軽くしてあげて欲しいと思います。
36		1型糖尿病で発災時にインスリン注射がない場合にそのような医療品の確保をどうすればよいのか聞いたが担当ではないので分からないと言われたのが残念だった。要配慮者の二次避難所開設のことも聞いたが避難所の担当者なのに知らないと言われたので不安に思った。避難所担当者の教育が不足していると思いました。
37		スペースの狭さなどはよくわからなかった。グッズ体験も割と身近ですすでにある知識などでそれほど知識が深まらなかった。また、持病を持ってる人の受け入れに関して質問したが、わからないとの答えで不安になった。医療関係などどうしてるのか最低限の知識を持っていて欲しかった。
38		質問したことの答えをわからない方が多かったのも、詳しい方がひとりいらっしやると良いなと思いました。
39		スタッフの方が慣れてなく説明もなく何をどうしたらいいのか分からないのが伝わってきて気まずかった。
40		避難所体験に行きましたが、特に説明も無くただ見ただけでした。
41		想像していたものより、内容が少なく準備不足感が否めなかった。ブルーシートがひいてあったが、この1枚が1人分なのか1家族分なのか、説明も聞いたが要領を得ず、仕切りもなく、実際の様子が掴めなかったのは残念だった。トイレは実物もあり、子どもも興味を持って話を聞いていた。ソーラーパネルと照明も設備はいくら位かかるのか尋ねたがわからなかった。
42		実際の避難所の写真や、何人くらいが集まるかなどの具体的な内容があるともっと良かった。
43		新しい製品が開発されていることに感心したが、運用方法が誰にも伝わっておらず、危機感を新たにしました。

番号	項目	意見等
44	避難所体験全般	学校から連絡が来ていた引き渡し時間に行っただけで、引き渡し以外のなにもししていません。前日夜の連絡だけでは伝達事項は伝わってきませんでした。震災があったときにこの調子では調布市の子どもには死者が多数出るに違いなく、安心して学校に預けられないことがよくわかったことが本日の最大の収穫です。
45	備蓄品	人生経験の少ない子どもにとっては、あらかじめわかっている・知っている・見たこと触れたことがある・というだけで安心感や理解に繋がると思います。そのため今回の避難所体験は非常に良いものだと思います。クッキーなど戴きましたが2030年まで持つんだって！家の避難リュックに入れようねなどの会話もできとても良かったと思っています。配布品がなくても構いませんので毎年開催をお願いしたい企画だと思います。
46		備蓄品について、子ども達と話し合いました。子ども達は災害時にトイレが使えなくなることのイメージがつかなかったようで、簡易トイレを実際に見せていただき、少し実感できたようでした。またアルミブランケットの体験コーナーで、職員の方に、暖を取るために、新聞紙を持参できるとよいことを教えていただき、避難グッズの中に用意しようと思いました。
47		実際に避難するかもしれない体育館で、簡易トイレやブルーシート、断熱材での保温など体験させていただき、来ては欲しくないですが、いつの日かの避難所生活の予行演習ができました。いざというとき、『知ってる・したことある』と『知らない・したことない』は、心理的負荷が大きく変わると思います。子どもも、そして親も良い体験ができました。ありがとうございました。
48		非常用トイレやテント、避難所のスペースなど現物や設置場所などについて知ることができてよかったです。水害時、●●小も●●中も避難所にならないと初めて知りました。子どもと落ち合う場所など考えたいと思いました。
49		避難所用トイレに入る体験や体育館の中で家族がどのくらいのスペースで過ごすのかを知る事で、可能ならば数日間でも避難所に行かずに家で過ごせるよう水や食品のローリングストック、非常用トイレなど見直しや準備をする意識が高まりました。
50		避難の受け付けや避難用のブルーシート、トイレなどを見学しました。実物をみることで避難生活のイメージがしやすかったです。ありがとうございました。
51		避難所を実際に体験してみてトイレや飲食、防寒対策などされていて、とても安心して過ごせる場所だと思いました。実際に災害にあった時は避難したいと思います。
52		トイレなど、実際に見られて、座れたり、今まで不安に思っていたことが、安心感に繋がりました。ただ、狭い空間にたくさんの方がいることを想定すると、やはり避難所はそれだけでも大変になることが予想され、集まった方が、周りを気にせずいられるような空間の工夫も必要なんだなと思いました。
53		非常用トイレや1家庭のスペースが展示されていたので分かりやすかった。避難所(小学校)に備蓄されている防災用品を知ることができたが物資の数(特に食料・水)が少ないと感じ各家庭での準備の必要性を痛感した。
54		避難所での手続きや災害用トイレの使い方を知ることができた。実際に避難所へ多くの方が避難すると、トイレや寝る場所が限られることを想像できた。
55		丁寧に説明してもらえて良かった。非常用トイレは人数配布してもらいたかった。参加した子どもはもらえなくてガッカリしていたので。
56		簡易トイレを実際設置されていて、使用方法などが理解出来ました。また、避難時の1人スペースの小ささも理解出来ました。
57		トイレ体験を経て、携帯ライト&安定したトイレ用テントの必要性を感じた。
58		食料の備蓄はもちろん大切ですが、トイレの体験や数の必要性を意識したいと実感しました。
59		マンホールトイレを知ることができました。

番号	項目	意見等
60	備蓄品	実際に管理トイレに座らせてもらえたので使用感がわかって安心しました。
61		簡易トイレなど興味深く見せてもらった。
62		トイレの大変さを感じた。1つもらえて良かった。
63		災害時のトイレの用意をしようと思った。
64		トイレなどの設備があり安心した。
65		トイレのイベントがよかった。
66		トイレの問題など話し合うきっかけになった。
67		実際に簡易トイレのセットが出来て良かったと思います。
68		マンホールからの給水等, 初めて知ることができてよかったです。
69		今回は, 簡易トイレとシートのみだったの, また他の体験ができればしてみたいです。
70		避難所に行った場合の家族のスペースがどのくらいになるかや, トイレのことなど参考になりました。
71		災害時にお世話になると思うので避難所体験をすることで子どもとも具体的な話が出来てとても良い機会でした。家に帰り非常食の確認をして夜ご飯は非常食のわかめご飯を試食しました。ありがとうございました。
72		アルファ米を食べたことが無かったのですが, 思ったよりも美味しかったです。これならローリングストックできると思い, 購入することにしました。
73		非常食を試せたり, 1グループの避難スペースを体感したりできたので避難所での生活がイメージしやすくなり, 避難グッズの見直しにつながりました。
74		アルファ米を実際に食べてみる機会がなく, 購入もためらう部分も大きかったが, 実際に試食することができてよかった。
75		非常食をひとつ頂いたことで, 非常食を体験出来て良かった。マンホール水道があることが知れて良かった。
76		防災用グッズのくじ引きで当てた商品のおかげで子どもが防災についての興味がましたように思う。また, 防災アルミブランケットを実際に触ってみたりできて防災への意識も高まった。
77		一家族のシートのサイズやトイレなど, いざ避難となった時のイメージが湧きやすくなりました。保温シートが思っていた以上に温かくびっくりしました。家族の防災意識がさらに高まりました。
79		避難所でのスペースがどれくらいか初めてしったし, 簡易トイレがマンホールの上につくるのも初めて知りました。クッキーがお米からののがあってアレルギー対策しているのも初めて知りました。アルミシートがあったけど包んだことがなかったの。やってみますかも言われなかったの。どれくらい温かいのか体験したかったです防災グッズのチラシがあったらほしかったです。
80		台風の避難勧告の際, 実際に避難をしました。たった一晩でしたが対応が後手にまわったこともあり, 避難者は不安が強く, また, 災害時はこんなに人間性があるわになるのだなと感じるほど不快な経験もしました。こうした機会に避難所について体験するのは自分自身の防災意識を高めることにもなり, 大人も子どもも学びになると思いました。防災用品の展示が良かったです。直に床に座るのがやはり苦痛だなと思いました。段ボールの仕切りやエアマットなど備蓄してほしいです。
81		実際のスペースが理解できて良かった。雑魚寝のような形ではなくニュースで見るような仕切りがあるタイプだとありがたいと思いました。トイレの実際も見ることができイメージが湧いた。非常食もウチで食べてみていい体験だった。ウチでも非常食備えています。
82		青いビニールシートにアルミシートの体験があったが, 他に仕切りのための衝立や, ダンボールベッドも見てみたかった。調布市が導入するかしないかは別として, サンプルでもあれば, 皆さんも関心が高まりそうに思いました。

番号	項目	意見等
83	備蓄品	避難所の事が知れただけでも、何かあった時の心の備えになりました。また、携帯トイレや非常食をいただいたことで、備えておく物を改めて考えようという意識になりました。
84		アルミの保温シートが想像していたよりも丈夫なんだなあと思いました。
85		アルミ？のシートが想像以上に温かかった。
86		簡易ベッドやアルミシートなどの防災用品について子どもと話すきっかけとなりました。
87		簡易トイレやアルミブランケットに触れたことがなかったので、よい体験になりました。
88		アルミシート、あるとよいと思った。避難所は過ごしにくいと感じた。
89		備蓄品の見直しや補充など、改めて意識する良いきっかけになりました。
78		備蓄品を補充しようと話すきっかけになりました。
90		家でどんな物を準備しておいたら良いかを学ぶ事ができた。
91		地域住民が多く避難所に来た場合、限られたスペースで協力しあっていくことを感じた。持ち出しバッグを整備しようと思った。
92		備蓄品は少しずつ買い備えているが、避難する際の待ち合わせ場所やルールを家族で話し合う必要があると気付いた。
93		自宅で5日くらいは保つ程度の備蓄を心がけているが、不足しているものがわかってよかった。
94		便利な道具が多く家に備えようと思った。
95		備蓄品の見直し及び避難場所の再確認。
96		備蓄の見直しをしばらくしていなかったため見直すきっかけになった。一日中の必要量などが展示してあるとわかりやすいと思った。
97		防災意識は高まった。備蓄品の見直しをしようと思った。
98		備蓄品についてちゃんと確認しようという意識が家族で高まった。
99		体験することで、追加で備えておいたほうが良いと判断できたものもあって、参考になりました。
100		とても良い体験だと思いました。避難生活で使うものの体験は必要だと思いました。
101		防災について話し合い、家族で備蓄品を用意する良いきっかけになりました。
102		市の用意している設備や物資の把握が出来て良かった。今後は避難所生活が長期化した場合に使えるものを更に追加してもらいたいと感じた。
103		避難所で使用するものや、避難した時の我が家のエリアなど、実際に見たり、体験できイメージが湧きました。
104		解説とともに実物を見せてもらえるので、分かりやすく、意識を高められた。
105		他の学校の避難所では家族分の物ががもらえたのに、うちの学校では1人分しかもらえなかった。調布市で統一してほしい。
106		何か体験出来るのかと思ったが体験という感じではなく、展示物がメインでした。
107		テントが用意されていたが、一家族用なのか説明がなくよくわからなかったまた、どのように活用されてるのかもわからなかった。
108		実際の震災時には、備蓄品はPTAの方々や地域の権力者等に全て占拠され手に入れることはできませんでした。なので和気あいあいなこういう体験会って少し苦手です。
109		防災バックについて詳しく説明してくれて良かったと思いました。
110		子どもたちが防災バックの場所を知らないことを知らなかったもので、家族で話し合いたいと思いました。（中に何が入っているのかも）

番号	項目	意見等
111	避難スペース	実際の避難所のトイレや、アルミシートを触れたりできて良かったです。個人的には避難所の段ボールベッドや、このスペースがどれくらい確保されるのかと いいのも興味がありました。次回はその辺りも展示して頂けたら嬉しいです。
112		トイレの設置は視覚的に効果があった。ブルーシートを敷いていたが、壁などは なかったのも、実際の一家族の避難スペース、隣との距離、壁の有無、実際の写 真などがあるともっとリアルに体験できたと思う。
113		避難所の家族あたりのスペースがどのくらいか知ることができてよかった。より リアルにするなら、実際の避難生活のように荷物を運び込んだらどのくらい狭く なるのか、荷物などがあるとよりイメージが膨らんだかもしれないと思った。
114		実際にシートが敷いてあるのを見て、どれだけの人がここに避難できるのだろ う？と、考えることができました。避難所宿泊体験などもできたら、より、身近 に感じるできそうです。
115		我が家は未就学児がいるため、課題では自宅避難と話し合っていたのですが、長 女は避難所に行った方が良く考えていたようです。しかし、実際のひと家族分 のスペースや密集具合を見て、自宅避難できるよう環境を整えることを頑張る方 が良さそうだったと思ったようでした。貴重な体験をありがとうございました。
116		身近に体験した地震として熊本地震の際は新生児だったため、学校で実際に見る トイレ環境や一世帯に対するスペースがどれくらいになるのか体験など子どもに とっていい体験になったかと思います。
117		体育館でのひと家庭に与えられたスペースは非常に小さいと感じました。あたり まえに過ごしてしまっていた日常をある日突然奪われて不自由な生活となり、そ の生活の終わりもみえない時に精神的に耐えられるか不安になりました。
118		体育館にひかれた一人分のビニールシートは広いと感じがするが、大して体育館 に人が入れないとわかった。なるべく避難所に行かなくても良い方法を考えなく てはと思った。
119		ビニールシートの上に子どもが寝転がったが、痛いー、と言っていた。災害時、 避難所ではなくて、なるべく自助で、できる所はやるべきだと感じた。
120		避難所でのスペースの狭さや簡易トイレなどの実物を、子どもと一緒に見られて 良かったです。
121		避難所のスペースやトイレなどの設備はわかりやすかったです。ありがとうございました！
122		避難所施設にはじめて見ることができ、イメージがわいた。
123		避難所スペースの広さや仮設トイレを実際に確認し、自分でできる備えもし ようと思えました。
124		避難場所の実際のスペースの大きさをみれたのはよかったと思う。
125		もし！自分たちが避難した時におかれる状況避難スペースがこんな感じなんだ。 というのがリアルに感じれた。
126		避難所の一家族のスペースが狭く驚いた。
127		避難所での環境の過酷さ（1人のスペース、床の硬さ、毛布枚数）がよくわかつ た。
128		避難スペースの狭さや、保温シートの暖かさ等、実際に触れてみることで少しイ メージすることができました。
129		一家族あたりのスペースが思っていた以上に狭いことが分かりました。避難した 場合のことを想像できました。
130		公園での炊き出し、トイレ実演などは参加したことがあったが、避難所体験は初 めてだったのでありがたかった。一家庭分の狭さにびっくり。
131		避難場所の一家庭に与えられるスペースが思っていたよりも狭いと感じた。
132		1人分のスペースの狭さを実感した。
133		ひと家族分のスペースがかなり限られている。

番号	項目	意見等
134	避難スペース	パーソナルスペースの小ささなど具体的なイメージを持つことができた。
135		床に敷いてあった青いレジャーシート思ったより小さくてが家族でのスペースがこんなに小さいのかと驚いた。仮設トイレを4年生の娘が座ったが大きくて少し危なかった。子ども用の便座のようなものがあったら子どもも安心して使えると思う。
136		たぶん子どもは、あのブルーシートに座って過ごすというイメージはわからなかった様子。私から説明はしたが。トイレとか病人用ベットは理解したはず。
137		せっかく色々みせてくれるのだから、もっと人が集まるようにした方がよいと思いました。また、避難所のスペースの説明とか、実際にここにどれくらいの人に来て、1家族どれくらいのスペースがもらえとか、ベッドやテントがどのくらいの数用意されているのかとか細かいことも説明していただけたらよかったのではないかと思います。皆様忙しくて色々準備も大変かとは思いますが、もっと行きたいなと思えるような避難訓練だったり、体験会にしていいただけたらと思います。
138		きちんと体験するために、ブルーシートに何組かの家族を座らせたり、これから想定される暑さや暗闇など、もっとしっかりと体験した方がよいと思います。
139		実際に避難生活をする際は、一家族どれくらいのスペースを与えられるのか、調布市がどんな事や物質を提供してくれる（または、してくれない）のか等、知る機会が欲しかったです。
140		居場所としてブルーシートが敷いてあるのを見ましたが、体育館の収容人数と近隣の住民数が合わないように感じました。校舎も開放されることになるとは思います。防災備蓄や備品などがどうなっているのか、調べてみたいと思いました。自助の大切さを改めて考えるきっかけになりました。
141		段ボールで作る個人的スペースを1つでも置いてもらって大きさを実際に体験できるとなお良かった。
142		諸外国と比べ日本の避難所設備は余りにも遅れており、愕然としました。シートは人数に関係なく人家族1枚・プライベートは無いという悲惨な状況は、もう何十年前から変わっていないのですか？過去の震災から何もアップデートしていないのですか？手厚くしてもらえとは全く思っていないですが、『避難所へ来ないでくれ』という事を伝える為の避難所体験なのかな？と思いました。

第3章

「命」の授業，啓発講話（活動・体験）の記録

ねらい 過去の災害の教訓に学び，備える

- ◎過去の災害からの教訓や，防災分野の有識者の知見から学ぶ
- ◎「命」の授業，啓発講話（活動・体験）の記録を共有する
- ◎自助・共助の意識と行動様式を啓発する



まちかど防災訓練車による消火訓練（第五中学校）

3-1 第一小学校

◆「命」の授業

防災意識を高めよう 学ぼう 防災 ―キミならどうする―

第6学年

「学校に避難しようと玄関を出たが、親から避難時に持つように言われていた防災リュックを忘れた。ほんの十数秒でもどれる。家にもどる?」, 「一人で留守番中に大きな地震! 真っ先に何をする?」など、具体的な場面を想像させ、10秒以内で判断しました。どのような理由でどんな判断をしたか、クラスで話し合うことで、災害発生時、自分の命を守るためのとっさの判断をすることの大切さについて学びました。災害が起きた時にどんな行動するのか話し合っ、事前にルールを決めておくことや、命を守るためのより良い判断をするため、事前に考えておくことの大切さなどを学びました。



第2問 状況をまとめると・・・

- ・1月寒い日。夕方6時
- ・本棚が倒れる
- ・部屋の電気が消えてしまった
- ・親と連絡はつながらない
- ・余震が何回か続いている
- ・一人で留守番中に大地震
- ・窓ガラスにひびが入る
- ・外では消防車や救急車
- ・再び強い揺れが起きる

あなたは、家で待ちますか?

イエス

ノー

◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「防災啓発講話」

講師 調布消防署員

第3～6学年

調布消防署による防災啓発講話の動画を視聴し、過去に起こった5つの大きな地震について学びました。特に、2011年の東日本大震災の被害の写真では、岩手県釜石市の小学校の3階に軽自動車突き刺さっており、町を襲った津波がいかに高かったかを知ることができました。その後、地震が起こったときの行動のポイント①身の安全を守る、②落ち着いて行動する、③火の元を確認する、④正しい情報を知り、確かな行動を取る、⑤協力し合って救出・救護し合う、⑥避難の前に安全確認をする、の6つを教えてくださいました。いざというときに日ごろの防災訓練が命を守ることを再認識できました。



3-2 第二小学校

◆ 「命」の授業

もし、大地震・水害が起きたら ーどのような行動をすればよいかー

全学年

各学年に合わせて、「大地震が起きた際の行動について」考える学習を行いました。

低学年では、登下校や学校生活の中で地震が発生した際に起きる危険を予想し、実際に動作を行いながら、自分の身の守り方を考えました。また、「お・か・し・も」の約束や避難経路等を確認しました。中学年では、大地震が発生した際に備えて家庭で行っていることや、家族と離れているときに大地震が発生した場合どのように行動するかを考えました。また、家庭での備えについて防災ノートを使いながら確認したり、「自助・公助」の意味を学んだりしました。高学年では、「自助・公助・共助」について学び、日常生活の中で、地震が起きた際の行動について話し合いました。また、避難場所の確認等を家族で共有することの大切さを学びました。どの学年も自分の身を自分で守り、共に助け合うことの大切さを学習することができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「地震が起きた時の行動」

講師 東日本電信電話株式会社(現NTT東日本株式会社)東京武蔵野支店職員

第6学年

6年生はNTT東日本のご協力を得て、「災害用伝言ダイヤル(171)・災害用伝言版(WEB171)」を体験することで、災害時における家族との連絡の仕方を学びました。東日本大震災当時の災害用伝言ダイヤルの様子や、災害時には公衆電話が優先的につながることを学びました。また、児童にあまり馴染みがない公衆電話のかけ方を学びながら、実際に災害用伝言ダイヤル(171)の操作体験を行いました。受話器を上げることが初めての児童もいましたが、講師にダイヤルの仕方等を丁寧に指導いただいたことで、児童も楽しみながら理解を深めることができました。学校周辺の公衆電話の探し方等も教わり、充実した時間となりました。



3-3 第三小学校

◆「命」の授業

ぐらぐら！さあ どうする？ ～じぶんの いのちは じぶんで まもる！～

第1学年

1年生は、地震が発生した際の自分の身の守り方を学習しました。例えば、「おいた」（「おちてこない」）、「いどうしてこない」）、「たおれてこない」）場所に身を隠すなど、避難訓練でよく使う大事な言葉を覚えました。また、机の下にもぐって机の椅子の足を対角線上に押さえる「サルのポーズ」など、自分自身を守る体勢を実際にやってみながら練習しました。

子どもたちの中には大きな地震を体験したことのない児童もありました。これからも毎月繰り返し訓練しながら自助の方法を体で覚え、落ち着いて行動できるように継続的に指導していきます。

◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

自助・共助 ～自分たちにできることを増やそう～

講師 調布消防署員

第5～6学年

今年は調布消防署の消防隊員が来校し、「ロープワーク」、「担架作成・輸送訓練」、「通報訓練」の3つの体験を行いました。

「ロープワーク」では、救助用のロープを用い、いざという時に肩にかけて重い物を運ぶための固い結び方を学びました。初めはなかなか思うようにできませんでしたが、消防隊員の方の指導により、徐々にできるようになりました。

「担架作成・輸送訓練」では、棒と毛布を使った簡易的な担架を作成しました。実際に友達を乗せてみると想像より安定しており、身近な道具を使った救助法を学ぶことができました。

「通報訓練」では、119番通報のやり方を練習しました。火事か救急か、どんな人がどのように倒れているのか、どこへ駆けつければよいのかなどの大切な情報を落ち着いて伝える訓練をしました。

どれも実践的な訓練で、児童らは訓練の意義を理解し、有事に備えようと真剣に学習していました。



3-4 八雲台小学校

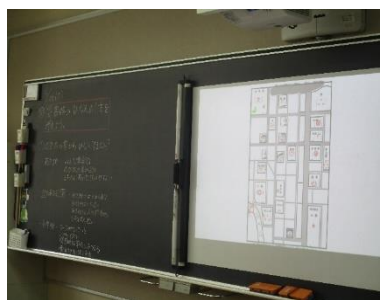
◆ 「命」の授業

防災教育チャレンジ ～プチ・ハザードマップ～

第5学年

災害が発生して避難するとき、どこに避難をすればよいかを、話し合いました。

安全な場所はどこか？避難所までの道に危険な個所がないか？など一人一人が考えたあと、グループで話し合い、学級全体で共有しました。日常生活と結び付けたり、友達の意見を取り入れたりしながら、自分の安全は自分自身で守ることが大切であると学びました。防災に対する意識を高めることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「東京消防庁によるVR防災体験車体験」

講師 調布消防署員

第6学年

調布消防署員による、VR防災体験車体験を行いました。「モーションシート」による演出やヘッドマウントディスプレイのVR映像で、本当に起きたかのような災害を疑似体験することができました。動きと映像が連動した体験を通して、災害の怖さ、どのように避難をしたらよいのか、日ごろからどのようなことに気を付けたらよいのかを学ぶことができました。初期消火の訓練も合わせて行うことができました。体験後には、「VRで体験できたので、いざというときに今回の経験を生かしたい」等の感想を口にしていました。充実した体験活動になりました。



3-5 富士見台小学校

◆ 「命」の授業

「地震災害から身を守る(自助)」

第5学年

阪神淡路大震災や東日本大震災のときの様子を知り、自分たちがその場に居たら、どんなことができるのか、またいろいろな状況で大地震が発生したときに、どのようにして身を守ることができるのかについて考えました。

学校では教室、廊下・階段、家庭科室・理科室、給食配膳中の4つの場所を想定し、その場所に合った行動を考えました。場所によって、命を守る行動に違いがあることに気付くことができました。また家に1人でいるときを想定し、自分の身は自分で守ることを意識させ、どのように行動すればよいのかを考えました。

この授業を通して、「自分の命」は自分で守る「自助」について学ぶことができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「日本で起きている地震について知る」

講師 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 社会防災研究領域防災情報研究部門

総合防災情報センター 上田 啓瑚 氏

第4～6学年

地震などの災害が起きたときに、どのような行動をしたらよいのかについて、講師の先生から話を聞きました。地震のメカニズムや1日にどれくらいの地震が起きているのかを知り、地震についての知識を深めました。次に地震が起きたときの行動を学び、「自分の身を守る行動」「避難所での生活・行動」などを知り、防災について考えることができました。



3-6 滝坂小学校

◆ 「命」の授業

持ち出し袋の中身を考えよう 一いのちをまもるために一

第3学年

東京消防庁公式チャンネルの動画を視聴し、地震はいつ起こるかわからないことから、備えておくことの必要性に気付きました。自分の家の備えを想起したところ、持ち出し袋が備えとして大切だと話し合いました。持ち出し袋の中身を家庭によって比較し、家庭によって中身が異なることから、自分の持ち出し袋に必要なものを考えました。

救急箱、薬、充電器、預金通帳、水、毛布、家族の写真、トイレトペーパー、着替え、笛などの46個のリストの中から、10個を選びました。非常用持ち出し袋の中身を考える際は、命を守ることを第一に考えました。自分が選んだものと選んだ理由を話し合ったことで、自分や他人の命に対する思いが深まりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災啓発授業

講師 調布消防署員

第4学年

防災講話の動画を視聴しました。「過去の地震災害」の映像を見て、日本における大地震の様子や実際の被害の状況などを映像とともに確認しました。「東日本大震災のことを聞いたことはあったけれど、映像を見たことはなかったので被害の大きさに驚いた」、「建物が倒れる、火事が起こる、津波が来るなど、実際に起こったらと考えると怖くなった。」と大災害の恐ろしさを知りました。動画を見た後に、地震があったときにどのように行動すればよいのか話し合いました。「あらかじめ非常災害時持ち出し袋を用意する。」、「家具を固定する。」など、事前にできる自助の行動の意見が多く出ました。また、リモート防災学習地震編の動画を観て、地震の時の行動について、一つ一つ丁寧に確認することができました。地震の時には、まず、身の安全を確保すること、地域と協力し合うことが大切だと学びました。最後に、調布消防署の話はとてもわかりやすく、実際に地震が起こったときに、自分がどう行動したらよいかをしっかりと確認できる内容でした。子どもたちにとって、災害は身近に感じるものが難しいものではありますが、具体的な映像と消防署の方々の話で、自分事として考える良い機会となりました。

3-7 深大寺小学校

◆「命」の授業

どうする？災害時の食の備え

全学年

災害時の「食の備え」について学ぶことをねらいとして、全学年で、災害時の備蓄食料「アルファ化米」を食べる体験活動を行いました。

前日の給食で、備蓄米・アルファ化米を使用した「わかめごはん」を食べました。アルファ化米はいつも食べているお米と味や食感が違って苦手と話す児童がいました。しかし、地震が発生し、酷いときは好きなものが食べられない避難生活が始まることを知ると、「食事ができることだけでも幸せなことなんだ」、「好き嫌いは言ってもらえないね」と口にする児童がたくさんいました。実際に自分たちで作ることで、作り方が分かるだけでなく、非常食のありがたさや、その味に慣れておくことの重要性を感じることができる機会となりました。

1～3年生は「わかめごはん」、4年生は「五目ごはん」、5・6年生は「わかめのおにぎり」を実際に食べました。特に1年生は、初めての機会だったので、とてもワクワクしながら作っていました。「水を入れただけなのに、お米が食べられるなんて不思議だね」、「とてもおいしいね」などと、感想を口にしていました。今回の経験を通して、電気やガスが使えなくなるかもしれない非常時に向けてどう備えるべきか、防災意識を高めることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「災害時に命を救うために」

講師 地域学校協働本部・元消防団分団員

第4学年

4年生が、地域学校協働本部の方々のご協力を得て、消火体験活動を行いました。実際に体験することを通して防災意識を高めることがねらいでした。

まず、地域学校協働本部の防災ボランティアの方から、消火器の仕組みや使い方についてのお話を聞きました。次に、消火器を手に取り、中に入っていた水を的に当てる練習をしました。消火器が重いことや、狙いを定めることの難しさを実感していました。また、地域の方に協力していただいたことに感謝の気持ちを持ち、最後まで真剣に取り組みました。自分事として災害と向き合うことができる貴重な体験活動となりました。



3-8 上ノ原小学校

◆ 「命」の授業

命を守る防災訓練(道徳)

第5学年

「命を守る防災訓練」という読み物教材を題材に授業を展開しました。めったに地震がこない地域で避難訓練にまじめに取り組んでいた主人公が、「避難訓練にまじめに取り組むのは損かもしれない」という感情をもつ話から、子どもたちにその考えに共感する？共感しない？と問いかけ、それぞれが自分の立場を明確にしました。共感する、しないといった両方の意見が出る中、話し合いの後半に、災害がくるかこないかはわからないが、①「訓練していて災害がこなかった場合」と②「訓練していなくて災害がきた場合」のどちらがよいか、一人で考える時間を設けて振り返りを書かせました。改めて避難訓練への取り組み方について考えるきっかけになりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

避難訓練の大切さ！自分の身は自分で守ろう

講師 調布消防署員

第3～6学年

調布消防署員から、過去の大震災に関わる記録や被害状況の確認、災害にあった時の行動のポイントについての話を聞くことができました。災害の記録では、ひとたび災害が起こると今までの日常が全く違うものになってしまうことを、被害状況を映した写真や被害規模を表す数字によって学ぶことができました。児童は、自分たちが毎月学校で行っている避難訓練は、このような災害の時に大事なことであることを改めて意識し、真剣に動画を見ていました。

また、災害にあった時の行動ポイントでは、学校にいるときと家にいるときの注意すべき点が分かりやすく解説されていました。特に「倒れてきそうなもの」、「落ちてきそうなもの」を見分けるポイントは自分を守るためにどこに避難すればよいかを判断する材料になりました。最後にあった防災クイズも、今まで見てきた映像を振り返る内容であり、防災の知識の定着につながりました。

3-9 石原小学校

◆ 「命」の授業

かけがえのない自他の命【教材名：二十分間の出来事】

第5学年

自分の命だけでなく、他者の命も改めて大切にしようとする心情を育てるために、かけがえのない命を守るということについて考えました。

導入では、東日本大震災直後の写真から問題意識をもたせました。その後、震災時に足が不自由でその場に残ると言った立場、説得して最後まで諦めずに命を救おうとした立場、2人の登場人物について多面的・多角的に考えました。

児童からは、「今生きていることは当たり前のことではない。」、「今までよりも命をもっと大切にしたい。」など、命について自分の考えをしっかりとつことができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「日本は地震が多い国」

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署員と、過去に対応した5つの災害について、写真をもとにその様子や規模について確認しました。近年、日本は大規模な地震がたくさん発生していることを理解し、危機意識を高めることがねらいでした。東日本大震災で津波に流され校舎の3階に自動車が刺さった状態の写真を見た児童からは、驚きの声上がり、津波の恐ろしさを実感しているようでした。

地震の行動では、6つの行動を紹介していただきました。また、5つの日頃からできる地震の備えについても紹介していただきました。自分たちが日頃から意識していないこともあり、うなずきながら話を聞いている児童もいました。最後の「防災クイズ」では、今まで学習したことを活かして、ほとんどの児童が全問正解していました。

児童からの感想では、「家に帰って、家の人と家具の転倒・落下・移動防止策ができるか確認したい。」、「地震が起きても、慌てずに行動したい。」など、自分のできることは何かをしっかりと考えることができました。

3-10 若葉小学校

◆ 「命」の授業

「みのまもりかたをかんがえよう」

第1学年

授業では、「おちてこない・たおれてこない・いどうしてこない場所」で身を守ることを学びました。児童は教室内を見渡し、「あの棚は倒れてきそう。」、「タイヤがついているから動きそう。」と積極的に探したり、確認したりしていました。地震時に身を守るための練習では、机の脚をしっかりと握るなど真剣に取り組む姿が見られました。さらに、公園や家庭、登下校中など、様々な場面での身の守り方についても考え、日常に備える意識を高めました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「地震にそなえよう！～自分と家族を守るための知識～」

講師 東京都都市整備局市街地建築部建築企画課耐震化推進担当

第6学年

「地震にそなえよう～自分と家族を守るための知識～」をテーマに、防災講話や模型を使った耐震実験を通じて、災害への備えについて学びました。児童はスライドや実験映像に集中し、特に建物の耐震補強や家具の固定方法に強い関心を示していました。平成12年以前に建築された木造住宅は注意が必要であることや、震度6弱以上の地震が30年以内に高い確率で発生するという予測から、自分や家族の命を守るために今できる備えについて、真剣に考える姿が見られました。



3-11 緑ヶ丘小学校

◆ 「命」の授業

こんなとき、どうする？ ーいざというときの、自分にできることを考えるー

第6学年

避難所を運営する立場として取り組む「避難所運営ゲーム（HUG）」を行いました。

「体育館は満員」、「誰もが安全に」など様々な条件設定の中、「〇人家族」、「お年寄り」、「ペット同伴」など様々な状況の避難者を校舎のどこに誘導するか、グループごとに話し合って書き込んでいきます。「お年寄りは一階に」、「小さい子どもがいる家族は同じ部屋に」、「病気がちの人は保健室の近くの部屋に」など、子どもたちは避難者を最適な場所に誘導できるように熱心に考え、話し合っていました。

いざというとき、自分に何ができるかを考えて行動することはとても大切なことです。この授業を通して、子どもたちの共助の精神を育むこともできました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「水害から身を守るために」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第4学年

まずは東京都を流れる川「多摩川」、「野川」、「仙川」、「荒川」などについて、子どもたちが知っていることを発表し合いました。また、東京都の地図から都内にはたくさんの川が流れていることを確認しました。

次に動画を視聴し、大雨によって地下にしみ込まなかった雨水が高い所から低い所に流れることがあることや、川の水の流れが速くなったり水があふれたりすることがあること、都会の流域はコンクリートが多く、水がしみ込みにくくなっていることなどを学びました。

最後に、水害から身を守る方法について考えました。子どもたちからは、「すぐに逃げる」、「安全な場所をあらかじめ知っておく」、「防災バッグを用意する」、「大雨が降ったら、調布市のホームページなどで警戒レベルを細かくチェックする」などが出されました。

本校近くには仙川が流れ、普段は水量も少なく穏やかな川ではありますが、今後水害が起きないとは言いきれません。今回の学習により、大雨が降った際に自分自身ができる行動について、学びを深めることができました。

3-12 染地小学校

◆ 「命」の授業

ぼうさいバッグをつくろう

第3学年

「ぼうさいバッグを作る」授業を行いました。始めに、教師が市販の防災バッグを紹介し、中に入っている防災グッズを提示しながら、それぞれの役割や必要性について説明しました。子どもたちは、防災バックの中身から、災害時にどのようなものを備えておくとういかに考えるきっかけを得ました。

続いて、複数の防災グッズの中から、自分の防災バッグを作るために必要だと思うものを10個選びました。さらに、選んだ10個の防災グッズの中から3点選び、災害時に必要だと思う理由を考え、発表しました。中には、参観に来られた保護者の方と相談しながら選ぶ子どもの姿も見られました。

子どもたちにとって、身近な大人と災害について真剣に話し合い、防災について考える貴重な学びの場となりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「水害」について学ぼう

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3学年

京浜河川事務所による「水害」についての動画を視聴し、災害の大きさについての学習を行いました。近年では、地震や火災といった災害に加えて、集中豪雨や台風による河川の増水・氾濫などの水害も全国各地で多発しており、子どもたちが正しい知識と対応力を身に付けておくことが求められています。

今回は、映像教材から、多摩川の流域に住む自分たちにとって身近な水害のリスクや、その際に取りべき行動について学びました。さらにクイズを通して、「水の力の怖さ」や「避難の大切さ」を実感し、「自分の命は自分で守る」という意識をもつことができました。

学習を通じて、子どもたちは水害の仕組みや危険性を正しく理解し、日常生活の中での備えや、非常時の冷静な判断・行動の重要性についての理解を深めることができました。



3-13 北ノ台小学校

◆ 「命」の授業

身の回りのものから災害時の活用法を考える

第5学年

「災害が発生した時、身の回りのものを活用する方法を考えよう」というテーマをもとに、子どもたちが緊急時にどのように対応すれば実際に生活を営めるのか、具体的に考える学習をしました。

例えば、新聞紙を活用して災害時のスリッパを作成したり、コップの代用品を作成したりしました。保護者にも参加してもらい、子どもたちと身近なものが緊急時に役立つことを意識するよい機会となりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「まずは自助の力を身に付けて」

講師 調布消防署員

第1～6学年

東京消防庁の防災教育VR「B-VR（ビーバー）」を全学年で活用した学習をしました。実際の学校にいる時に発災したら、どのような避難行動を取ればいいのか、どこに気を付ければいいのかを学びました。

映像から伝わる恐怖や自分の生活と重ねると分かる脅威を学ぶことで、子どもたちは日ごろの学校生活から気を付けていく箇所はどこで、何に気を付けるべきなのかを学習しました。また、教室では子どもたちが映像を見ながら「自分だったらこうする。」、「きっと〇〇だと思うから」など様々な意見を出し合い、映像を見て感じたことを交流し合い、災害時の自助・共助のポイントについて具体的に理解しました。

災害については、知識として学ぶだけでなく、行動が伴って初めて避難行動がとれます。その意識を身に付けるためのよい機会となりました。

3-14 多摩川小学校

◆ 「命」の授業

こんなとき、きみならどうする？ ―自分の命を自分で守る―

第3学年

地震が発生したら、どのようなことが起こるでしょうか。「今、あなたのいる教室では?」。

教室には、蛍光灯、プロジェクタ、カーテンレール、机などのいろいろなものが、たくさんあります。大きな地震の際には「落ちてこない、飛んでこない、倒れてこない」ところで、自分の身を守ります。教室の中でそのようなところとは、自分の机の下がその一つです。机の下で避難行動をとりました。机の脚を、しっかりと押さえて机が動かないようにしているか、参観に来ている保護者のみなさんに、チェックをしていただきました。親子で防災感覚を身に付ける、よい機会となりました。



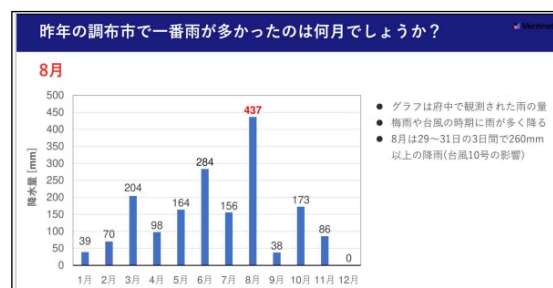
◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「TAMAGAWA×SAFTY Life」～水害から命を守る知恵～

講師 鹿島建設株式会社技術研究所職員

第5～6学年

多摩川小学校の近隣にある、鹿島建設株式会社技術研究所職員が講師に来てくださいました。講話で見るスライドは、子どもたちが日々生活をしている多摩川小学校の周辺地域の写真がたくさん盛り込まれていました。実際に水害が起きたらどうなるかなど、児童がタブレットを使って取り組むことのできる防災クイズなども活用してお話をしてくださいました。子どもたちは、なかなか想像しづらい災害時の様子を視覚的に学び、クイズを通してよく考えて答えながら、災害が起こったら、どのような行動をとったらよいのかを知ることができました。



3-15 杉森小学校

◆「命」の授業

学校の外で大地震が起きたら

第2学年

災害が発生するのは、家とも学校とも限りません。近くに大人がいるとも限りません。いつでも自分の身を自分で守るためには、避難訓練のように災害発生時を想定し、身の守り方を考えておくことが大切になります。

そこで、2年生は過去の震災の経験を踏まえ、「学校や家、通学路で地震が起きたらどうすればよいか」を考えました。まずは、学区域内のあちらこちらで考えられる危険な場所、危険な状況をグループで話しました。そして、地震が起きた場合を想定し、自分がどのような行動をとればよいかを考えました。子どもたちは、「周りをよく見て歩く」、「倒れてきそうなところには近づかない」、「家や学校など、近くの安全なところに避難する」など、グループで安全な行動を考えることができました。子どもたちに、状況に応じた身の守り方や考え方が身に付いていたらいいなと願っているところです。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「もし大地震が起きたら」

講師 調布消防署員

全学年

災害は、いつやってくるかわかりません。また、災害は地震かもしれないし、水害かもしれません。すべての子どもにとって、災害に備えるための心構えをもつこと、また、災害が起きた時に必要な行動を知ることは、自他の命を守るうえで大変重要です。このことを子どもたちに真剣に伝えることができるよう、杉森小学校では防災教育の創意工夫に努めています。

今年度は大地震が起きた際に想定される被害や命を守る行動を、東京消防庁提供の動画教材を活用して学習しました。子どもたちは、想定される地震被害を動画から学び、「自分の身は自分で守る」という心構えをもつことができました。また、「命」の授業・引取訓練や避難所開設訓練と関連付け、大災害時に自分がとるべき行動や杉森地区での災害対応の実際を見たり考えたりしました。子どもたちは、「みんなの命をみんなで守る」ことを学ぶことができました。

3-16 飛田給小学校

◆ 「命」の授業

「天気の子けん～身の回りにある危険をさがそう～」

第3学年

「雷が鳴った時はどのように身を守ればいいのか」

天気は急に変わることがあり、そんなときはどうしたらよいかについて考えました。

まず、天気が急変することを予測するための方法について考え、話し合いました。「ニュースを見る」、「雲の様子をよく見る」、「音を聞くようにする」といった意見の他にも、「大気のおいをかぐ」、「鳥の飛び方を見る」などの面白い意見もとび出し、様々な方法を知ることができました。

次に、天気が急変した時の行動の仕方について、一人一人がワークシートに書き込んでいく活動を行いました。天気の変化が激しい昨今ですが、動画から学んだキーワード「雨は足元、雷は頭」をもとに、今回の学びを実際の生活の中に生かしていこうとする意識が高まりました。

◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「その時、いのちを守るために～身の回りの危険について考えよう」

講師 調布消防署員

第6学年

「大きな災害が起きると、普段安全に生活している場所でも多くの危険な事態が発生してしまう」ということについて理解を深めるため、東京消防庁の防災教育VR「B-VR（ビーバー）」を用いて学習しました。

「教室」・「昇降口」・「家の中」の3つの場所を取り上げ、地震が起きるとどのようなことが起きるのか再現した動画を視聴しました。VRではよりリアルな様子が映し出され、行動の仕方や備えの違いで身を守れるかどうかが大きく違ってくると知ることができました。

普段見慣れた場所について、改めて見つめ直し、危ない場所はどのようなところなのか、気を付けることは何か話し合いました。「家具が倒れてこないようになっているか確かめることが大切だ」など、日頃生活している場所について見直す必要があると考えを深めることができました。



3-17 柏野小学校

◆「命」の授業

あなたならその時どうする？ 一命を守る つなぐために考えるー

第6学年

調布市消防団第9分団の団員の方を招いて、『災害時に家庭に必要な備え』について学びました。

命を守るために「3つの助け（公助・共助・自助）」があることを確認し、命を守りつなぐためには、どのように取り組んだらよいのかを考えました。授業では、一人一人が非常時用の持ち出し袋（リュックザック）にどのようなものを入れておくべきかを考え、その後グループで考えを共有しました。授業の最後に、団員の方からは、「十分な備えをすることは大切なことですが、自分の命を守ることが最優先であることを忘れないでください。」とお言葉をいただきました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「自らの命は自らが守る」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

各学年の発達段階に合わせた動画を全学年で一斉に視聴しました。自らの命を守るためには、自分の住んでいる地域ではどのような災害が起こる可能性があるかを知ること、発生時の対応・事前の備えが必要であることを学びました。学校で行っている避難訓練だけが防災や減災につながるのではなく、一人一人が自らの命を守る意識を高める必要があることを改めて確認できました。



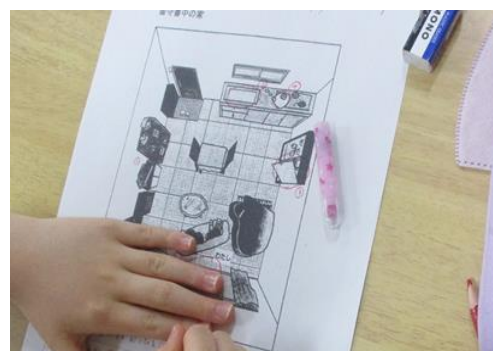
3-18 国領小学校

◆ 「命」の授業

「一人のときに地震が来たら……」—留守番時の避難行動・備え—

第4学年

2時間目は、留守番時に一人である時に大きな地震が起きたらどうするのか、その危険性や日常の備え・約束について話し合いました。「ピアノが移動して倒れてきたら危ない」、「窓ガラスが割れるから窓は開けてカーテンを閉める」、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所へ避難する」など、個人やグループで話し合った意見を学級全体で共有しました。また、「避難所まで行くのにどっちの道が安全か」についてグループや学級全体で検討し、その理由について説明し合いました。学習を通して、危険を予測して行動することや、日常から備えておくことの大切を学び、いざというときのための意識を高めることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災啓発講話・防災ワークショップ

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第5学年

1時間目は、国土交通省の動画を視聴し、多摩川で起きた過去の水害や、増水による川の様子の変化、ハザードマップの活用や避難時の注意点などについて学習しました。また、2時間目には、防災ワークショップを行いました。災害でけがをしてしまった時に、身の回りにあるものを活用して、臨機応変にできる応急手当が必要になりますが、今回は、包帯を使って頭部や腕を負傷した場合の応急手当について学びました。

防災啓発講話や防災ワークショップを通して、改めて地震や水害の怖さを知り、防災に関する正しい知識を身に付け、正しく判断・行動することが自分や家族の命を守ることにつながることを学びました。



3-19 布田小学校

◆ 「命」の授業

安全な避難の仕方を知ろう

第1学年

1年生は、初めての避難訓練なので、避難の仕方の学習をしました。地震が発生した際に、どの道順で避難をするか、どう対応すればよいか考えました。また、自分たちの命を守るための「ダンゴムシのポーズ」、「おさるのポーズ」、「アライグマのポーズ」の3つのポーズを学びました。授業後の感想から、頭を守る行動をとることの大切さ、自分の身を自分で守ることの大切さに気付いた様子が見られました。その後、学んだことを生かし、実際に防災頭巾をかぶり整列しました。避難する際は、「お・か・し・も」の約束を守り冷静に行動することができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

通学路で地震がおきたら

講師 調布消防署員

第6学年

通学路で歩いている時に大地震が起きた場合に、どうすればよいかということについて考えました。まず、東京消防庁の防災教育VR「B-VR（ビーバー）」の映像を見てどのような被害が起きているのかを読み取りました。次に、どんな危険が潜んでいるのかを想定し、どのように被害が広がっていくのかを、学級全体で共有しました。地震発生時に予想される被害や困ることについて意見を出し合い、そこから、自分たちの大切な命を守るために取るべき行動について全体で意見の交流をしました。「自分の身を守る行動を取る」と、いざという時のための防災意識を高めることができました。



3-20 調和小学校

◆ 「命」の授業

大地震が発生した時の身の守り方を考えよう ～B-VRを活用して～

第3～6学年

東京消防庁が作成した防災教育VR「B-VR」を活用して、教室で地震が起きた時に、どのようなことに注意し、行動すればよいかを考え、話し合いました。

今年度は、3年生が「教室」、4～6年生は「図書室」の映像を見ました。大地震が起きるとどのようなことが起こり得るのか予想するとともに、日頃の避難訓練の経験を基に「避難時に必要な行動」を出し合いました。その後、経験したことのない大きな揺れの様子をB-VRで確認しました。机が激しく揺れ倒れたり、蛍光灯が落ちたり、本が流れ落ちてくるなど、その様子に児童は驚き、危機意識を高めていました。

また、映像を視聴後にもう一度避難時の行動を振り返ったことで「頭上などにも気を付けないといけないと思った」、「日頃から物を固定しておくなど、できることをしておく必要がある」など、防災への意識や避難時の行動を一層深めることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災啓発講話

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

京浜河川事務所による、「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」についての動画を視聴しました。過去に起きた多摩川の水害の被害や洪水の特性を知り、改めて水害の怖さを知りました。

動画の中では、大雨の時の適切な行動についても話していただき、自宅にいる時の行動や備えについても理解を深めました。

本校は、学校の隣を野川が流れており、大雨の際には川が増水します。また、調布市洪水ハザードマップでも、自宅が浸水予想区域内になっている児童もいます。今回の講話で児童の危機意識を高め、適切な行動を学ぶよい機会となりました。

3-21 調布中学校

◆「命」の授業

生命の尊さ、自他の生命を尊重する

全学年

1年生は、東日本大震災で家族を失った体験に基づき、震災を語り継ぐことで失った家族への思いや周囲の人とのつながりを学びました。2年生は、「生きている」、「生きる」ことについて自分の経験を振り返り、一生懸命になることはかけがえのない大切なことであり、「生」のありがたみについて考えました。3年生は、自分は「選ばれた命」であり「命には終わりがある」ことを知ることでこれからの生き方を考える機会となり、8組（特別支援学級）では東日本大震災から防災について深く考え、「今の自分にできること」は何か、「どうすればよいのか」など方策を考えるきっかけとなりました。

各学年、学級で「命の尊さ」について深く考え、自分の生き方や周囲の人々の命について意識を高めることができた授業になりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

災害からの安全確保と地域防災

講師 東京都立清瀬特別支援学校主幹教諭 常松 浩三郎 氏

全学年

昨年度まで本校で勤務されていた常松 浩三郎先生をお招きしてお話を伺いました。「もし富士山が噴火してしまったら、どのような被害があるか」から始まり、災害は身近なところに潜んでいることや地震火災、そして「感染症」も災害の一部であることなど、盛りだくさんの内容でした。そして最後に、日頃から避難訓練などの防災の取り組みに対して、自分ごととして捉え、真剣に自発的に取り組むことの大切さを語られました。防災について多くのことを、学び考えさせられる時間となりました。



3-22 神代中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

1年生は、「ひまわり」という教材から、当たり前の日常や家族の大切さについて目を向け、命の有限性やかけがえのなさについて考えることができました。2年生は、「命が生まれるそのときに」という教材から、出産について考える中で、必死に生きる姿の尊さ、周囲への思い、自分との関わり等さまざまな角度から考えることができました。3年生は、『「きみは赤ちゃんより」』という教材から、生まれた子への母親の思いを知り、自分自身や自分の周りにも目を向けて命について考えました。11組（特別支援学級）では、「実際に震災が起こったら、自分たちに何ができるか」、「何を大切にするか」など、身近な生活の問題から課題設定し、命の大切さを考えました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

消火器訓練・放水訓練・煙体験訓練

講師 調布消防署員

全学年

全学年で「消火器訓練」と「放水訓練」と「煙体験訓練」活動を行いました。消火器訓練・屋内消火栓による放水訓練では、「火事だ!」と周りに大きな声で伝えることが重要だと教えていただきました。はじめは、大きな声を出すことを恥ずかしがる様子もありましたが、消防署の方に指導いただくうちに大きな声を出し消火器を用いて消火する活動ができました。煙体験訓練では、まず火災による煙の恐ろしさや回避する方法、自分で自分の身を守る大切さを教わりました。その後、実際に一人一人煙体験ハウスの中に入りました。普段はできない3つの体験を通して、全生徒が防災について深く考える機会になりました。



3-23 第三中学校

◆「命」の授業

命の尊さ, 大切さを考える授業

第2学年

「命が生まれるそのときに」という教材を使用し, 命の大切さについて考えました。高校2年生の時に阪神・淡路大震災を経験した繁延さんの経験を聞いた生徒は, 「今, 平和で当たり前のように暮らせていることが普通でないということが分かった」といった感想が多くあり, 命のありがたさについて理解を深めました。また, 出産の写真を撮る繁延さんの現在の仕事から, 妊婦さんが必死に痛みを耐え, 命がけで子どもを出産する姿を知り, 命の誕生についても考えました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災に関する講話・体験

講師 調布警察署員

全学年

調布警察署警備課の職員を招き, 防災に関する講話を, 実技を交えて実施しました。前半は映像を使用し, 防災への備えについて学習しました。家具を転倒防止対策で固定した時と固定しなかった時では全く被害の大きさが違うことを知り, 多くの生徒が驚いていました。後半は代表生徒が搬送訓練を行いました。要救助者の運び方について実技を通して体験することができました。80キロ近くある大人を1年生が毛布で持ち上げるなど生徒にとってとても良い経験になりました。



3-24 第四中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

命の尊さについて考えを深めることをねらいとして、震災を題材にした教材を用いて対話的な学習による道徳の授業を行いました。

1年生：「ひまわり」

2年生：「命が生まれるそのときに」

3年生：「あの日 生まれた命」

映像資料やモバイル端末を活用しながら、教師からの発問を基に、生徒たちからの生きることの大切さや命の重さの意見についてグループ協議をし、自分の考えを深めることができました。

生徒の感想には、「一日一日を大切にしたい。」、「生きていることに感謝して生活をしていきたい。」、「改めて親へ感謝したいです。」など、学年ごとに題材は異なるものの、自分事として捉え、それぞれ命の尊さについて考えを深めていました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防火防災に関する講話・訓練

講師 調布市教育委員会会計年度任用職員 岩館 聖恵 氏

全学年

今年度は、近隣施設である東部公民館から講師をお招きし、『津波にあった家族と故郷「釜石市」～東日本大震災を振り返って～』と題した講演を聞きました。2011年3月11日に岩手県釜石市で被災されたご両親の体験談や津波の恐ろしさを、実際の映像を交えながら話されました。「津波から守るものは、物より思い出より、まずは命。」という言葉が印象的でした。生徒も真剣に聞いていました。また、避難訓練では、首都直下型の地震を想定して経路確認、避難訓練を実施しました。全員が真剣に取り組み、自分たちの住む地域と災害を関連させて考えることで、防災意識の向上につながる一日になりました。

引取訓練後、全学年対象(任意)で避難所体験を実施し、有事の際の対応を体験しました。



3-25 第五中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

1年生は、日本大震災で家族を失った佐々木清和さんが、失意の中、阪神・淡路大震災の復興のシンボルである「はるかのひまわり」を知り、家族を失った悲しみから立ち上がる話から、命の大切さについて考えました。2年生は、出産を撮影するフォトグラファーの繁延さんの文章や写真を通して、「生きている」ことの尊さについて考えました。3年生は、論語「天を恨まず」を読んで、かけがえのないものを失ったときに、どのように受け止め、どのように生きていけばよいのか、結論は出なくとも、決然と生きている人々がいることを知る機会とし、自他の生命を尊重することについて考える時間となりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防火防災に関する講話・訓練

講師 調布消防署員・国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員 全学年

1年生は、調布消防署の職員を招き、まちかど防災訓練車による放水体験を行いました。生徒は初めての体験で、手探りな様子でしたが、消防士から教わりながら積極的に消火活動を行うことができました。実際の消火栓ホースを触る機会にはめったにないので、生徒にとって貴重な体験となりました。

2～3年生は、京浜河川事務所の方による防災啓発講話の動画を視聴しました。河川の氾濫の危険性について、様々な視点から学びを深めることができました。



3-26 第六中学校

◆ 「命」の授業

生命の尊さ

全学年

1年生「ひまわり」 東日本大震災体験者の語り部の話

2年生「命が生まれるそのときに」 出産の瞬間のお母さんの思い

3年生「焼けた空」 東京大空襲体験者の思い

各学年、命の尊さをテーマに、自分自身のことと比較しながら深く考えることができました。

～生徒 授業振り返りより～

- たくさんの人に支えられながら生活していることを心の中に入れ、伝えられることを言葉で伝えていきたい。
- 震災などで命を落としてしまう人がたくさんいる中で、私が今を生きていられることに感謝し、幸せを感じながら毎日を大切に生きていきたいと思いました。
- 今、学校に行くことができたり、ご飯が食べられたり、家があって家族がいるということは本当に幸せなことだと感じました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

震災時の動画視聴・「障がい者の避難」に関する講話

講師 NPO法人 ちょうふの風 施設長 嶋田 浩一 氏

全学年

各教室にて東日本大震災当時の様子を視聴し、防災の意識や必要な行動などを確認しました。また地域のNPO法人の講師から、障がいのある方が避難する際の困難さや、避難所でともに過ごす際に気を付けてもらいたいことなどについて理解を深めました。

避難所体験では災害に対して「正しい知識を持つこと」、「準備をすること」や、自分事として考えていくことが大切だと実感する機会となりました。



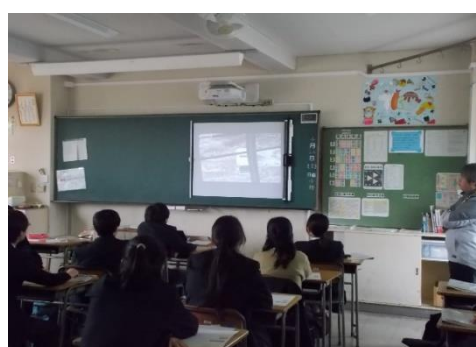
3-27 第七中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

各学年、「生命尊重」をテーマにした読み物資料を用い、道徳の授業を実施しました。1年生は阪神淡路大震災のボランティアに参加し、東日本震災で被災し娘を津波で亡くした方の『ひまわり』という読み物、2年生は、地域防災をテーマにした『わが町の消防団』という読み物、3年生は、東日本大震災の当日に生まれた子のお話『あの日生まれた命』という読み物で、それぞれ命の大切さや地域防災、地域への貢献について考えました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災と災害への備え、救助に関する講話・訓練

講師 自衛隊東京地方協力本部 府中分駐所 所長 内田 貴洋 氏 全学年

自衛隊府中分駐所の所長から、防災と救助に関する講話、特に地震災害に向けての備えについて、生徒への質問なども交えて講話をしていただきました。発災時は自助と共助が大切であり、公助がなかなか来られない状況で、中学生も共助の中でどのような関わりができるかなどの具体的なお話がありました。いざ、という時を考え生徒たちも真剣に聞き入っていました。自分たちができることをしっかりとやっていくことの大切さを学ぶことができました。はしうち教室は、本校での講話を録画し、2校時の時間に視聴・学習しました。



3-28 第八中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業

全学年

各学年、東日本大震災の内容をもとに特別の教科道德の授業を実施しました。

現在の中学生は、2011年東日本大震災発生当時の記憶はほとんどありません。しかし、毎年の防災教育の日に、様々な資料を通して当時の様子や当時被災した方々の気持ちに触れ、命の尊さ大切さについて考えています。

- ・「あたりまえの日々を送っている今日がとても尊い時間だと感じた」
- ・「年齢が進むにつれておろそかになっていた家族と交わすあいさつをもっと大切にしたい」
- ・「人それぞれ様々な思いをもって生活しているので相手のことを考えられる人になりたい」
- ・「中学生は地域を支える人として行動できるようになりたい」

生徒が書いたワークシートには自分の命、身近な人の命、そして世界中の人々の命について考え、「今を大切にする」ということが記されていました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災啓発講話(動画視聴)

講師 調布消防署員

全学年

各教室にて調布消防署作成の防災啓発講話を視聴し、防災の意識や家庭での必要な準備などを確認しました。日常生活において、災害への対策の正しい知識を身に付けること、起こるかもしれないという気持ちではなく、起こった時には自分がどう行動するかを考え、準備することが一番大切な取組であることを再確認しました。

避難訓練・引取訓練では保護者の方の御協力のもと、計画的に実施することができました。また、避難所体験では災害に対して「正しい知識を持っていること」、「準備すること」そして他人事ではなく、自分が当事者として考えていくことが大切だと実感する機会となりました。



〔資料〕

令和7年度 各学校実施内容(1～3校時)



VR防災体験車による震災疑似体験（八雲台小学校）

令和7年度 各学校実施内容(1～3校時)

各学校の実施内容を一覧でまとめています。

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
第一小学校	通常授業 1～2年 ひまわり学級 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 3～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 ひまわり学級 @各教室	
第二小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 3年 @各教室（動画視聴） 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 4年 @各教室（動画視聴） 「命」の授業 5年 @各教室 災害用伝言ダイヤル171 体験 講師：東日本電信電話株式会社（現NTT東日本株式会社） 東京武蔵野支店職員 6年 @体育館	「命」の授業 1～4, 6年 @各教室 起震車体験 講師：調布消防署員 5年 @中庭	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長または副校長 保護者による引取訓練
第三小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 3～4年 @各教室（動画視聴） 通報訓練，ロープワーク訓練，担架作成・搬送訓練 講師：調布消防署員 5～6年 @体育館	「命」の授業 1～6年 @各教室	

学校名	1 校時目	2 校時目	3 校時目
八雲台小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～5年 @各教室 V R 防災体験車による震災疑似体験 講師：調布消防署員 6年 @校庭	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長または副校長 保護者による引取訓練
富士見台小学校	各学年と交流授業 かしわ学級 @各実施場所 通常授業 1～2年 @各教室 避難所運営について 3年 @防災倉庫の前 防災啓発講話 テーマ：日本で起きている地震について知る 講師：上田 啓瑚 氏 （国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災研究領域防災情報研究部門 総合防災情報センター） 4～6年 @体育館	「命」の授業 1， 5～6年 かしわ学級 @各教室 「命」の授業 （防災教育V R「B－V R（ビーバー）」（東京消防庁）） 2年 @各教室 「命」の授業 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 4年 @各教室（動画視聴） 通常授業 3年 @各教室	
滝坂小学校	通常授業 1年 わかくさ学級 @各教室 「命」の授業 2～3， 5～6年 わかくさ学級 @各教室 「命」の授業 （防災教育V R「B－V R（ビーバー）」（東京消防庁）） 4年 わかくさ学級 @各教室	「防災啓発授業」 1， 3， 5～6年 わかくさ学級 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 2， 4年 わかくさ学級 @各教室（動画視聴）	

学 校 名	1 校 時 目	2 校 時 目	3 校 時 目
深大寺小学校	「防災に関する授業」 (防災ノート活用) 1～3, 5～6年 @各教室 「防災に関する授業」 (消火器訓練) 講師：地域学校協働本部, 元消防団分団員 4年 @校庭	「命」の授業 (非常食調理・喫食体験) 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長または副校長 保護者による引取訓練
上ノ原小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 3～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～2, 5～6年 @各教室 「命」の授業 (防災教育VR「B-VR (ビーバー)」(東京消防 庁)) 3～4年 @各教室	
石原小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	
若葉小学校	「命」の授業 1, 3, 5, 6年3～5 組 @各教室 防災啓発講話 講師：調布消防署員 2, 4年 @各教室（動画視聴） 耐震出前授業 講師：東京都都市整備局 市街地建築部建築企画課 耐震化推進担当 6年1～2組 @各教室	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1, 3, 5年 @各教室（動画視聴） 「命」の授業 2, 4, 6年1～2組 @各教室 耐震出前授業 講師：東京都都市整備局 市街地建築部建築企画課 耐震化推進担当 6年3～5組 @各教室	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
緑ヶ丘小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長または副校長 保護者による引取訓練
染地小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	
北ノ台小学校	「命」の授業 1～6年 たんぽぽ学級 @各教室	通常授業 1～2年 たんぽぽ学級 @各教室 防災啓発講話 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 3～6年 @各教室	
多摩川小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1，4年 たまがわ若木学級 @各教室（動画視聴） 講師：調布消防署員 2～3年 @各教室（動画視聴） 水害に関する授業 講師：鹿島建設株式会社技 術研究所職員 5年 @各教室 「命」の授業 6年 @各教室	「命」の授業 1～5年， たまがわ若木学級 @各教室 防災啓発講話 テーマ：水害について 講師：鹿島建設株式会社技 術研究所職員 6年 @各教室	

学校名	1 校時目	2 校時目	3 校時目
杉森小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長または副校長 保護者による引取訓練
飛田給小学校	防災啓発講話 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 1～6年 @各教室	「命」の授業 1～6年 @各教室	
柏野小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	
国領小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	
布田小学校	通常授業 1～2年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3，5年 @各教室（動画視聴） 防災啓発講話 （防災教育VR「B－VR （ビーバー）」（東京消防 庁）） 4，6年 @各教室	「命」の授業 1～6年 @各教室	

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
調和小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～2年 @各教室 「命」の授業 （防災教育VR「B-V R （ビーバー）」（東京消防 庁）） 3～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長または副校長 保護者による引取訓練
調布中学校	防災啓発講話 テーマ：日頃からの防災意識の向上と防災に対する備え 講師：常松 浩三郎 氏 （東京都立清瀬特別支援学校主幹教諭） 1～3年 @体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	
神代中学校	煙体験訓練，消火器体験，放水体験 講師：調布消防署員 1～3年 @校庭	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第三中学校	防災啓発講話 講師：調布警察署員 1～3年 @第1体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	
第四中学校	防災啓発講話 テーマ：津波にあった家族と故郷「釜石市」～東日本大震災を振り返って～ 講師：岩館 聖恵 氏 （調布市教育委員会会計年度任用職員） 1～3年 @体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	

学校名	1 校 時 目	2 校 時 目	3 校 時 目
第五中学校	「命」の授業 1 年 @ 各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 2 ～ 3 年 @ 各教室（動画視聴）	まちかど防災訓練車による 消火訓練 講師：調布消防署員 1 年 @ 校庭 「命」の授業 2 ～ 3 年 @ 各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長または副校長 保護者による引取訓練
第六中学校	防災啓発講話 テーマ：障がい者の避難所 利用について 講師：嶋田 浩一 氏 （NPO法人ちょうふの風 施設長） 1 ～ 3 年 @ 各教室（ライブ配信） 震災時の仙台空港の様子と 津波の動画視聴 1 ～ 3 年 @ 各教室（動画視聴）	「命」の授業 1 ～ 3 年 @ 各教室	
第七中学校	防災啓発講話 テーマ：災害に対する備え と行動 講師：内田 貴洋 氏 （防衛省自衛隊東京地方協 力本部府中分駐所長） 1 ～ 3 年 @ 体育館	「命」の授業 1 ～ 3 年 @ 各教室	
第八中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1 ～ 3 年 @ 各教室（動画視聴）	「命」の授業 1 ～ 3 年 @ 各教室	

刊行物番号
2025-88

**令和7年度
調布市防災教育の日 実施結果報告書**

発行日 令和7年8月

発行 調布市教育委員会

編集 調布市教育委員会教育部教育総務課

〒182-0026 調布市小島町2-36-1

電話 042-481-7465

印刷 庁内印刷